

科目名			区分	
心理学			(基礎) ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ (後期) ・ 通年	30 (1)	(講義) ・ 演習 ・ 実習	非常勤講師(※1)

<授業概要> 人の心は直接目で見るできないと言われる一方、他人の痛みや苦しみを自分のことのように感じることもある。心を知る方法について、様々な視点から考えてみたい。 <授業目標(GIO)> 心理学の基礎を学ぶ。 <行動目標(SBO)> 考える力を身につける。 <授業の留意点> 自分自身や家族や友人などの場合についても、具体的に考えられるようになること。 <教科書> ・プリント配布 <参考書>	授業計画		備考
	1	知覚(経験)と科学	
	2	知覚を説明する概念	
	3	錯覚または知覚の両義性	
	4	知覚の優位性と意味や価値	
	5	行動のとらえ方と学習	
	6	条件反射と古典的学習	
	7	オペラント学習	
	8	観察学習と洞察学習	
	9	心理テスト 実習	実習
	10	心理テスト 解釈	実習
	11	性格のとらえ方	
	12	性格と役割	
	13	無意識と発達	
	14	ストレスと健康	
	15	生活習慣を見直す	
	16	定期試験	
	成績評価		
	筆記試験・レポート100%		

※1 精神保健福祉士として病院で実務経験32年以上

科目名			区分	
倫理学			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	非常勤講師

<授業概要> ・倫理学の本質を理解し、倫理的に思考する力を身につける ・種々の問題に対して自ら考えることの意義を理解する ・自らの考えを文章にして表現する能力を養う <授業目標(GIO)> 倫理的問題に対処するために必要な論理的思考能力を養う。 <行動目標(SBO)> ・倫理的問題の特徴を理解して行動できる ・論理的思考力を身につける ・種々の問題に対して、己の立場を明確にし、表現することができる <授業の留意点> ・身近な価値判断や倫理的問題に興味を持ち、自ら考えるようにしておくこと。 <教科書> 『現代倫理学入門』(講談社学術文庫) <参考書>	授業計画		備考
	1	嘘をつくこと(教科書第1節)	講義
	2	功利主義(2節)	講義
	3	薬の配分方法(3節)	講義
	4	エゴイズム (4節)	講義
	5	幸福の計算 (5節)	講義
	6	判断能力と価値判断 (6節)	講義
	7	価値判断と事実判断(7節)	講義
	8	正義の原理 (8節)	講義
	9	思いやりからの道徳 (9節)	講義
	10	囚人のジレンマ (10節)	講義
	11	愚行権 (11節)	講義
	12	貧しい人への義務 (12節)	講義
	13	未来の人への義務(13節)	講義
	14	正義の変化 (14節)	講義
	15	科学の限界 (15節)	講義
	16	・定期試験	
成績評価			
定期試験(小論文)80%、レポート20%			

科目名			区分	
生物学			基礎・専門基礎・専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期・後期・通年	30 (1)	講義・演習・実習	非常勤講師

授業概要		授業計画	備考
<授業概要> 生物学は、医学や工学、化学などの他分野と密接に係わりながら現在も進展している。この授業では、私達ヒトを含む生命の基本単位である細胞の構造や、細胞を構成する化学物質、細胞活動を支えるエネルギー、親から子へと細胞の特徴を伝える遺伝子の構造と遺伝子発現の基本的な仕組みなど、生命を理解するための基礎を講義し、生物学の基礎を学ぶ。 <授業目標 (GIO)> 生命の基本単位としての細胞の種類や構造を理解し、細胞を構成する化学物質の基本構造や働きを基礎を理解する。これらを通して、遺伝のしくみや細胞の増殖、生殖と発生など、生物学の基礎を理解 <行動目標 (SBO)> 以下の項目について、基礎的な内容を理解し、説明できる。 (1) 真核細胞の構造と機能。 (2) 細胞を構成する化学成分。 (3) 栄養素とエネルギー生産 (4) 細胞の増殖 (5) 遺伝子と遺伝子発現の仕組み <授業の留意点> 授業では、教科書を参照しながらスライドを用いて説明する。「分かったつもり」にならず、説明内容をノートに取る。また、適宜評価対象となる課題(レポートなど)を出すので、真面目に取り組んで提出して下さい。 <教科書> 系統看護学講座 基礎分野 生物学(医学書院) <参考書> 高校の生物や化学の検定教科書。 Essential細胞生物学(中村桂子他訳、南江堂)		1 授業ガイダンス 生命体のつくりと働き	講義
		2 真核細胞とその構造	講義
		3 細胞の化学成分 (1) 溶液と体液、タンパク質	講義
		4 細胞の化学成分 (2) 遺伝物質 (DNAとRNA)	講義
		5 細胞膜と、細胞膜を通した物質の輸送	講義
		6 生体維持のエネルギー ATPとその合成	講義
		7 細胞の増殖 細胞周期、体細胞分裂と減数分裂	講義
		8 セントラルドグマ: 遺伝情報とその伝達・発 (1) 染色体とDNA、DNA複製	講義
		9 セントラルドグマ: 遺伝情報とその伝達・発 (2) RNA合成とタンパク質合成	講義
		10 生殖と発生 (1) 無性生殖と有性生殖、配偶子形成	講義
		11 生殖と発生 (2) 授精、卵割、胚葉形成	講義
		12 ヒトを構成する12の器官系	講義
		13 神経系と神経系の情報伝達	講義
		14 異物特異的反応と排除のしくみ 免疫反応の基礎	講義
		15 授業の総まとめ	講義
		16 期末試験	
成績評価			
期末試験80%、課題問題20%			

科目名			区分	
基礎力学			基礎・専門基礎・専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期・後期・通年	30 (1)	講義・演習・実習	専任教員(※1)

<授業概要> 将来の専門分野領域を理解するための基礎知識を学ぶ。また、運動学や解剖学と関連させて理解していく。	授業計画		備考
<授業目標(GIO)> 人が動くとは何か？どうやって動いているのか？を理解するための礎を築くことを目標とする。	1	オリエンテーション	講義
	2	生体力学の基礎 力の合成と分解	講義
	3	生体力学の基礎 ベクトルの計算	講義
	4	生体力学の基礎 モーメント	講義
	5	生体力学の基礎 モーメント	講義
	6	生体力学の基礎 モーメント	講義
<行動目標(SBO)> ・数学の概念を応用できる。 ・運動学を力学からの視点で学ぶ力をつける。 ・解剖学、運動学とを関連して学ぶ力をつける。	7	生体力学の基礎 身体とてこ	講義
	8	生体力学の基礎 身体とてこ	講義
	9	生体力学の基礎 身体とてこ	講義
	10	生体力学の基礎 重心	講義
<授業の留意点> 今後、の専門基礎や専門科目の授業を理解するためには必須となる。また、運動学との関連を含めて授業を進める。	11	生体力学の基礎 重心の求め方	講義
	12	生体力学の基礎 滑車	講義
	13	練習問題	講義
<教科書> ・資料プリントを配布する。	14	練習問題	講義
<参考書> ・基礎運動学(医歯薬出版) ・プロメテウス解剖学アトラス(医学書院)	15	練習問題	講義
	16	定期試験	
	成績評価		
筆記試験:100%			

※1 理学療法士として病院及び介護老人保健施設で実務経験8年以上

科目名			区分	
情報処理 I			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 演習 ・ 実習	非常勤講師

<授業概要> 企業のパソコン利用率は99%超え、業種・職種を問わずパソコンスキルは今やあらゆる企業で必要なスキルとなり、就職活動やレポート提出等には欠かせないツールとなっている。当授業ではWindowsの基礎、フォルダ・ファイル構造を習得し、最新版のWord2016を使用した実践形式による文章作成方法を習得を学ぶ。 <授業目標 (GIO) > ●Word2016の効率的な操作方法を習得する。 ●パソコンの基礎、フォルダ・ファイル管理方法を習得する。 ●Word3級程度の技能を習得するので、希望者は資格を取得することができる。 <行動目標 (SBO) > ●高度情報化社会におけるパソコンのあり方を理解しパソコンを身近な道具として使える技能を習得する。 ●コンピュータやインターネットの仕組みを理解すると共に将来必要となるパソコンスキルの必要性を理解する。 ●文書作成の基礎から応用を学び書式を整えた、適切な文章作成や編集が行える。 ●Word文章処理技能認定試験3級(ビジネス能力検定)取得のための技能を習得する。 <授業の留意点> 操作指示と異なる内容(関係の無いサイトの閲覧など)に講じた場合は、即退出させ欠席扱いとする。 理解が早い生徒に関しては上位資格の試験対策を行います。 <教科書> 30時間でマスター Office2016 Word文書処理技能認定試験3級問題集【2016対応】 <参考書> オリジナルテキスト	授業計画		備考	
	1	Windows10の基礎と基本操作方法 フォルダ、ディレクトリ構造	講義	演習
	2	Word2016の基本、Wordの画面構成、画面操作入力	講義	演習
	3	Word文章作成、日本語入力システム、文字の入力と変換、保存、編集とコピー、移動など ページ設定、文字の書式設定	講義	演習
	4	Wordの活用 編集、表の編集、ビジュアルな文章の作成	講義	演習
	5	Wordの活用 ページ罫線、クリップアート	講義	演習
	6	Word文書処理技能認定試験対策 実践練習問題1と2と解説 ビジネス文章作成	講義	演習
	7	Word文書処理技能認定試験対策 実践練習問題3と4と解説 ビジネス文章作成	講義	演習
	8	Word文書処理技能認定試験対策 実践練習問題5と6と解説 ビジネス文章作成	講義	演習
	9	Word文書処理技能認定試験対策 実践練習問題7と8と解説 ビジネス文章作成	講義	演習
	10	Word文書処理技能認定試験対策 実践練習問題9と10と解説 ビジネス文章作成	講義	演習
	11	Word文書処理技能認定試験対策 模擬問題1と2と3と解説 ビジネス文章作成	講義	演習
	12	Word文書処理技能認定試験対策 模擬問題4と5と6と解説 ビジネス文章作成	講義	演習
	13	試験対策	講義	演習
	14	個人情報漏洩問題、情報セキュリティマネジメント	講義	演習
	15	個人情報漏洩事件の実例と対策 損害賠償や訴訟	講義	演習
16	定期試験		演習	

成績評価	
実技試験100%	

科目名			区分	
情報処理Ⅱ			基礎・専門基礎・専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期・後期・通年	30 (1)	講義・演習・実習	専任教員(※1)

授業概要		授業計画		備考
<授業概要> 表計算ソフトExcel2016を使用した実践形式による表計算作成の基礎から応用までの習得を行う。また、近年各企業が重要視している個人情報保護についても適切な取扱いや情報漏洩の仕組みを理解し、加害者にならないよう基本知識の習得と個人情報を取り扱っているという意識向上を目指す。		1	Excel2016 データ入力の基礎、ファイル保存、読込	講義 演習
		2	Excel2016 ワークシート編集、書式設定	講義 演習
		3	オートSUMボタンの利用	講義 演習
		4	関数の挿入	講義 演習
<授業目標(GIO)> Officeアプリケーションの特徴を理解し、目的の資料がスムーズに作成できる知識を習得する。また、将来取扱う患者のカルテなどの個人情報の重要性を理解し適切に取扱うことができる人材や情報リテラシー能力向上を目指す。		5	グラフ、データベース機能	講義 演習
		6	Excel表計算処理技能認定試験対策 練習問題1と2、解説 ビジネス表計算シート作成	講義 演習
		7	Excel表計算処理技能認定試験対策練習問題3と4 ビジネス表計算シート作成	講義 演習
		8	Excel表計算処理技能認定試験対策 練習問題5と6、解説 ビジネス表計算シート作成	講義 演習
<行動目標(SBO)> ●高度情報化社会におけるパソコンのあり方を理解しパソコンを身近な道具として使えるように、コンピュータリテラシーを身につける。 ●個人情報漏洩の原因やリスクを理解し漏洩を防ぐポイントを理解する。 ●関数や統計処理、データベース管理など応用的な内容を身につける。 ●Excel3級程度の技能を習得するので、希望者は資格を取得することができる。		9	Excel表計算処理技能認定試験対策 練習問題7と8、解説 ビジネス表計算シート作成	講義 演習
		10	Excel表計算処理技能認定試験対策 練習問題9と10、解説 ビジネス表計算シート作成	講義 演習
		11	Excel表計算処理技能認定試験対策 模擬問題1と2、解説 ビジネス表計算シート作成	講義 演習
		12	Excel表計算処理技能認定試験対策 模擬問題3、解説 ビジネス表計算シート作成	講義 演習
<授業の留意点> 操作指示と異なる内容(関係の無いサイトの閲覧など)に講じた場合は、即退出させ欠席扱いとする。 理解が早い生徒に関しては上位の試験対策を行います。		13	Excel表計算処理技能認定試験対策 模擬問題4、解説 ビジネス表計算シート作成	講義 演習
		14	Excel表計算処理技能認定試験対策 模擬問題5、解説 ビジネス表計算シート作成	講義 演習
		15	Excel表計算処理技能認定試験対策 模擬問題6、解説 ビジネス表計算シート作成	講義 演習
		16	定期試験	演習
<教科書> 30時間でマスター Office2016 Excel表計算処理技能認定試験3級問題集【2016対応】		成績評価		
		実技試験:100%		
<参考書> オリジナルテキスト				

※1 作業療法士として病院及び介護老人保健施設等で実務経験19年以上

科目名			区分	
統計学			(基礎) ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	(前期) ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	(講義) ・ (演習) ・ 実習	非常勤講師

<授業概要> ・保健体育関係のデータを用い、資料の図的表示の方法、代表値、標準偏差による数値での表現方法及びその計算による求め方を学ぶ。 ・正規分布の基本的特性を割合計算を通して学ぶ。 ・標本調査の作業を通し、統計的仮説検定の基本的な考えを学ぶ。 <授業目標(GIO)> ・保健領域における各資料の適切な取り扱いができるようにするため、統計の基本的考えについて身に付ける。 <行動目標(SBO)> ・資料を図表に表すことができる。 ・資料の代表値、標準偏差を求めることができる。 ・正規分布から目的のデータを読み取ることが出来る。 ・標本調査ができる。 ・平均値の統計的仮説検ができる。 <授業の留意点> ・講義を聞くという受け身の姿勢ではなく、図表作成、電卓操作、資料統計のデータ作り等の作業に取り組むことで統計の基礎を身に付けさせる。 <教科書等> ・自作資料 ・電卓、コンパス、分度器、物差し <参考書> ・看護学生のための統計学 ・PT・OTのための統計学入門(三輪書店) ・統計解析のはなし(日科技連出版社) ・基本統計学 (東洋経済新報社)	授業計画		備考
	1	・オリエンテーション 年間授業計画と単位認定の方法 ・基礎知識の実態調査実施及び解説	講義・演習
	2	・代表値の1つ平均値が持つ利点と限界を考える ー 平均値と度数分布 ー	講義・演習
	3	・相対度数の求め方と度数折れ線の表わし方	講義・演習
	4	・データの散らばりの程度を表す数 “標準偏差” と他の代表値 “中央値及び最頻値”	講義・演習
	5	・データを円・帯グラフによって表す方法 *第一回レポート提出	講義・演習
	6	・データの比較のための帯グラフ活用法 ・統計を学ぶ必要性について考える	講義・演習
	7	・2つのデータの関連性をみる散布図の表し方 ・グラフ活用の利点と留意点を考える	講義・演習
	8	・新聞、ニュースに出てくる統計数値の読み解き方 *第二回レポート提出	講義・演習
	9	・正規分布とはどういうものか、その特性を知る	講義・演習
	10	・正規分布を標準化し集団の割合を求める	講義・演習
	11	・標本調査とは何か 模擬実験	演習
	12	・標本平均値の性質	講義・演習
	13	・平均値の統計的仮説検定のやり方 その1	講義・演習
	14	・統計的仮説検定 その2 *第三回レポート提出	講義・演習
	15	・新聞、ニュースに出てくる統計数値の読み解き方 その2	講義・演習
	16	定期試験	
成績評価			
筆記試験80%、課題レポート20%			

科目名			区分	
統計学演習			(基礎) ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ (後期) ・ 通年	30 (1)	講義 ・ (演習) ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 医学系とくにリハビリ領域における研究にて用いられる統計学的手法について学ぶ。例題をもとに電卓や統計ソフトを使用した簡単な統計学的手法を実践する。また統計手法を用いた論文を読んで結果の解釈方法を考える。 <授業目標(GIO)> 理学療法の実践に必要な統計学の知識を身につける <行動目標(SBO)> 統計学的手法の目的と意義を述べるができる データの正確な入力と整理ができる 統計学の基礎となる知識を理解できる 統計学的手法の結果を解釈することができる <授業の留意点> ・講義ではデータ処理にて数を扱うが、数字に対して苦手意識を持たず取り組むこと。 ・「なぜ、このような統計学的手法が必要なのか」という意識を持ちながら授業に臨むこと。 <教科書> 対馬栄輝他『リハビリテーション統計学』中山書店 <参考書> 渡邊宗孝他『PT・OTのための統計学入門』、三輪書店 杉山高一他『保健・医療を学ぶ人のための統計学』純文社 対馬栄輝『SPSSで学ぶ医療系データ解析』東京図書	授業計画		備考
	1	オリエンテーション 統計学を学ぶ意義	
	2	統計学の概念と歴史	
	3	データ入力と整理 中央値・平均値・最大値・最小値などの計算	
	4	データ整理とヒストグラム作成	
	5	名義尺度の変数に対する統計学的検定(1)	
	6	名義尺度の変数に対する統計学的検定(2)	
	7	間隔・比率尺度の変数に対する統計学的検定(1)	
	8	間隔・比率尺度の変数に対する統計学的検定(2)	
	9	間隔・比率尺度の変数に対する統計学的検定(3)	
	10	順序尺度の変数に対する統計学的検定(1)	
	11	順序尺度の変数に対する統計学的検定(2)	
	12	順序尺度の変数に対する統計学的検定(3)	
	13	相関・回帰直線(1)	
	14	相関・回帰直線(2)	
	15	相関・回帰直線(3)	
	16	定期試験	
成績評価			
定期試験100%			

※1 理学療法士として介護老人保健施設及び介護事業所で実務経験6年以上

科目名			区分	
スポーツ・健康 I			(基礎) ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	(前期) ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	(講義) ・ (演習) ・ 実習	非常勤講師

<授業概要> 講義や実技を通して、健康の維持・増進に関する基礎的知識を学習し、各種スポーツの特性や技術およびトレーニングの方法についても理解を深め、運動・スポーツの有効性について考える <授業目標(GIO)> 健康の維持・増進について学び、運動・スポーツの必要性を理解し、実践を通して安全に楽しく運動ができる <行動目標(SBO)> ・自分の健康の維持管理ができる ・運動を安全に楽しく実践できる ・各種スポーツの特性およびルール説明ができる <授業の留意点> ・運動ができる服装を準備すること ・実技をおこなうため体調の自己管理をすること ・筆記用具は毎回準備すること <教科書> ・教科書なし(資料を配布) <参考書> ・健康・運動・スポーツのTopics(八千代出版)	授業計画		備考
	1	オリエンテーション	
	2	健康と運動	
	3	トレーニング	
	4	心理的スキル	
	5	体操	
	6	障がい者スポーツ	
	7	スポーツ I	
	8	スポーツ II	
	9	スポーツ III	
	10	スポーツ IV	
	11	スポーツ V	
	12	グループ発表 I	
	13	グループ発表 II	
	14	グループ発表 III	
	15	グループ発表 IV	
	16	定期試験	
成績評価			
筆記試験50%、実技50%			

科目名			区分	
スポーツ・健康Ⅱ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1) 専任教員(※2)

＜授業概要＞		授業計画		備考
病気やけが、災害から自身を守り、急病人やけが人を正しく救助して、応急手当や救命手当の方法を学ぶ。 障がい者スポーツ・文化協会での研修や障がい者スポーツサポートを通してスポーツの意義や対象者との関わりを学ぶ		1	ふれあいジョギングサポート オリエンテーション	9/25(水)
		2	ふれあいジョギングサポート	9/28(土)
		3	ふれあいジョギングサポート	
		4	ふれあいジョギングサポート	
		＜授業目標(GIO)＞ 「スポーツ」・「健康」の意義を救急法講習会や障がい者スポーツ・文化活動を通して理解する。		5
6	BLSオリエンテーション			10/23(水)
＜行動目標(SBO)＞ ・傷病者の観察ができ、一次救命処置など救急法を実施できる ・障がい者スポーツの意義・理念を理解する ・障がい者理解し対象者に応じたサポートを行える		7	BLS	10/31(木)
		8	BLS	
		9	BLS	
		10	BLS	
＜授業の留意点＞ ・各回の研修に際して事前の準備を怠らないこと ・対象者や外部の方に失礼のないよう学生としての自覚を忘れず真剣に臨むこと		11	熊本県障害者スポーツ・文化協会研修 オリエンテーション	11/25(月)
		12	熊本県障害者スポーツ・文化協会研修	
＜教科書＞ ・教科書なし(資料を配布)		13	熊本県障害者スポーツ・文化協会研修	
		14	学内で振り返り・レポート作成	
		15	学内で振り返り・レポート作成	
＜参考書＞ ・BLS講習会テキスト		成績評価 提出課題:100%		

※1 理学療法士として病院で実務経験12年以上

※2 理学療法士として病院で実務経験14年以上

科目名			区分	
対人関係論			基礎・専門基礎・専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 後期・通年	30 (1)	講義 演習・実習	専任教員(※1) 専任教員(※2)

授業概要		授業計画	備考
<授業概要> 自分の感情・思考・行動パターンを知り、自己の心を知る。自己を知ることによって他者との関係性を作っていくために自己表現・傾聴・承認・質問などを修得しコミュニケーションを学び、実践していくことで修得していく。	<授業目標(GIO)> コミュニケーションを学び、実践することで他者との関係性を構築し、自己確立を目標とする。	1 オリエンテーション 自分の心を知る①	
		2 コミュニケーションパターン分析	
		3 自分の心を知る②	
		4 自分の心を知る③	
<行動目標(SBO)> 基本的な考え方、スキルを学び、グループワークやロールプレイを行い実践できる事を目標とする。		5 自己表現	
		6 「怒り」の扱い方	
		7 グループワーク	
		8 オリエンテーション コメディカルにコミュニケーションが必要な意味	
<授業の留意点> テーマによって連続性のある時間があるので、学びが途切れてしまわないよう聞いてください。		9 社会人基礎力について	
		10 コミュニケーションの必要性和スキル①	
		11 コミュニケーションの必要性和スキル①	
		12 コミュニケーションの必要性和スキル①	
<教科書> プリント配布 理学療法コミュニケーション論		13 コミュニケーションにおける解決と解消①	
		14 学校でのコミュニケーション①	
<参考書>		15 メンタルヘルスとコミュニケーション	
		16 定期試験	
		成績評価 筆記試験:90%、課題提出状況:10%	

※1 作業療法士として保健所で実務(精神保健業務)経験7年以上、介護老人保健施設で実務経験3年以上

※2 理学療法士として病院で実務経験14年以上

科目名			区分	
総合教育 I			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1) 専任教員(※2) 専任教員(※3)

<授業概要> 専門学校における学習の意義や心構え、基本的なスタディースキルを習得することを狙いとし、ここで得られた基本的学習スタイルは、全ての専門教科・専門基礎教科を学ぶための共通技能となる。 <授業目標(GIO)> 専門学校における学習の意義と心構えについて学び、学習習慣の確立と基本的なスタディースキルの習得を図る。 <行動目標(SBO)> ①専門学校における学習の意義について説明できる ②授業を受ける上での心構えについて説明できる ③効果的な集中の仕方・記憶の方法について実践できる ④効果的な文献の読み方、専門書の活用の仕方、その他の学習補助ツール(電子辞書含む)の活用について実践できる ⑤効果的な自宅学習の進め方・ノートを取り方について実践できる <授業の留意点> 演習系の授業では、授業に関連しない内容の発言は厳に慎むこと。 この授業で習得した学習スキルを日々の自己学習で実践すること。 <教科書> 教員が資料を準備 <参考書> 教員が資料を準備	授業計画		備考
	1	専門学校における学習の意義と心構え ・学習習慣について	
	2	自己学習の進め方・集中の仕方 ・記憶力トレーニング	
	3	自己学習の進め方・集中の仕方 ・記憶力トレーニング	
	4	自己学習の進め方・集中の仕方 ・記憶力トレーニング	
	5	文献の読み方・専門書の活用の仕方 ・読解力トレーニング	
	6	文献の読み方・専門書の活用の仕方 ・読解力トレーニング	
	7	文献の読み方・専門書の活用の仕方 ・読解力トレーニング	
	8	文献の読み方・専門書の活用の仕方 ・読解力トレーニング	
	9	文献の読み方・専門書の活用の仕方 ・読解力トレーニング	
	10	文献の読み方・専門書の活用の仕方 ・読解力トレーニング	
	11	自宅学習の進め方と自己学習ノートの作り方	
	12	自宅学習の進め方と自己学習ノートの作り方	
	13	自宅学習の進め方と自己学習ノートの作り方	
	14	自宅学習の進め方と自己学習ノートの作り方	
	15	自宅学習の進め方と自己学習ノートの作り方	
成績評価			
※1 課題レポート100% ※2 提出物:100% ※3 課題提出状況100%			

※1 作業療法士として病院及び介護老人保健施設等で実務経験19年以上

※2 理学療法士として病院で実務経験14年以上

※3 作業療法士として保健所で実務(精神保健業務)経験7年以上、介護老人保健施設で実務経験3年以上

科目名			区分	
総合教育Ⅱ			基礎・専門基礎・専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期・後期・通年	30 (1)	講義・演習・実習	非常勤講師

<授業概要> 本科目は、受講生であるあなたが、自分の意見や調べた情報を的確な文章に表現できるようになることを目指します。そのために、語彙や文法の理解、資料分析の方法、文章読解の要点を学びます。そうして、具体的な手紙文や意見文の例を読解することを通して、わかりやすい日本語の文章を書く練習をします。 <授業目標(GIO)> 日本語の文章を正しく読解し、その内容をわかりやすい日本語の文章に表現できること。 <行動目標(SBO)> 著者の意図を的確に読み取ることができ、読み手が理解しやすい文章が書けること。 <授業の留意点> 国語辞典(電子書籍で可)を必ず持参してください。自分の考えを他人に正しく伝えるにはどうしたらよいか、常に考えてください。 <教科書> 『基礎から学べる！文章カステップ(文章検3級対応)』 公益財団法人・日本漢字能力検定協会 <参考書> 『文章検公式テキスト3級』 公益財団法人・日本漢字能力検定協会	授業計画		備考
	1	答えは一つじゃない～知の素っぴん力を磨こう	
	2	新聞の”不思議”発見	
	3	世の中に関心を～コメントを言う、書く	
	4	名文より明文～「伝える」から「伝わる」へ	
	5	先結後各～大事なことを先に話す、書く方法	
	6	要約のワザ～言いたいことは何か！！	
	7	セレンディピティー(偶然を発見する力)を磨こう	
	8	新聞ヨム、社会ワカル、自分カワル	
	9	語句の意味や文法を正しく知る	
	10	資料の分析方法を知る	
	11	文章の読解方法を知る	
	12	文章の読解方法を知る	
	13	手紙文に必要な知識	
	14	手紙文から意見文へ	
	15	意見文を読み、書く	
成績評価			
課題レポート及び提出物100%			

科目名			区分	
国際コミュニケーション			基礎・専門基礎・専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期・後期・通年	30 (1)	講義・演習・実習	非常勤講師

<授業概要> ・グループ分けして、ボキャブラリーマスター ・ウォーミングアップとしてボディランゲージ&アイコンタクトによる会話 ・会話カードを作り、評価チェックする ・1分間会話を録画し、チェックする	授業計画		備考
<授業目標(GIO)> ・英語によるコミュニケーションを楽しく学ぶ ・会話パートナーとの信頼・相互関係、助け合いを形成する ・英会話に対し、前向きで意欲的姿勢をつくる	1	リスニングテストでグループ分けと、そのグループリーダーを決める	
	2	Chapter1 相手の事をどのように尋ねるか 会話カード#1の作成	
	3	Chapter2 5ステップ会話の仕方 会話カード#2の作成	
	4	Chapter3 パートタイムジョブ、頻出単語を使っ ての1分間会話 会話カード#3の作成	
	5	Chapter4 人、場所の説明、講師が述べる絵を、 聞いて描く 会話カード#4の作成	
	6	Chapter5 家族と友人の説明、人物表現 会話カード#5の作成	
<行動目標(SBO)> ・新しい単語のマスター及びトピックスのレッスン ・リスニング練習－ネイティブの英語発音、リズムを聞き取りマスターする ・パートナーと以下の会話を創り出す ①あいさつ ②ちょっとした会話 ③トピックス紹介 ④質問 ⑤会話の終了	7	会話カードの練習－チェック後パートナーと学ん だ表現法、ジェスチャーを交え練習、会話録画	
	8	会話カード・ビデオ評価－文法、スピード暗記、 アドバイスを与え採点	
	9	Chapter6 映画鑑賞－内容質問、内容説明 カード#6作成、会話録画	
	10	会話カード#6 ビデオ評価 Chapter7 ホリデイ新しい単語、表現法 カード#7作成、録画	
	11	会話カード#7 ビデオ評価 Chapter8 宝くじに関する英語、例文作成 カード#8作成、録画	
	12	会話カード#8 ビデオ評価 Chapter9 ニュース、意見・考えを伝える カード#9作成、録画	
<授業の留意点> テキストのフレーズ、単語を使い、他のグループの会話 も参考にして、独自の楽しい会話を創る ※誤りを指摘し、訂正させ、評価・チェックをする	13	会話カード#9 ビデオ評価 Chapter10 ベストの学習方法は何か、習った表現で説明 カード#10作成	
	14	会話カード#10 録画、各自及びクラス全体の評価 将来、英語の必要性指導	
	15	Chapter5～10の作成・提出	
<教科書> Tools for Increasing Proficiency in Speaking (TIPS)			
<参考書>			

成績評価	
レポート提出100%	

科目名			区分	
解剖学Ⅰ(骨格系)			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

授業概要		授業計画	備考
<授業概要> 人体を構成している各器官の成り立ちを理解する。特に解剖学Ⅰでは骨学と関節学について学ぶ。骨は、受動的運動器と称されるように、ヒトの運動に欠かすことのできない器官である。特に療法士にとっては運動器の理解は不可欠となるため、それらについて系統的に学習する。		1 序論 解剖学とは、人体の基本構造	講義
		2 序論 人体の区分、位置や方向を示す解剖学用語	講義
		3 骨学総論 骨の形態と構造	講義
		4 関節学総論 関節の構造・種類	講義
<授業目標(GIO)> 人体の成り立ち、構造を理解し、理学療法を行う上では道しるべとなる。各自の身体を用い、2次元での理解ではなく、3次元での理解を目標とする。		5 骨学各論 骨盤、下肢の骨(1)	講義
		6 骨学各論 下肢の骨(2)	講義
		7 関節学各論 下肢の連結	講義
		8 骨学各論 頭蓋	講義
<行動目標(SBO)> ・解剖学の重要性がわかる。 ・人体の構成要素を理解する。 ・運動器について理解する。 ・解剖学用語を理解し覚える。 ・骨及び各部位の名称を理解し覚える。		9 骨学各論 脊柱	講義
		10 骨学各論 胸郭	講義
		11 関節学各論 頭蓋の連結、脊柱の連結	講義
		12 骨学各論 上肢の骨(1)	講義
<授業の留意点> 予習・復習を欠かさず取り組んでほしい。		13 骨学各論 上肢の骨(2)	講義
		14 関節学各論 上肢の連結	講義
		15 関節学各論 上肢の連結	講義
		16 定期試験	
<教科書> 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 日本人体解剖学(上) プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論 運動器系		成績評価	
		・筆記試験:100%	
<参考書> 基礎運動学 第6版 補訂			

※1 理学療法士として病院で実務経験13年以上

科目名			区分	
解剖学Ⅱ(筋・運動器系)			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 人体を構成している各器官の成り立ちを理解する。解剖学Ⅱでは筋学を学ぶ。筋は能動的運動器と称され、骨と筋とがヒトの動きを作り出している。特に療法士にとっては運動器の理解は不可欠となるため、それらについて系統的に学習していく。 <授業目標(GIO)> 人体の成り立ち、構造を理解し、理学療法を行う上では道しるべとなる。各自の身体を用い、2次元での理解ではなく、3次元での理解を目標とする。 <行動目標(SBO)> ・解剖学の重要性がわかる。 ・人体の構成要素を理解する。 ・運動器について理解する。 ・解剖学用語を理解する。 ・筋の起始・停止・作用・支配神経を覚える。 <授業の留意点> 教科書を中心に講義する。予習・復習を欠かさず取り組んでほしい。 <教科書> 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院) <参考書> ・プロメテウス解剖学アトラス	授業計画		備考
	1	オリエンテーション 筋学総論 筋組織、筋の補助装置	講義
	2	筋学総論 骨格筋の起始・停止・作用	講義
	3	筋学総論 骨格筋の神経支配	講義
	4	神経学総論 脊髄神経と神経叢	講義
	5	筋学各論 上肢の筋(1)	講義
	6	筋学各論 上肢の筋(2)	講義
	7	筋学各論 上肢の筋(3)	講義
	8	重要事項のまとめ	講義
	9	筋学各論 下肢の筋(1)	講義
	10	筋学各論 下肢の筋(2)	講義
	11	筋学各論 下肢の筋(3)	講義
	12	筋学各論 頭部・頸部の筋	講義
	13	筋学各論 胸部・腹部の筋	講義
	14	重要事項のまとめ	講義
	15	重要事項のまとめ	講義
	16	前期試験	
成績評価			
定期試験:100%			

※1 理学療法士として病院で実務経験6年以上

科目名			区分	
解剖学Ⅲ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 後期 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 人体を構成している神経系の成り立ちを理解する。療法士に必要不可欠な神経系について系統的に学習していく。神経疾患はリハビリで扱う代表な部分である。疾患理解のために、各部位の位置関係、働きも学習していく。 <授業目標(GIO)> 神経系の構造、位置関係を認識する。 神経系の働きを理解する。 疾患や検査、治療のために神経系の学習が必要であることを知る。 <行動目標(SBO)> 神経系に関わる用語を覚える。 神経系の位置関係をイメージする。 神経系と疾患や検査、治療を関連付ける。 講義内容は教科書にて確認すること。 <授業の留意点> 欠席せず、私語を慎んで受講すること。 必ず予習・復習すること。 <教科書> 日本人体解剖 上巻 改訂19版 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第4版 プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系 第2版 プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部/神経解剖 第2版 <参考書>	授業計画		備考
	1	神経系総論	講義
	2	脊髄	講義
	3	脳幹(中脳・橋・延髄)	講義
	4	小脳	講義
	5	間脳	講義
	6	終脳	講義
	7	終脳	講義
	8	下行性伝導路	講義
	9	上行性伝導路	講義
	10	1～9コマまでのまとめ、小テスト	講義
	11	脊髄神経	講義
	12	脊髄神経	講義
	13	脳神経	講義
	14	自律神経	講義
	15	まとめ	講義
	16	定期試験	
成績評価			
定期試験:80% 小テスト:20%			

※1 理学療法士として病院で実務経験5年以上

科目名			区分	
解剖学Ⅳ(内臓・感覚器系)			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 演習 ・ 実習	非常勤講師

<授業概要> 人体を構成している各器官の成り立ちを理解する。解剖学Ⅳでは医療および疾患の理解に必要な内臓や感覚器について学習する。 <授業目標(GIO)> 解剖学の知識を各種検査や治療手技へ応用できる。 <行動目標(SBO)> ・各種臓器及び部位の名称と働きを理解する。 ・他臓器との関連とくに立体配置を理解する。 <授業の留意点> 教科書を中心に講義する。予習・復習を欠かさず取り組んでほしい。 <教科書> 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院) 日本人体解剖学 改訂19版 上巻 骨格系・筋系・神経系(南山堂) <参考書> プロメテウス解剖学アトラス	授業計画		備考
	1	感覚器系 外皮、視覚器	講義
	2	感覚器系 平衡聴覚器、嗅覚・味覚器	講義
	3	循環器系 全体像	講義
	4	循環器系 心臓	講義
	5	循環器系 動脈系	講義
	6	循環器系 静脈系	講義
	7	循環器系 胎児循環、リンパ系	講義
	8	内臓系 全体像	講義
	9	内臓系 消化器系(消化管)	講義
	10	内臓系 消化器系(肝臓、胆嚢、膵臓)	講義
	11	内臓系 呼吸器系	講義
	12	内臓系 泌尿器系	講義
	13	内臓系 生殖器系、内分泌系	講義
	14	人体の発生、まとめ	講義
	15	まとめ	講義
	16	定期試験	
成績評価			
筆記試験100%			

科目名			区分	
生理学 I			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 ・ 演習 ・ 実習	非常勤講師(※1)

<授業概要> 生理学は生命活動のしくみを解き明かすことを目的とした学問であり、解剖学と密接に関連した医学の基礎となるものである。まず、生命現象の基本となる細胞機能、ついで植物と動物に存在する機能、そして動物に特有な機能として、生理学を理解していく。 <授業目標(GIO)> 本授業では、理学療法学と作業療法学の基礎となる生理学を系統的に理解するを目的としている。 <行動目標(SBO)> 1. 生理学における重要項目を覚えている。 2. 器官・組織の機能を説明できる。 3. 器官・機能の仕組みを説明できる。 4. 生理機能と理学・作業療法との関連を説明できる。 <授業の留意点> 講義内容を理解し、覚えているかを確認する小テストが行われるので、授業終了後は必ず復習すること。疑問点が生じたときは教科書や参考書、さらには教官の積極的に活用すること。 <教科書> 生理学(標準理学療法学、作業療法学、専門基礎分野シリーズ)医学書院 <参考書> 消って忘れない 生理学要点整理ノート(PT・OT必修シリーズ) 羊土社	授業計画		備考
	1	細胞と内部環境	講義
	2		
	3	血液(1)	講義
	4		
	5	血液(2)	講義
	6		
	7	循環(1)	講義
	8		
	9	循環(2)	講義
	10		
	11	循環(3)	講義
	12		
	13	呼吸(1)	講義
	14		
	15	呼吸(2)	講義
	16		
	17	消化と吸収(1)	講義
	18		
	19	消化と吸収(2)	講義
	20		
	21	腎臓と排出(1)	講義
	22		
	23	腎臓と排出(2)、酸-塩基平衡	講義
	24		
	25	前期復習(1)	講義
	26		
	27	前期復習(2)	講義
	28		
	29	まとめ復習	講義
	30		
	31	定期試験	
成績評価			
筆記試験100%			

※1 医師として病院で実務経験9年以上

科目名			区分	
生理学Ⅱ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1) 非常勤講師(※2)

<授業概要> 生理学は生命活動のしくみを解き明かすことを目的とした学問であり、解剖学と密接に関連した医学の基礎となるものである。まず、生命現象の基本となる細胞機能、ついで植物と動物に存在する機能、そして動物に特有な機能として、生理学を理解していく。 <授業目標(GIO)> 本授業では、理学療法学と作業療法学の基礎となる生理学を系統的に理解するを目的としている。 <行動目標(SBO)> 1. 生理学における重要項目を覚えている。 2. 器官・組織の機能を説明できる。 3. 器官・機能の仕組みを説明できる。 4. 生理機能と理学・作業療法との関連を説明できる。 <授業の留意点> 講義内容を理解し、覚えているかを確認する小テストが行われるので、授業終了後は必ず復習すること。疑問点が生じたときは教科書や参考書、さらには教官の積極的に活用すること。 <教科書> 生理学(標準理学療法学、作業療法学、専門基礎分野シリーズ)医学書院 <参考書> 消して忘れない 生理学要点整理ノート(PT・OT必修シリーズ) 羊土社	授業計画		備考
	1	内分泌(1)	講義
	2		
	3	内分泌(2)	講義
	4		
	5	性と生殖	講義
	6		
	7	神経系(1)	講義
	8		
	9	末梢神経(1)	講義
	10		
	11	末梢神経(2)	講義
	12		
	13	筋の収縮(1)	講義
	14		
	15	筋の収縮(2)	講義
	16		
	17	中枢神経(1)	講義
	18		
	19	中枢神経(2)	講義
	20		
	21	感覚(1)	講義
	22		
	23	感覚(2)	講義
	24		
	25	代謝と体温(1)	講義
	26		
	27	運動生理	講義
	28		
	29	まとめ復習	講義
	30		
	31	定期試験	
成績評価			
筆記試験:100%			

※1 理学療法士として病院で実務経験15年以上

※2 医師として病院で実務経験9年以上

科目名			区分	
生理学演習			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 ・ 演習 ・ 実習	非常勤講師

<授業概要> 1年次で学んだ生理学を基礎とする。主要なテーマ(体性感覚・呼吸機能・心電図・筋電図・運動神経伝導速度)について、検査・測定を行い、結果を分析・解釈し、レポートを作成する。内容の理解を確認するため演習問題を実施する。3年次から始まる卒業研究の基礎のひとつとなる。臨床実習で求められる技術も含まれる。	授業計画		備考	
<授業目標(GIO)> 生理学の主要なテーマについて、実際に検査・測定することで理解を深める。「人」の「心」を意識して、被験者の気持ちを理解し、人と接する態度を向上させる。治療に役立つ生理学的データを得るための、科学的方法の基礎を身につける。得た知見をレポートとして他の人に伝える能力を養う。	1	オリエンテーション		
	2	A. 血圧測定Ⅰ:血圧計の原理と取り扱い方		
	3			
	4			
	5	B. 血圧測定Ⅱ:運動負荷前後の血圧の変化		
	6			
	7			
	8	D. 筋電図測定Ⅱ:肘関節屈曲と前腕回外、肢位と共同筋の組み合わせ		
	9			
	<行動目標(SBO)> 各テーマについて、検査・測定の原理を説明できる。道具を的確に使い、または機器を正しく操作し、検査・測定をスムーズに行える。検査・測定で得たデータを正しく分析し、解釈できる。わかりやすい報告書を書くことができる。各テーマの臨床的意義を述べるができる。被験者の気持ちに配慮し、前向きに接することができる。	10	E-1. オシロスコープシステムの使い方	
11		運動神経伝道速度の測定(各班1人)		
12		中間講評、今回から始まるローテーション方式		
13				
14				
15		(E-2～J)のテーマを各班別順次行う)の説明		
16				
17				
<授業の留意点> 授業前にテキストを読んで、内容を理解しておく。各テーマにふさわしい服装で参加する。自分自身で考えて行動する。グループの一員として他の構成員を気づかい、協力して、グループ全体の働きをより良くする。		18	F. 触圧点と痛点	
		19		
	20			
	21	H. スパイロメトリー		
	22			
	23			
	<教科書> ・講師が準備する	24	J. 自転車エルゴメータを用いた体力測定	
		25		
		26		
		27	K. 2点識別閾とその他の感覚検査	
28				
29				
30		L. カエルの解剖・講評		
31				
<参考書> ・フィジカルアセスメントがみえる(メディックメディア) ・運動学実習 (医歯薬出版) ・リハビリテーション運動生理学(メジカルビュー社)	成績評価			
	筆記試験40%、レポート60%			

科目名			区分	
運動学 I			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 運動学はセラピストにとって重要となる臨床現場に直結する運動や動作による評価、あるいは治療としての運動療法などの基盤となる。本講義では生体の構造、機能に関する事項を中心に講義を行う。 <授業目標(GIO)> 物理学・解剖学・生理学の理解のもと、人体の筋骨格系の運動を理解し、身体運動・動作分析の基礎知識を習得する。 <行動目標(SBO)> ・身体運動・動作を科学的に捉える。 ・運動学的用語を説明できる。 ・身体の解剖学的特徴を説明できる。 ・身体の運動学的特徴を説明できる。 ・身体の特徴的な構造と機能を説明できる。 <授業の留意点> 物理学・解剖学・生理学などの、基礎科目の理解は必須である。理解度によっては、講義内容の変更があり得る。 <教科書> 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学 <参考書> 適宜紹介	授業計画		備考
	1	オリエンテーション 運動学の位置づけ	
	2	運動学とは(運動学の歴史、現状と課題)	
	3	生体力学の基礎	
	4	生体力学の基礎	
	5	生体の構造と機能(細胞・組織)	
	6	生体の構造と機能(運動期の構造と機能)	
	7	生体の構造と機能(運動期の構造と機能)	
	8	生体の構造と機能(神経系)	
	9	生体の構造と機能(運動の中樞神経機構)	
	10	生体の構造と機能(感覚器の構造と機能)	
	11	生体の構造と機能(呼吸)	
	12	生体の構造と機能(血液と循環)	
	13	生体の構造と機能(体温調節)	
	14	生体の構造と機能(栄養とエネルギー代謝)	
	15	まとめ	
	16	定期試験	
成績評価			
筆記試験:100%			

※1 理学療法士として病院で実務経験13年以上

科目名			区分	
運動学Ⅱ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1) 専任教員(※2)

<授業概要> 本授業では、人体の構造と機能及び心身の発達を理解するために、上肢、下肢、体幹の運動学に関する基礎的な知識を学習する。1年時に履修する解剖学、運動学Ⅰを踏まえ、各関節の運動に着目する。臨床運動学、臨床動作分析、理学療法評価学、運動療法学を履修する上での基礎となる。	<table><tr><th colspan="2">授業計画</th><th>備考</th></tr><tr><td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>講義</td></tr><tr><td>2</td><td>股関節の運動学①</td><td>講義</td></tr><tr><td>3</td><td>股関節の運動学②</td><td>講義</td></tr><tr><td>4</td><td>股関節の運動学③</td><td>講義</td></tr><tr><td>5</td><td>股関節の運動学④</td><td>講義</td></tr><tr><td>6</td><td>膝関節の運動学①</td><td>講義</td></tr><tr><td>7</td><td>膝関節の運動学②</td><td>講義</td></tr><tr><td>8</td><td>膝関節の運動学③</td><td>講義</td></tr><tr><td>9</td><td>膝関節の運動学④</td><td>講義</td></tr><tr><td>10</td><td>膝関節の運動学⑤</td><td>講義</td></tr><tr><td>11</td><td>足関節・足部の運動学①</td><td>講義</td></tr><tr><td>12</td><td>足関節・足部の運動学②</td><td>講義</td></tr><tr><td>13</td><td>足関節・足部の運動学③</td><td>講義</td></tr><tr><td>14</td><td>足関節・足部の運動学④</td><td>講義</td></tr><tr><td>15</td><td>足関節・足部の運動学⑤</td><td>講義</td></tr><tr><td>16</td><td>肩関節の運動学①</td><td>講義</td></tr><tr><td>17</td><td>肩関節の運動学②</td><td>講義</td></tr><tr><td>18</td><td>肩関節の運動学③</td><td>講義</td></tr><tr><td>19</td><td>肘関節の運動学</td><td>講義</td></tr><tr><td>20</td><td>前腕の運動学①</td><td>講義</td></tr><tr><td>21</td><td>前腕の運動学②</td><td>講義</td></tr><tr><td>22</td><td>手関節の運動学①</td><td>講義</td></tr><tr><td>23</td><td>手関節の運動学②</td><td>講義</td></tr><tr><td>24</td><td>手指の運動学①</td><td>講義</td></tr><tr><td>25</td><td>手指の運動学②</td><td>講義</td></tr><tr><td>26</td><td>手指の運動学③</td><td>講義</td></tr><tr><td>27</td><td>上肢筋の神経支配</td><td>講義</td></tr><tr><td>28</td><td>脊柱の運動学①</td><td>講義</td></tr><tr><td>29</td><td>脊柱の運動学②</td><td>講義</td></tr><tr><td>30</td><td>脊柱の運動学③</td><td>講義</td></tr><tr><td>31</td><td>定期試験</td><td></td></tr></table>	授業計画		備考	1	オリエンテーション	講義	2	股関節の運動学①	講義	3	股関節の運動学②	講義	4	股関節の運動学③	講義	5	股関節の運動学④	講義	6	膝関節の運動学①	講義	7	膝関節の運動学②	講義	8	膝関節の運動学③	講義	9	膝関節の運動学④	講義	10	膝関節の運動学⑤	講義	11	足関節・足部の運動学①	講義	12	足関節・足部の運動学②	講義	13	足関節・足部の運動学③	講義	14	足関節・足部の運動学④	講義	15	足関節・足部の運動学⑤	講義	16	肩関節の運動学①	講義	17	肩関節の運動学②	講義	18	肩関節の運動学③	講義	19	肘関節の運動学	講義	20	前腕の運動学①	講義	21	前腕の運動学②	講義	22	手関節の運動学①	講義	23	手関節の運動学②	講義	24	手指の運動学①	講義	25	手指の運動学②	講義	26	手指の運動学③	講義	27	上肢筋の神経支配	講義	28	脊柱の運動学①	講義	29	脊柱の運動学②	講義	30	脊柱の運動学③	講義	31	定期試験	
授業計画		備考																																																																																															
1	オリエンテーション	講義																																																																																															
2	股関節の運動学①	講義																																																																																															
3	股関節の運動学②	講義																																																																																															
4	股関節の運動学③	講義																																																																																															
5	股関節の運動学④	講義																																																																																															
6	膝関節の運動学①	講義																																																																																															
7	膝関節の運動学②	講義																																																																																															
8	膝関節の運動学③	講義																																																																																															
9	膝関節の運動学④	講義																																																																																															
10	膝関節の運動学⑤	講義																																																																																															
11	足関節・足部の運動学①	講義																																																																																															
12	足関節・足部の運動学②	講義																																																																																															
13	足関節・足部の運動学③	講義																																																																																															
14	足関節・足部の運動学④	講義																																																																																															
15	足関節・足部の運動学⑤	講義																																																																																															
16	肩関節の運動学①	講義																																																																																															
17	肩関節の運動学②	講義																																																																																															
18	肩関節の運動学③	講義																																																																																															
19	肘関節の運動学	講義																																																																																															
20	前腕の運動学①	講義																																																																																															
21	前腕の運動学②	講義																																																																																															
22	手関節の運動学①	講義																																																																																															
23	手関節の運動学②	講義																																																																																															
24	手指の運動学①	講義																																																																																															
25	手指の運動学②	講義																																																																																															
26	手指の運動学③	講義																																																																																															
27	上肢筋の神経支配	講義																																																																																															
28	脊柱の運動学①	講義																																																																																															
29	脊柱の運動学②	講義																																																																																															
30	脊柱の運動学③	講義																																																																																															
31	定期試験																																																																																																
<授業目標 (GIO)> 身体関節の動きや筋の作用を理解し、各関節のみならず全身の動きの中で理解することができる。																																																																																																	
<行動目標 (SBO)> ・身体の特徴的な構造と機能を説明できる。 ・解剖学との繋がりを理解する。 ・人の「動き」を理解しイメージできる。																																																																																																	
<授業の留意点> ・欠席しない ・予習復習をすること ・積極的に発言、質問すること ・自分の体を使い理解すること																																																																																																	
<教科書> 標準理学療法作業療法学 専門基礎分野 運動学																																																																																																	
<参考書> ・プロメテウス 解剖学アトラス(医学書院) ・その他 適宜紹介																																																																																																	
	<table><tr><th colspan="2">成績評価</th></tr><tr><td colspan="2">定期試験:100%</td></tr></table>	成績評価		定期試験:100%																																																																																													
成績評価																																																																																																	
定期試験:100%																																																																																																	

※1 理学療法士として病院で実務経験6年以上

※2 理学療法士として病院で実務経験13年以上

科目名			区分	
臨床運動学 I			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 解剖学や生理学、運動学の知識を統合し、ヒトの動きの基礎を学ぶ。姿勢、基本動作、歩行を中心に正常(健常)の動作の基礎となる用語、機能的役割、原理を理解し、異常な現象や動作の要因となりうることを推測できるようにするための基盤を習得するものである。 <授業目標(GIO)> ・姿勢、基本動作、歩行などヒトの正常(健常)な動作を理解する。 ・正常のヒトの姿勢や動作についての国家試験問題を解釈できるようになる。 <行動目標(SBO)> ・姿勢、基本動作、歩行などに関わる用語を述べることができる。 ・姿勢における重心の位置や姿勢制御について説明することができる。 ・基本動作における正常パターンについて説明することができる。 ・歩行における相を理解し、各相の機能的役割および原理を説明することができる。 <授業の留意点> ・欠課しないこと ・予習復習を行うこと ・講義には積極的に取り組むこと <教科書> ・基礎運動学 第6版補訂(医歯薬出版) ・観察による歩行分析(医学書院) ・動作分析 臨床活用講座(メジカルビュー社) <参考書> ・日常生活活動の分析 ・The Center of the Body ・症例動作分析 ・結果の出せる整形外科理学療法	授業計画		備考
	1	運動力学の基礎	講義
	2	姿勢と姿勢制御のバイオメカニクス	講義
	3	姿勢と姿勢制御のバイオメカニクス	講義・演習
	4	起居動作(寝返り・起き上がり)	講義
	5	起居動作(寝返り・起き上がり)	講義・演習
	6	起立・着座	講義・
	7	起立・着座	講義・演習
	8	正常歩行	講義
	9	正常歩行	講義
	10	正常歩行	講義・演習
	11	正常歩行	講義・演習
	12	その他の動作	講義・演習
	13	様々な動作の観察	演習
	14	様々の動作の観察	演習
	15	様々の動作の観察	発表
	16	定期試験	
	成績評価		
	定期試験:90%		
	課題レポート、発表:10%		

※1 理学療法士として病院で実務経験5年以上

科目名			区分	
人間発達学			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 核家族化、少子化など、環境の変化に伴い、出生から死に至る過程に直接関わる機会は非常に少なくなっている。主体的にも環境との相互作用においても、常に変化しつづける存在である人間の生涯における発達において、各期の特徴を把握し、量的・質的な側面から理解を深めて行く内容にしたい。 <授業目標 (GIO)> 総論では人間の発達の特徴、発達理論、発達に影響する因子などについて、各論では各期における、量的・質的な側面から理解を深めていくこと。 <行動目標 (SBO)> 1. 身体的な発達を理解する。(小児期～老年期) 2. 認知機能の発達を理解する。 3. 視覚機能の発達を理解する。 4. 社会性の機能の発達を理解する <授業の留意点> 各配布資料をまとめておくこと <教科書> イラストでわかる人間発達学 医歯薬出版 <参考書> 「生涯人間発達学」 上田礼子（三輪書店） 標準理学療法学・作業療法学 専門分野 人間発達学	授業計画		備考
	1	人間発達の特徴、代表的な発達理論	講義
	2	発達に影響する因子、環境との相互作用	講義
	3	胎児期の発達	講義
	4	身体的正常発達 ①	講義
	5	身体的正常発達 ②	講義
	6	粗大運動の発達 ①	講義
	7	粗大運動の発達 ②	講義
	8	粗大運動の発達 ③	講義
	9	視覚機能の発達	講義
	10	上肢機能の発達	講義
	11	認知機能の発達	講義
	12	社会性の機能発達	講義
	13	成人期から老年期における身体的変化 ①	講義
	14	成人期から老年期における身体的変化 ②	講義
	15	まとめ	
16	定期試験	筆記試験	

成績評価	
・定期試験:100%	

※1 作業療法士として病院及び介護老人保健施設で実務経験13年以上

科目名			区分	
基礎医学演習 I			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> ・主要基礎医学科目(解剖学・生理学・運動学)の理解を深め、2年次および3年次における専門分野に対する円滑な学習の促進につなげる。	授業計画		備考
<授業目標(GIO)> ・運動器系の解剖の知識を深める。	1	解剖学(骨学・関節学) ①	
	2	解剖学(骨学・関節学) ②	
<行動目標(SBO)> ・解剖学の基本事項(骨の特徴的な構造・関節の正常な構造と機能)を理解できる。	3	頭部の骨	
	4	脊椎骨 ①	
	5	上肢の骨 鎖骨 肩甲骨	
	6	上肢の骨 上腕骨 橈骨 尺骨	
	7	上肢の骨 手指の骨	
	8	腸骨 仙骨 恥骨	
	9	下肢の骨 大腿骨	
	10	下肢の骨 脛骨 腓骨	
	11	下肢の骨 足根骨	
	12	上肢の筋肉 ①	
13	上肢の筋肉 ②		
<授業の留意点> ・解剖学の学習において、理解が不十分な点があれば積極的に復習できるよう取り組むこと。 ・グループで標本や模型を使用することがある。その場合、破損および紛失しないよう、十分注意すること。	14	下肢の筋肉 ①	
	15	下肢の筋肉 ②	
<教科書> 標準理学療法・作業療法 専門基礎分野 解剖学 プロメテウス 解剖学アトラス 運動器系			
<参考書> 病気が見える 運動器疾患			
成績評価			
小テスト:100%			

※1 作業療法士として病院及び介護老人保健施設で実務経験13年以上

科目名			区分	
基礎医学演習Ⅱ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

授業概要		授業計画	備考
<授業概要> ・運動学(上下肢の運動): 関節の運動方向を体を動かしながら理解する ・解剖学(筋学): 筋模型を使った演習 ・解剖学(神経): ウイリス動脈輪および腕神経叢の模型作り ・生理学: 資料作成、発表 <授業目標(GIO)> ・運動学・解剖学・生理学の基礎知識の理解を深め、2年次および3年次に学ぶ専門分野に対する円滑な学習の促進につなげる。 <行動目標(SBO)> ・関節の運動方向を説明できる。 ・筋の起始、停止、走行を説明できる。 ・ウイリス動脈輪を説明できる。 ・腕神経叢を説明できる。 ・内分泌、性と生殖、筋の収縮の生理を説明できる。 <授業の留意点> ・運動学・解剖学・生理学の学習において、理解が不十分な点があれば積極的に復習できるよう取り組むこと。 ・グループで標本や模型を使用することがある。その場合、破損および紛失しないよう、十分注意すること。 <教科書> ・日本人体解剖学上巻 南山堂 ・生理学 医学書院 <参考書> 解剖学・生理学・運動学の授業において使用した、教科書以外のすべての文献		1 運動学(上下肢の運動)	
		2 解剖学(筋学)上肢前面	基礎医学実習室
		3 小テスト① 解剖学(筋学)上肢後面	基礎医学実習室
		4 小テスト② 解剖学(筋学)下肢前面	基礎医学実習室
		5 小テスト③ 解剖学(筋学)下肢後面	基礎医学実習室
		6 小テスト④ 解剖学(筋学)復習	基礎医学実習室
		7 解剖学(神経)ウイリス動脈輪	
		8 解剖学(神経)ウイリス動脈輪	
		9 生理学(内分泌、性と生殖、筋の収縮)	図書室
		10 生理学(内分泌、性と生殖、筋の収縮)発表	
		11 生理学(内分泌、性と生殖、筋の収縮)発表	
		12 生理学(内分泌、性と生殖、筋の収縮)発表	
		13 小テスト⑤ 解剖学(神経)腕神経叢	
		14 解剖学(神経)腕神経叢	
		15 小テスト⑥ 復習	
成績評価			
小テスト100%			

※1 作業療法士として病院で実務経験6年以上

科目名			区分	
基礎医学演習Ⅲ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 検査測定実習に向けて、基礎医学の知識を定着させると共に、検査測定ノートを書き方を習得する。 <授業目標(GIO)> ・基礎医学の知識を定着することができる。 ・検査測定ノートを書き方を習得することができる。 <行動目標(SBO)> ・各疾患と症状について説明ができる。 ・検査測定のアセスメントの表記ができる。 <授業の留意点> ・自らが学ぶ姿勢を持ち、積極的に参加する。 <教科書等> ・岩崎テル子編 標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 医学書院	授業計画		備考
	1	グループ活動(調べ学習)	
	2	グループ活動(調べ学習)	
	3	グループ活動(発表)	
	4	形態測定アセスメント	
	5	形態測定アセスメント	
	6	形態測定アセスメント	
	7	ROMアセスメント	
	8	ROMアセスメント	
	9	ROMアセスメント	
	10	反射アセスメント	
	11	反射アセスメント	
	12	反射アセスメント	
	13	脳神経アセスメント	
	14	脳神経アセスメント	
	15	脳神経アセスメント	
	成績評価		
	課題80%、発表20%		

※1 作業療法士として病院で実務経験6年以上

科目名			区分	
基礎医学演習Ⅳ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

＜授業概要＞	授業計画		備考
検査測定実習に向けて、基礎医学の知識を定着させると共に、検査測定ノートの書き方を習得する。	1	グループ活動(調べ学習)	
	2	グループ活動(調べ学習)	
	3	グループ活動(発表)	
＜授業目標(GIO)＞ ・基礎医学の知識を定着することができる。 ・検査測定ノートの書き方を習得することができる。	4	MMTアセスメント	
	5	MMTアセスメント	
	6	MMTアセスメント	
＜行動目標(SBO)＞ ・各疾患と症状について説明ができる。 ・検査測定のアセスメントの表記ができる。	7	Sensoryアセスメント	
	8	Sensoryアセスメント	
	9	Sensoryアセスメント	
	10	Br.stageアセスメント	
	11	Br.stageアセスメント	
＜授業の留意点＞ ・自らが学ぶ姿勢を持ち、積極的に参加する。	12	Br.stageアセスメント	
	13	復習	
＜教科書等＞ ・岩崎テル子編 標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 医学書院	14	復習	
	15	復習	
	成績評価		
課題80%、発表20%			

※1 作業療法士として病院で実務経験6年以上

科目名			区分	
基礎医学特論演習			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
4年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 作業療法専門基礎領域の国家試験問題を解きながら知識を整理する。 <授業目標(GIO)> 作業療法専門基礎領域の知識を習得する。 <行動目標(SBO)> 解剖学、生理学、病理学、運動学、人間発達学、小児科学、内科学、臨床神経医学、臨床心理学、精神医学、整形外科学、リハビリテーション概論における用語を説明することが出来る。 <授業の留意点> <教科書> 担当教員より都度指示します。 <参考書>	授業計画		備考
	1	解剖学	
	2		
	3	解剖学	
	4		
	5	解剖学	
	6		
	7	生理学・病理学	
	8		
	9	生理学・病理学	
	10		
	11	生理学・病理学	
	12		
	13	運動学	
	14		
	15	運動学	
	16		
	17	人間発達学・小児科学	
	18		
	19	内科学	
	20		
	21	臨床精神医学	
	22		
	23	臨床心理学	
	24		
	25	精神医学	
	26		
	27	整形外科学	
	28		
	29	リハビリテーション概論	
	30		
	31	筆記試験	
成績評価			
筆記試験:100%			

※1 作業療法士として病院で実務経験7年以上

科目名			区分	
リハビリテーション用語			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> リハビリテーション用語(英語)の基本構造と造語のルールを知り、演習を重ねることによって、基本的な語彙を習得する。 <授業目標(GIO)> 臨床で用いられるリハビリテーション用語(英語)を理解、使用することができる。 <行動目標(SBO)> ①リハビリテーション用語(英語)の構成について説明することができる ②各々の分野におけるリハビリテーション用語(英語)について、理解、使用することができる。 <授業の留意点> 毎回小テストを実施する。 <教科書・参考書> 教科書:配布資料 リハビリテーション医学用語集第8版 日本リハビリテーション医学会編 文光堂 その他:電子辞書	授業計画		備考
	1	2	
	授業概要 発音記号について 筆記体・ブロック体の書き方 1、概論 1-1 一般用語		講義
	1、概論 1-1 一般用語		小テスト 講義
	2、基礎 2-1 運動 面と方向 2-2 機能解剖		小テスト 講義
	2、基礎 2-2 機能解剖 2-3 運動 筋		小テスト 講義
	2、基礎 2-4 生理 2-5 運動		小テスト 講義
	2、基礎 2-5 運動		小テスト 講義
	2、基礎 2-6 心理 3、対象 3-1 疾患		小テスト 講義
	3、対象 3-2 症状		小テスト 講義
	3、対象 3-2 症状 3-3 障害		小テスト 講義
	4、評価 4-1 診断 4-2 機能評価 4-3能力評価 5、対応 5-1 治療		小テスト 講義
	5、対応 5-2 運動療法 5-3 物理療法		小テスト 講義
	5、対応 5-4 作業療法 5-5 言語聴覚療法 5-6 心理療法		小テスト 講義
	5、対応 5-7 切断 5-8 義肢 5-9 装具		小テスト 講義
	6、道具 6-1 杖 6-2 補助具 6-3 車椅子 6-4 訓練用具 6-5 福祉用具		小テスト 講義
	リハビリテーションで使う略語について		小テスト 講義
	16 定期試験		
成績評価			
筆記試験60%、小テスト40%			

※1 作業療法士として病院及び介護老人保健施設等で実務経験19年以上

科目名			区分	
臨床心理学			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	非常勤講師(※1)

<授業概要> 臨床心理学の中心的な課題を、実際の観点から深め、人間理解と臨床のセンスの基礎を身につけられるようにする。 <授業目標(GIO)> 臨床心理学の基礎を学ぶ。 <行動目標(SBO)> 日常生活に役立つ観点を身につける。 <授業の留意点> 講義の中で繰り返し話されることが、試験問題になるのでよく聞いてほしい。 <教科書> ・プリント配布 <参考書>	授業計画		備考
	1	自我の強さと悩む力	
	2	心理査定と心理療法	
	3	個人療法と集団療法	
	4	家族療法とその他の心理療法	
	5	ストレスと心理的反応	
	6	心の病のいろいろ	
	7	文化や文明とストレス	
	8	心の健康	
	9	心理テストの種類	
	10	性格と無意識の行動	
	11	性格とストレス耐性	
	12	自己理解と他者理解	
	13	事例から学ぶ(1)	
	14	事例から学ぶ(2)	
	15	事例から学ぶ(3)	
	16	定期試験	
成績評価			
筆記試験・レポート100%			

※1 精神保健福祉士として病院で実務経験32年以上

科目名			区分	
病理学			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	非常勤講師(※1)

<授業概要> 適切なリハビリテーションを実践するためには、疾病についての基礎的な知識を修得している必要がある。本講義では、疾病についての基礎的な知識や病態生理を教授し、さらに病理学の魅力についても伝えたい。 <授業目標(GIO)> 専門科目の学習に必要最低限の病理学的知識と、生涯学習の方法を修得すること。 <行動目標(SBO)> 疾病の基礎的な概念を理解している 主な疾病の病態生理について説明できる 問題解決型の学習法を修得している <授業の留意点> 今までの受動的な学習態度から脱却し、より充実した学習を行うために、自主的な学習態度を身に付け、積極的に疑問に思ったことは質問すること。 <教科書> ・わかりやすい病理学 (南江堂) <参考書> ・標準理学療法学・作業療法学 病理学 (医学書院)	授業計画		備考
	1	オリエンテーション 病因論: 先天異常	講義
	2	病因論: 感染症	講義
	3	炎症と免疫	講義
	4	腫瘍学総論	講義
	5	循環障害	講義
	6	病理学各論: 循環器	講義
	7	退行性・進行性病変	講義
	8	運動骨格器	講義
	9	病理学各論: 消化管	講義
	10	病理学各論: 肝・胆嚢・膵	講義
	11	病理学各論: 呼吸器	講義
	12	病理学各論: 血液疾患・泌尿器	講義
	13	病理学各論: 中枢神経	講義
	14	病理学補講	演習
	15	まとめ	講義
	16	後期定期試験	
成績評価			
筆記試験100%			

※1 医師として病院で実務経験2年以上

科目名			区分	
内科学			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	非常勤講師(※1)

<授業概要> 各症候、疾病がどのようにして発生するかという内科的病態生理を基礎として、要点はプリントに図表を入れ、講義の習得が容易となるように配慮する。	<table><tr><th colspan="2">授業計画</th><th>備考</th></tr><tr><td>1</td><td>・循環器疾患(Ⅰ) 解剖、生理、病因</td><td>講義</td></tr><tr><td>2</td><td>・循環器疾患(Ⅱ) 虚血性心疾患、心不全</td><td>講義</td></tr><tr><td>3</td><td>・循環器疾患(Ⅲ) 高血圧、抹消循環、脳塞栓</td><td>講義</td></tr><tr><td>4</td><td>・糖尿病 合併症、低血糖、高血糖</td><td>講義</td></tr><tr><td>5</td><td>・呼吸器疾患(Ⅰ) 閉塞性換気障害、拘束性換気障害</td><td>講義</td></tr><tr><td>6</td><td>・呼吸器疾患(Ⅱ) 様々な呼吸器疾患、その他</td><td>講義</td></tr><tr><td>7</td><td>・消化器疾患</td><td>講義</td></tr><tr><td>8</td><td>・肝疾患</td><td>講義</td></tr><tr><td>9</td><td>・内分泌疾患</td><td>講義</td></tr><tr><td>10</td><td>・膠原病</td><td>講義</td></tr><tr><td>11</td><td>・生活習慣病 メタボリック、その他</td><td>講義</td></tr><tr><td>12</td><td>・感染症、腫瘍</td><td>講義</td></tr><tr><td>13</td><td>・老年症候群 廃用症候群、フレイル</td><td>講義</td></tr><tr><td>14</td><td>・その他の内科疾患、腎不全</td><td>講義</td></tr><tr><td>15</td><td>・まとめ復習</td><td>講義</td></tr><tr><td>16</td><td>・定期試験</td><td></td></tr></table>	授業計画		備考	1	・循環器疾患(Ⅰ) 解剖、生理、病因	講義	2	・循環器疾患(Ⅱ) 虚血性心疾患、心不全	講義	3	・循環器疾患(Ⅲ) 高血圧、抹消循環、脳塞栓	講義	4	・糖尿病 合併症、低血糖、高血糖	講義	5	・呼吸器疾患(Ⅰ) 閉塞性換気障害、拘束性換気障害	講義	6	・呼吸器疾患(Ⅱ) 様々な呼吸器疾患、その他	講義	7	・消化器疾患	講義	8	・肝疾患	講義	9	・内分泌疾患	講義	10	・膠原病	講義	11	・生活習慣病 メタボリック、その他	講義	12	・感染症、腫瘍	講義	13	・老年症候群 廃用症候群、フレイル	講義	14	・その他の内科疾患、腎不全	講義	15	・まとめ復習	講義	16	・定期試験	
授業計画		備考																																																		
1	・循環器疾患(Ⅰ) 解剖、生理、病因	講義																																																		
2	・循環器疾患(Ⅱ) 虚血性心疾患、心不全	講義																																																		
3	・循環器疾患(Ⅲ) 高血圧、抹消循環、脳塞栓	講義																																																		
4	・糖尿病 合併症、低血糖、高血糖	講義																																																		
5	・呼吸器疾患(Ⅰ) 閉塞性換気障害、拘束性換気障害	講義																																																		
6	・呼吸器疾患(Ⅱ) 様々な呼吸器疾患、その他	講義																																																		
7	・消化器疾患	講義																																																		
8	・肝疾患	講義																																																		
9	・内分泌疾患	講義																																																		
10	・膠原病	講義																																																		
11	・生活習慣病 メタボリック、その他	講義																																																		
12	・感染症、腫瘍	講義																																																		
13	・老年症候群 廃用症候群、フレイル	講義																																																		
14	・その他の内科疾患、腎不全	講義																																																		
15	・まとめ復習	講義																																																		
16	・定期試験																																																			
<授業目標(GIO)> 内科学は医学・医療の基礎であり、系統的に受講することによって、他科目との関連性、共通性を把握する。																																																				
<行動目標(SBO)> 主な症候の病態を理解し、全身的症状の概念を掴む。 主な各疾患について発症原因、病態、症状を理解する。 特に慢性疾患、高齢者に特有な疾患の内部障害を理解することによってリハビリに関する個別対応のあり方につなげることが出来るようにする。																																																				
<授業の留意点> 生理学、解剖学など、人体の機能と特徴をよく理解し、内科学一般の知識を習得することになること。																																																				
<教科書> PT・OT国家試験 専門基礎分野 臨床医学 2019 (医歯薬出版)																																																				
<参考書>	<table><tr><th colspan="2">成績評価</th></tr><tr><td colspan="2">定期試験100%</td></tr></table>	成績評価		定期試験100%																																																
成績評価																																																				
定期試験100%																																																				

※1 医師として病院で実務経験59年以上

科目名			区分	
整形外科学Ⅰ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

授業概要		授業計画	備考
<授業概要> 理学・作業療法士として整形外科疾患を理解することは臨床において重要である。本授業においては、講義を中心に整形外科学の基礎から各疾患に及ぶ幅広い知識を教授し、習得していく。 <授業目標(GIO)> 運動器疾患を体系的に学び、その臨床症状や障害像を理解する。 <行動目標(SBO)> ・四肢・脊柱の構造を理解する。 ・一般的な整形外科疾患の病態生理、症状、経過、治療法、用語を理解する。 ・理学・作業療法士に必要な知識を習得する。 <授業の留意点> ・授業を欠席しない。 ・積極的な授業態度を望む。 ・わからないことはそのまま済ませず、積極的に質問する <教科書> ・「標準整形外科学 第11版」(医学書院) <参考書> ・「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第4版」(医学書院)	1	総論 整形外科とは	講義
	2	整形外科基礎知識 骨・軟骨・関節	講義
	3	整形外科基礎知識 筋・神経	講義
	4	基本的検査 基本的検査・運動器検査・診断について	講義
	5	整形外科の治療法	講義
	6	炎症性疾患 炎症とは	講義
	7	炎症性疾患 感染症	講義
	8	炎症性疾患 非感染性関節疾患・リウマチ	講義
	9	炎症性疾患 その他の炎症性疾患・肩関節周囲炎	講義
	10	代謝・内分泌性疾患 くる病・痛風	講義
	11	退行性疾患 骨粗鬆症・変形性関節症	講義
	12	退行性疾患 変形性関節症	講義
	13	循環障害 四肢・骨・骨端部	講義
	14	骨軟部腫瘍	講義
	15	脊椎の疾患	講義
	16	定期試験	
成績評価			・筆記試験:100%

※1 理学療法士として病院で実務経験15年以上

科目名			区分	
整形外科科学Ⅱ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 理学・作業療法士として整形外科疾患を理解することは臨床において重要である。本授業においては、講義を中心に理学・作業療法士が臨床で遭遇する整形外科分野の代表疾患を中心に幅広い知識を教授し、習得していく。 <授業目標(GIO)> 運動器疾患を体系的に学び、その臨床症状や障害像を理解する。 <行動目標(SBO)> ・四肢・脊柱の構造を理解する。 ・一般的な整形外科疾患の病態生理、症状、経過、治療法、用語を理解する。 ・理学・作業療法士に必要な知識を習得する。 <授業の留意点> ・授業を欠席しない。 ・積極的な授業態度を望む。 ・わからないことはそのまま済ませず、積極的に質問する <教科書> ・「標準整形外科学 第11版」(医学書院) <参考書> ・「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第3版」(医学書院)	授業計画		備考
	1	骨折とは	講義
	2	骨折上肢 上腕骨近位端骨折・上腕骨顆上骨折	講義
	3	骨折上肢 前腕骨骨折、モンテジア骨折、舟状骨骨折、ペネット骨折、槌指	講義
	4	骨折下肢 大腿骨近位部骨折、脛骨近位端骨折、下腿骨骨折	講義
	5	骨折下肢 足関節部骨折、踵骨骨折、中足骨骨折	講義
	6	脊髄損傷	講義
	7	捻挫と脱臼	講義
	8	末梢神経障害	講義
	9	末梢神経障害	講義
	10	腱・靱帯における外傷性疾患	講義
	11	スポーツ障害	講義
	12	スポーツ障害	講義
	13	熱傷・切断	講義
	14	片手症候群・CRPS	講義
	15	まとめ	講義
16	定期試験		
成績評価			
・筆記試験:100%			

※1 理学療法士として病院で実務経験15年以上

科目名			区分	
神経内科学 I			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	非常勤講師(※1)

<授業概要> リハビリテーションの主な対象となる神経疾患の病態と診断、治療について学ぶ。 神経疾患特有の障害に対する検査法と基本的なリハビリテーションへの理解を深める。 <授業目標(GIO)> 神経疾患による障害に対するリハビリテーションを安全に実施するために、疾患の病態、検査、治療、管理を理解する。 <行動目標(SBO)> リハビリテーションを安全に行う上で必要な医学的管理とそれに関連する情報を収集することができる。 神経疾患による障害に対して、適切な検査方法を選択できる。 <授業の留意点> リハビリテーションを実施する上で必要な医学的情報について理解し、神経疾患に対する知識を身につけること。 <教科書> 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 (医学書院) <参考書> ・必要に応じて参考プリントを配ります。 ・板書もするのでノートも準備するように。	授業計画		備考
	1	・障害とリハビリテーションプログラム	講義
	2	・中枢神経系の解剖と機能(復習)	講義
	3	・中枢神経系の解剖と機能(復習)	講義
	4	・脳血管障害	講義
	5	・脳血管障害	講義
	6	・脳血管障害のリハビリテーション	講義
	7	・脳血管障害のリハビリテーション	講義・演習
	8	・脊髄疾患	講義
	9	・脊髄疾患	講義
	10	・脊髄疾患	講義
	11	・廃用症候群と誤用症候群、合併症	講義
	12	・廃用症候群と誤用症候群、合併症	講義
	13	・廃用症候群と誤用症候群、合併症	講義
	14	・総括	講義
	15	・まとめ	講義
	16	期末試験	
成績評価			
筆記試験90%、課題提出10%			

※1 医師として病院で実務経験30年以上

科目名			区分	
神経内科学Ⅱ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> リハビリテーションの主な対象となる神経意疾患の病態と診断、治療について学ぶ。神経疾患特有の障害に対する検査法と基本的なリハビリテーションへの理解を深める。 <授業目標(GIO)> 神経疾患による障害に呈するリハビリテーションを安全に実施するために、疾患の病態、検査、治療、管理を理解する。 <行動目標(SBO)> リハビリテーションを安全に行う上で必要な医学的管理とそれに関連する情報を収集することができる。神経疾患による障害に対して、適切な検査方法を身につけること。 <授業の留意点> リハビリテーションを実施する上で必要な医学的情報について理解し、神経疾患に対する知識を身につける。 <教科書> 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学(医学書院) 病気が見える 脳と神経 <参考書> 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 プロメテウス解剖学アトラス 神経解剖	授業計画		備考
	1	中枢神経系の解剖と機能について	講義
	2	神経症候学 ①意識障害	講義
	3	神経症候学 ②運動麻痺、錐体路徴候	講義
	4	神経症候学 ③錐体外路徴候	講義
	5	神経症候学 ④運動失調	講義
	6	神経症候学 ⑤感覚障害	講義
	7	高次機能障害 ①	講義
	8	高次神経障害 ②	講義
	9	認知症	講義
	10	構音障害	講義
	11	嚥下障害	講義
	12	変性疾患、脱髄疾患	講義
	13	錐体外路の変性疾患	講義
	14	筋疾患	講義
	15	まとめ	講義
	16	定期試験	筆記試験
成績評価			
定期試験:100%			

※1 作業療法士として病院及び介護老人保健施設で実務経験13年以上

科目名			区分	
脳神経外科学			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	非常勤講師(※1)

	授業計画		備考
<授業概要> 各症候、疾病がどのようにして発生するかという脳神経外科学的病態生理を基礎として、要点はプリントにまとめ、講義の習得が容易となるように配慮する。 講義ではCT、MRIなどの最新画像を多く提示し画像に慣れるように指導する。	1	総論	講義
	2	神経系の解剖と機能	講義
	3	主要神経症候と病態	講義
	4	神経心理学	講義
<授業目標(GIO)> 脳神経外科学はセラピストに必須の学問であり、解剖を含めて系統的に受講することによって、中枢性疾患の基礎を習得する。	5	脳血管障害の急性期から慢性期におけるリハビリテーションの関与	講義
	6	脳血管障害	講義
	7	頭部外傷	講義
<行動目標(SBO)> 中枢神経学的疾患を理解し、症状の概念を掴む。 脳や脊髄の疾患を解剖学的基礎から機能まで理解を深めリハビリテーションの臨床へ応用できるようにする。	8	脳腫瘍	講義
	9	脊髄・脊椎疾患	講義
	10	機能脳神経外科	講義
	11	中枢神経系の炎症性疾患	講義
	12	先天異常、水頭症など	講義
	13	まとめ(1)	講義
<授業の留意点> 神経解剖を基礎として脳神経外科学的疾患や神経心理学の理解を深めること。	14	まとめ(2)	講義
	15	まとめ(3)	講義
	16	後期末試験	
<教科書> 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学(医学書院)	成績評価		
	筆記試験100%		
<参考書> まとめとして、プリントを配布			

※1 医師として病院で実務経験34年以上

科目名			区分	
精神医学Ⅰ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> リハビリテーション実践の場で必要とされる精神症状や精神疾患を有する患者に必要な、基本的事項について学ぶ。		授業計画	備考
	1	オリエンテーション 精神医学とは	
	2	精神機能の障害と精神症状	
	3	精神機能の障害と精神症状	
	4	精神機能の障害と精神症状	
<授業目標(GIO)> リハビリテーション実践の場で必要とされる精神症状や精神疾患を有する患者に必要な、基本的事項について学ぶ。	5	精神機能の障害と精神症状	
	6	統合失調症およびその関連障害	
	7	統合失調症およびその関連障害	
	8	気分障害	
	9	気分障害	
	10	認知症	
	11	神経症性障害	
	12	精神作用物質による障害	
	13	パーソナリティ障害 精神遅滞	
	14	てんかん 摂食障害	
<教科書> 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学(第4版) 医学書院	15	心理的発達の障害	
<参考書> 現代臨床精神医学(改訂第11版) 金原出版 標準精神医学(第3版) 医学書院	16	定期試験	
		成績評価	
		定期試験:100%	

※1 作業療法士として病院で実務経験7年以上

科目名			区分	
精神医学Ⅱ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 基礎となる「精神医学Ⅰ」を履修した者として、医療に従事するために必要な精神疾患の概念を学び、将来、相対する患者さんに対し自ら判断し行動するための準備を促す。 <授業目標(GIO)> 精神医療の歴史や背景を踏まえたうえで精神疾患の病態像や特徴を知り、その対応ができるようになる。 <行動目標(SBO)> ・各疾患の特徴について理解する。 ・各疾患の発症機序、転帰、予後について理解する。 ・各疾患の治療と援助について現状を理解し、考える。 <授業の留意点> <教科書> 標準PT・OT学 専門基礎分野 精神医学 第4版(医学書院) <参考書> 精神障害の理解と精神科作業療法	授業計画		備考
	1	オリエンテーション、精神医療の歴史	講義
	2	社会・文化とメンタルヘルス	講義
	3	症候論-精神機能の障害と精神症状-	講義
	4	症候論-精神機能の障害と精神症状-	講義
	5	症候論-精神機能の障害と精神症状-	講義
	6	精神障害の診断と評価	講義
	7	精神障害の診断と評価	講義
	8	精神障害の診断と評価	講義
	9	統合失調症	講義
	10	統合失調症	講義
	11	統合失調症	講義
	12	気分障害	講義
	13	気分障害	講義
	14	気分障害	講義
	15	精神障害の治療とリハビリテーション	講義
	16	定期試験	
成績評価			
定期試験:100%			

※1 作業療法士として病院で実務経験7年以上

科目名			区分	
小児科学			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1) 専任教員(※2) 専任教員(※3) 非常勤講師(※4)

<授業概要> ・子どもの出生から思春期にいたるまでの健康と発達を理解し、将来の社会人として最大限の能力を発揮できるように支援することを学ぶ。子どもの体の生長と機能の発達の特徴を学び、その正常な生長と発達の障害の原因を理解する。如何にして子どもの健康状態を評価するかの基礎知識を得る。次年次以降の小児の障害対策について知識と技能を習得する基礎知識を養う。	授業計画		備考
<授業目標(GIO)> ・将来、医療に携わる専門職として不可欠な小児の生長と発達について、及び育児環境について社会体制を含め体系的な理解を得る。 <行動目標(SBO)> ・子どもの成長と発達について各期の特徴を述べるができる。 ・子どもは大人の体を小さくしただけではないことを科学的に述べるができる。 ・小児期の育児環境が及ぼす将来への影響を説明できる。 ・小児期に特徴的な身体と精神の疾患について説明できる。 ・育児に関する社会福祉体制を述べるができる。 <授業の留意点> ・生理的な成長、発達にとどまらず、子どもを取り巻く社会環境を含めて広く小児科学を理解する。子どもが社会の宝であることを理解し、守り育てることを学ぶ。 <教科書> ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学(医学書院) <参考書>	1	・小児科学とは	講義
	2	・成長と発達	講義
	3	・診断と治療	講義
	4	・新生児と未熟児	講義
	5	・先天異常と遺伝病	講義
	6	・神経・筋・骨格の疾患(1)	講義
	7	・神経・筋・骨格の疾患(2)	講義
	8	・小児のガン ・児童虐待	講義
	9	・循環器	講義
	10	・呼吸器	講義
	11	・眼科、耳鼻科	講義
	12	・心身医学的疾患、虐待	講義
	13	・消化器疾患と小児ガン	講義
	14	・小児科学トピックス	講義
	15	・まとめ	講義
	16	・前期定期試験	
成績評価			
・筆記試験:100%			

※1 理学療法士として病院で実務経験15年以上

※2 作業療法士として介護老人保健施設で実務経験3年以上

※3 作業療法士として病院で実務経験5年以上

※4 医師として病院で実務経験37年以上

科目名			区分	
リハビリテーション医学			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1) 専任教員(※2) 非常勤講師(※3)

<授業概要> リハビリテーション医学とは何か、成り立ちと今後について、さらに基礎となる学問体系を概説し、リハビリテーションで対象となる疾患に対する診断や治療の進め方を解説する。 <授業目標(GIO)> 概略と歴史を学び、疾患別のリハビリテーションを学ぶことで基礎科目の重要性を知り、学習意欲につなげる。 <行動目標(SBO)> ・リハビリテーションの一連の流れ、概略、歴史について説明できる。 ・疾患別のリハビリテーションを説明できる。 <授業の留意点> <教科書> PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論 改訂第2版 診断と治療社 <参考書>	授業計画		備考
	1	リハビリテーション医学とは何か	
	2	リハビリテーション医学とは何か	
	3	リハビリテーション医学とは何か	
	4	リハビリテーション医学とは何か	
	5	脳卒中のリハビリテーション	
	6	パーキンソン症候群のリハビリテーション	
	7	神経・筋疾患のリハビリテーション	
	8	脊髄損傷のリハビリテーション	
	9	四肢切断のリハビリテーション	
	10	運動器疾患のリハビリテーション	
	11	関節リウマチのリハビリテーション	
	12	脳性麻痺のリハビリテーション	
	13	心筋梗塞のリハビリテーション	
	14	呼吸器疾患のリハビリテーション	
	15	生活習慣病のリハビリテーション	
	16	定期試験	
成績評価			
筆記試験:100%			

※1 理学療法士として病院で実務経験15年以上

※2 作業療法士として病院及び介護老人保健施設で実務経験13年以上

※3 医師として病院で実務経験41年以上

科目名			区分	
リハビリテーション概論			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1) 専任教員(※2) 非常勤講師(※3)

<授業概要> リハビリテーションの理念と基本原理及びその仕組みについて学習する。病気・障害・発達・心理等の基本的内容について教授する。その後、リハビリテーションの諸段階及びリハビリテーションの過程の概要を学習する。 リハビリテーション概論で学習した内容を基盤として、各専門分野の理解が深まることを目的とする。	<table><tr><th colspan="2">授業計画</th><th>備考</th></tr><tr><td>1</td><td>オリエンテーション ・障害者と社会</td><td>講義</td></tr><tr><td>2</td><td>・リハビリテーションの定義と目的</td><td>講義</td></tr><tr><td>3</td><td>・病気とは</td><td>講義</td></tr><tr><td>4</td><td>・障害とは</td><td>講義</td></tr><tr><td>5</td><td>・患者と障害者 ・慢性疾患モデル</td><td>講義</td></tr><tr><td>6</td><td>・機能志向的アプローチ ・ヘルスケア・システムと包括的ケア</td><td>講義</td></tr><tr><td>7</td><td>・発達とは ・人間活動</td><td>講義</td></tr><tr><td>8</td><td>・人間活動 ・現代の障害観と国際生活機能分類</td><td>講義</td></tr><tr><td>9</td><td>・リハビリテーションの諸段階 発症から社会生活へ／リハビリテーションの諸領域</td><td>講義</td></tr><tr><td>10</td><td>・リハビリテーションの諸段階 リハビリテーションの諸領域 ・社会保障制度</td><td>講義</td></tr><tr><td>11</td><td>・評価とプログラム ・チームアプローチと専門職</td><td>講義</td></tr><tr><td>12</td><td>・わが国における各専門職 ・リハビリテーションの手段</td><td>講義</td></tr><tr><td>13</td><td>・リハビリテーションの手段 言語訓練(言語聴覚療法の実践)</td><td>講義</td></tr><tr><td>14</td><td>・リハビリテーションと心理 心理アセスメント／心理的機能とその障害／心理的適応の過程</td><td>講義</td></tr><tr><td>15</td><td>理学療法士・作業療法士を目指す学生として</td><td>演習</td></tr><tr><td>16</td><td colspan="2">定期試験</td></tr></table>	授業計画		備考	1	オリエンテーション ・障害者と社会	講義	2	・リハビリテーションの定義と目的	講義	3	・病気とは	講義	4	・障害とは	講義	5	・患者と障害者 ・慢性疾患モデル	講義	6	・機能志向的アプローチ ・ヘルスケア・システムと包括的ケア	講義	7	・発達とは ・人間活動	講義	8	・人間活動 ・現代の障害観と国際生活機能分類	講義	9	・リハビリテーションの諸段階 発症から社会生活へ／リハビリテーションの諸領域	講義	10	・リハビリテーションの諸段階 リハビリテーションの諸領域 ・社会保障制度	講義	11	・評価とプログラム ・チームアプローチと専門職	講義	12	・わが国における各専門職 ・リハビリテーションの手段	講義	13	・リハビリテーションの手段 言語訓練(言語聴覚療法の実践)	講義	14	・リハビリテーションと心理 心理アセスメント／心理的機能とその障害／心理的適応の過程	講義	15	理学療法士・作業療法士を目指す学生として	演習	16	定期試験	
授業計画		備考																																																		
1	オリエンテーション ・障害者と社会	講義																																																		
2	・リハビリテーションの定義と目的	講義																																																		
3	・病気とは	講義																																																		
4	・障害とは	講義																																																		
5	・患者と障害者 ・慢性疾患モデル	講義																																																		
6	・機能志向的アプローチ ・ヘルスケア・システムと包括的ケア	講義																																																		
7	・発達とは ・人間活動	講義																																																		
8	・人間活動 ・現代の障害観と国際生活機能分類	講義																																																		
9	・リハビリテーションの諸段階 発症から社会生活へ／リハビリテーションの諸領域	講義																																																		
10	・リハビリテーションの諸段階 リハビリテーションの諸領域 ・社会保障制度	講義																																																		
11	・評価とプログラム ・チームアプローチと専門職	講義																																																		
12	・わが国における各専門職 ・リハビリテーションの手段	講義																																																		
13	・リハビリテーションの手段 言語訓練(言語聴覚療法の実践)	講義																																																		
14	・リハビリテーションと心理 心理アセスメント／心理的機能とその障害／心理的適応の過程	講義																																																		
15	理学療法士・作業療法士を目指す学生として	演習																																																		
16	定期試験																																																			
<授業目標(GIO)> ・リハビリテーションの理念やリハビリテーションの基本的な考え方(病気・障害・心理等)、及びリハビリテーションの流れについて理解する。																																																				
<行動目標(SBO)> ・リハビリテーションの概念理解が出来る。 ・病気の概念理解が出来る。 ・障害の概念理解が出来る。 ・発達の概念理解が出来る。 ・人間活動の階層構造が理解出来る。 ・ハビリテーションとノーマライゼーションについて説明できる。 ・国際生活機能分類の概略が理解出来る。 ・神経心理学とその内容について説明出来る。 ・臨床心理学とその内容について説明出来る。 ・発症からリハビリテーション終了までの過程と諸段階での課題について説明出来る。 ・医学的・教育的・職業的・社会的・高齢者の諸相について説明出来る。 ・リハビリテーションのプロセスとリハビリテーションの手段について説明出来る。																																																				
<授業の留意点> 教科書のすべてを授業では行えません。講義が終わった項目までは、当日、教科書を読み直し復習を充分に行うこと。 リハビリテーションを学習する上での基本となる科目であることを充分認識しておくこと。																																																				
<教科書・参考書> 教科書:入門 リハビリテーション概論 第7版 中村隆一 編 医歯薬出版 リハビリテーション総論 診断と治療社 参考書:必要であれば適時配布	<table><tr><th colspan="2">成績評価</th></tr><tr><td>※1</td><td>定期試験:100%</td></tr><tr><td>※2</td><td>定期試験:100%</td></tr><tr><td>※3</td><td>筆記試験:80%、小テスト:20%</td></tr></table>	成績評価		※1	定期試験:100%	※2	定期試験:100%	※3	筆記試験:80%、小テスト:20%																																											
成績評価																																																				
※1	定期試験:100%																																																			
※2	定期試験:100%																																																			
※3	筆記試験:80%、小テスト:20%																																																			

※1 作業療法士として病院及び介護老人保健施設で実務経験13年以上

※2 言語聴覚士として病院及び介護老人保健施設で実務経験6年以上

※3 理学療法士として病院及び介護老人保健施設で実務経験9年以上

科目名			区分	
社会福祉学			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	非常勤講師(※1)

<授業概要> 私たちの生活を考察し、ライフスタイル、社会の変化について理解を深め、社会保障制度等の仕組みについて学ぶ。介護保険、障害者自立支援法、その他諸制度について学び理解を深める。また、制度改正に関しても情報提供を受け、時代の動きを理解する。クライアントをサポートするために必要な、医療・保健・福祉の連携について理解する。	授業計画		備考
	1	○ オリエンテーション ○ 社会福祉とは	講義
	2	○ 社会福祉の基本的な考え方 ○ 私たちの生活と社会福祉①	講義 DVD視聴
	3	○ 私たちの生活と社会福祉② ○ 日本の社会保障制度①	講義
<授業目標(GIO)> クライアントを、生活する人としてとらえ、その暮らしに関わっていくことを理解する。様々な社会福祉の基礎知識を得て、社会福祉制度に関して理解を深め、今、社会福祉がどのような現状にあり、課題を抱えているのか知り、考察する。	4	○ 日本の社会保障制度②	講義
	5	○ 現代社会と社会保障制度①	講義
	6	○ 現代社会と社会保障制度②	講義
	7	○ 介護保険制度のあり方①	講義
<行動目標(SBO)> ①私たちの生活と社会福祉 ②社会保障の仕組み ③介護保険制度のあり方 ④障害者の自立支援を担う法制度のあり方 ⑤人々の権利を擁護する諸制度の仕組み ⑥認知症の理解	8	○ 介護保険制度のあり方②	講義
	9	○ 障害者の自立支援を担う法制度	講義
	10	○ 人々の権利を擁護する諸制度	演習 講義
	11	○ 保健医療に関わる制度	講義
<授業の留意点>	12	○ 生活を支える諸制度	講義
	13	○ 認知症の理解	講義・演習
	14	○ 認知症ケアについて ○ 講義全体のまとめ	DVD視聴・演習 講義
	15	○ まとめ復習	講義
<教科書> 最新 介護福祉士養成講座2 社会の理解 (中央法規出版)	16	定期試験	
<参考書>	成績評価		
	筆記試験80%、レポート作成10%、随時テスト10%		

※1 社会福祉士として病院及び特別養護老人ホーム等で実務経験23年以上

科目名			区分	
法令・管理運営学			基礎・専門基礎・専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 後期・通年	30 (1)	講義・演習・実習	専任教員(※1) 専任教員(※2)

<授業概要> 病や障害を抱えて地域で生活することのイメージを上げ、障害者を取り巻く法の持つ意味を理解する <授業目標(GIO)> 障害者が地域で生活することの価値を認めることができる。併せて、彼らの生活を取り巻く法の意義について理解することができる <行動目標(SBO)> ①関連法規を列挙し、説明することができる ②地域で生活する障害者の姿から、障害者が地域で生活することの課題を述べるができる ③地域で障害者が生活を行う上で必要な生活支援の視点について説明することができる ④地域で障害者が生活を行う上で活用できる社会資源を列挙することができる <授業の留意点> 図書館での学習、施設見学など学外授業が多いので、授業の場所、内容等確認すること <教科書> 地域作業療法学、作業療法概論(医学書院) <参考書> 教員が随時資料を配布	授業計画		備考
	1	・授業概要のオリエンテーション ・日本における保険システムについてと医療保険及び介護保険の概要を学ぶ	講義
	2	・地域包括ケアシステム(構築が必要となる背景、構成要素、自助・互助・公助からみた地域包括ケアシステム)に加え地域包括支援センターの働きについて学ぶ	講義
	3	○精神障害関連法規等① 精神障害者を取り巻く法の変遷を振り返り精神障害者と人権について討議する	講義
	4	○精神障害関連法規等② 精神保健福祉法、入院形態、精神障害者の権利擁護の仕組みについて理解する	講義
	5	○精神障害関連法規等③ 心神喪失者等医療観察法について、法制定の背景と法の概要を学習する	講義
	6	・各班に分かれ、9・10回目に見学する施設の働きや関連する法規について調べ学習。学習したものを発表用にまとめる	グループ学習
	7	・各班に分かれ、9・10回目に見学する施設の働きや関連する法規について調べ学習。学習したものを発表用にまとめる	グループ学習
	8	・各班の調べ学習の発表。質疑・応答・教員より解説を行う	グループ発表
	9	・各班に分かれ、障害者雇用促進法及び障害者総合支援法に関連する施設の見学を行う	グループ別施設見学
	10	・各班に分かれ、障害者雇用促進法及び障害者総合支援法に関連する施設の見学を行う	
	11	・見学した施設についての発表。質疑・応答・教員より解説を行う	グループ発表
	12	・障害者の権利を守る制度(日常生活自立支援事業・成年後見制度)についての概要を学ぶ	
	13	・管理運営概論(人的資源、財務、患者情報、医療・事務機器)・組織について学ぶ	講義
	14	・リスクとは、リスクマネジメントとは、ヒューマンエラーの要因及び対応について学ぶ	講義
	15	・個人情報保護法についての概要・医療分野に関わる内容について学ぶ	講義
	16	定期試験	
成績評価			
※1 筆記試験:100%			
※2 筆記試験:80%、各種課題の取り組み状況等:20%			

※1 作業療法士として保健所で実務(精神保健業務)経験7年以上 介護老人保健施設で実務経験3年以上

※2 作業療法士として病院で実務経験7年以上

科目名			区分	
作業療法概論 I			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 演習 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 本科目は、作業療法学科に入学した学生が作業療法・作業療法士について最初に学習する科目である。本科目では、まず作業療法士を目指す学生として相応しい態度や知識について理解し、作業療法士としての資質を身につけることが重要な目的となる。本科目で学んだ内容は、1年次にある「作業療法概論実習」において活かされることになる。 <授業目標(GIO)> - 作業療法士がどのような職業であるかを理解することができる。 <行動目標(SBO)> - 作業療法とは何かを説明することができる。 - 作業とは何かを説明することができる。 - 作業療法に求められる資質を理解することができる。 - 患者に対する良好なコミュニケーションをとることができる。 <授業の留意点> 積極的に授業に参加し、自ら「考え」「発言」する習慣を付けること。 <教科書> 標準作業療法学 専門分野 作業療法概論 (医学書院) <参考書> 適宜 資料配布	授業計画		備考
	1	作業療法・作業とは何か ①	講義
	2	作業療法・作業とは何か ②	講義
	3	作業療法の対象と範囲 ①	講義
	4	作業療法の対象と範囲 ②	講義
	5	作業療法士とは ①	講義
	6	作業療法士とは ②	講義
	7	作業療法士に求められる資質と適性 (教員インタビュー・発表)	演習
	8	作業療法士に求められる資質と適性 (教員インタビュー・発表)	演習
	9	作業療法の分野について ①	講義
	10	作業療法の分野について ②	講義
	11	作業療法の分野について ③	講義
	12	障害体験 ①	講義
	13	障害体験 ①	講義
	14	障害体験をして	講義
	15	まとめ	講義
	16	筆記試験	
成績評価			
課題・課題レポート100%			

※1 作業療法士として病院及び介護老人保健施設等で実務経験19年以上

科目名			区分	
作業療法概論Ⅱ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 本科目では、作業療法概論Ⅰおよび作業療法概論実習を踏まえ、作業療法士がいかなる職業であるかを、より深く学習する。作業療法士が医療の専門職であることを明確に理解することが本科目の重要な目的である。 <授業目標(GIO)> ・作業療法士がどのような職業であるかを理解することができる。 <行動目標(SBO)> ・作業療法士の歴史について説明することができる。 ・作業療法の定義を説明することができる。 ・作業療法と関連する職種とチーム医療の重要性について理解することができる。 ・障害受容について説明することができる ・分野毎の作業療法の実践過程について理解することができる。 ・理学療法士・作業療法士法について説明することができる <授業の留意点> 教科書の予習・復習を十分に行うこと。 <教科書> 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 作業療法学概論 改訂第2版 <参考書>	授業計画		備考
	1	作業療法の歴史	
	2	作業療法の歴史	
	3	作業療法の定義	
	4	作業療法の定義	
	5	作業療法の対象	
	6	チーム・アプローチについて	
	7	チーム・アプローチについて	
	8	ICFについて	
	9	障害受容について	
	10	作業療法の実践過程	
	11	作業療法の実践過程	
	12	作業療法の実践過程	
	13	作業療法の実践過程	
	14	理学療法士・作業療法士法について	
	15	作業療法士の倫理	
	16	定期試験	
成績評価			
筆記試験:70%、課題レポート:30%			

※1 作業療法士として保健所で実務(精神保健業務)経験7年以上、介護老人保健施設で実務経験3年以上

科目名			区分	
作業療法概論実習			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	45 (1)	講義 ・ 演習 実習	臨床実習指導者

<授業概要> 身体障害領域の作業療法を実践する医療機関もしくは介護老人保健施設で行う1週間の見学を主体とした実習である。
<授業目標(GIO)> 作業療法実践の場を見学することで、社会人としての基本的態度を身につけるとともに作業療法に対するイメージを持ち、その後の学習へとつなげる。
<行動目標(SBO)> 対象者及び職員とのコミュニケーションを通して、障害を持つ人への対応や、社会人としての基本的態度を身につける 対象者とコミュニケーションを深めることができる 作業療法実践の場を見学し、作業療法のイメージを持つことができる 実習を通して作業療法に対する興味・関心を高め、自らの課題を自覚し、今後の学習につなげる
<授業の留意点> 臨床実習指導者の指導のもとに実習を行う 実習にあたっては、学校での入念な準備が必要である。校内では4月から「実習対策」を実施するので、積極的に取り組むこと
<教科書> 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 作業療法学概論 改訂第2版
<参考書> 必要に応じて適宜指示する

実習計画
2019年8月19日～2019年8月24日の1週間実施
成績評価
臨床実習指導者の成績:80%、提出物:10%、報告会:10%

科目名			区分	
基礎作業学			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 作業が有する治療的効果について、作業分析等の技法を用いて学習する。身体運動的側面から作業分析を行う際には解剖学、運動学的視点を必要とする。また、基礎作業学で習得した知識を基盤として、基礎作業学演習Ⅰ・Ⅱでは、具体的な作業を体験し作業の治療的応用が実践できるようになることを目的としている。 <授業目標(GIO)> 「作業」の治療的特性を、作業・活動分析を通して、どのように対象者に適用していくのかを理解する。 <行動目標(SBO)> ①作業が作業療法に用いられる理由を説明できる ②治療手段としての作業の特性を説明できる ③作業分析を行うことの重要性と意味を説明できる ④作業の分類について説明できる ⑤作業分析を行うことができる (身体・認知・心理社会的各々の側面から) <授業の留意点> <教科書> ①ひとと作業・作業活動 第2版 (三輪書店) <参考書> ①標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第3版(医学書院) ②その他資料を随時配布	授業計画		備考
	1	○授業概要のオリエンテーション ○人間と作業	
	2	○作業療法と「作業」について	
	3	○作業の分類	
	4	○治療手段としての作業の特性	
	5	○治療手段としての作業の特性	
	6	○作業分析	
	7	○作業分析	
	8	○作業分析	
	9	○身体運動技能と作業分析①	
	10	○身体運動技能と作業分析②	
	11	○認知技能と作業分析①	
	12	○認知技能と作業分析②	
	13	○心理社会的技能と作業分析①	
	14	○心理社会的技能と作業分析②	
	15	授業の総括	
	16	定期試験	
成績評価			
筆記試験:90%、課題レポート:10%			

※1 作業療法士として保健所で実務(精神保健業務)経験7年以上、介護老人保健施設で実務経験3年以上

科目名			区分	
基礎作業学演習Ⅰ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> ・作業が有する治療的効果について、作業活動の演習、作業分析等の技法を用いて実践的に学習する。 ・基礎作業学の実技演習としての位置づけである。	授業計画		備考
	1	革細工	講義・演習
<授業目標(GIO)> ・作業工程を理解し、臨床場面でも実際に用いることが出来るようになるために作品作りを体験する。 ・どのような疾患に適用できるのか、作業工程を通してどのような効果が得られるのかを理解する。	2	革細工	演習
	3	革細工	演習
	4	革細工	演習
<行動目標(SBO)> ・作業分析を実践し、治療的要素をとらえることができる。 ・治療目的に応じ作業活動を適用することができる。 ・治療手段としての作業活動を実践することができる。	5	革細工	演習
	6	革細工	演習 小テスト・レポート
	7	塗り絵	講義
	8	塗り絵	演習
	9	塗り絵	演習
	10	塗り絵	演習 小テスト・レポート
<授業の留意点> ・道具、材料等の物品の管理は責任を持って行うこと。 ・演習の際は、汚れてもかまわない服装で臨むこと。	11	タイルモザイク	講義・演習
	12	タイルモザイク	演習
	13	タイルモザイク	演習
<教科書> 作業―その治療的応用 第2版(共同医書出版社)	14	タイルモザイク	演習
	15	タイルモザイク	演習 小テスト・レポート
<参考書> ・作業療法学 作業学 改訂第2版(メジカルビュー) ・ひとと作業・作業活動 第2版(三輪書店) ・資料を随時配布	成績評価		
	小テスト:30%		
	レポート:50%		
			提出物・演習点:20%

※1 作業療法士として病院で実務経験7年以上

科目名			区分	
基礎作業学演習Ⅱ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> ・作業が有する治療的効果について、作業活動の演習、作業分析等の技法を用いて実践的に学習する。 ・基礎作業学の実技演習としての位置づけである。 <授業目標(GIO)> ・作業工程を理解し、臨床場面でも実際に用いることが出来るようになるために作品作りを体験する。 ・どのような疾患に適用できるのか、作業工程を通してどのような効果が得られるのかを理解する。 <行動目標(SBO)> ・作業分析を実践し、治療的要素をとらえることができる。 ・治療目的に応じ作業活動を適用することができる。 ・治療手段としての作業活動を実践することができる。 <授業の留意点> ・道具、材料等の物品の管理は責任を持って行うこと。 ・演習の際は、汚れてもかまわない服装で臨むこと。 <教科書> 作業―その治療的応用 第2版(共同医書出版社) <参考書> ・作業療法学 作業学 改訂第2版(メジカルビュー) ・ひとと作業・作業活動 第2版(三輪書店) ・資料を随時配布	授業計画		備考
	1	アンデルセン(紙細工)	講義・演習
	2	アンデルセン(紙細工)	演習
	3	アンデルセン(紙細工)	演習
	4	アンデルセン(紙細工)	演習
	5	アンデルセン(紙細工)	演習/小テスト レポート
	6	陶芸	講義・演習
	7	陶芸	演習
	8	陶芸	演習
	9	陶芸	演習
	10	陶芸	演習/小テスト レポート
	11	木工	講義・演習
	12	木工	演習
	13	木工	演習
	14	木工	演習
	15	木工	演習/小テスト レポート
	成績評価		
	小テスト:30%		
	レポート:50%		
	提出物・演習点:20%		

※1 作業療法士として病院で実務経験7年以上

科目名			区分	
症例研究法演習Ⅰ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 1. 作業療法分野のケーススタディの意義と目的を知る 2. 論理的、客観的で、ケーススタディ指針に沿った記述を学ぶ 3. ケーススタディの各項目(テーマ、評価とその結果、結果の分析・解釈、目標の設定、治療計画、考察など)について学ぶ	<table><tr><th colspan="2">授業計画</th><th>備考</th></tr><tr><td>1</td><td>○授業概要のオリエンテーション 授業の流れと精神科評価実習の概要を理解し、ケーススタディの意義を学習する</td><td>講義</td></tr><tr><td>2</td><td>○評価の流れについて 精神科評価実習で評価すべき項目、評価実習の流れを理解し、精神科領域における作業療法評価の視点を学習する</td><td>講義</td></tr><tr><td>3</td><td>○観察法とその記録 観察評価の構造、アセスメントの視点を理解し、作業分析を用いた観察評価の視点を学習する</td><td>講義</td></tr><tr><td>4</td><td>○観察法とその記録 処方薬によるアセスメントを学習した後仮想ケースを提示し、ロールプレイのシナリオ(統合失調症・双極性障害)作成を演習する</td><td>演習</td></tr><tr><td>5</td><td>○観察法とその記録 観察評価のロールプレイ(統合失調症・双極性障害)を行い、観察評価の実践を演習する</td><td>演習</td></tr><tr><td>6</td><td>○観察法とその記録 SOAPによる観察評価の記録を演習し、その内容をフィードバックする</td><td>演習</td></tr><tr><td>7</td><td>○情報収集・面接法とその記録 情報収集の留意点・面接の技法を理解する</td><td>講義</td></tr><tr><td>8</td><td>○情報収集・面接法とその記録 面接評価を実践をロールプレイを通じ演習し、その内容をフィードバックする</td><td>演習</td></tr><tr><td>9</td><td>○評価のまとめと問題点の抽出(ケーススタディ) SOAP記録による評価のまとめについて理解し、ICFによる全体像のまとめを演習する</td><td>演習</td></tr><tr><td>10</td><td>○評価のまとめと問題点の抽出(ケーススタディ) 問題と問題点の違いについて学習し、仮想ケースによるケースレポートの作成を演習する</td><td>演習</td></tr><tr><td>11</td><td>○評価のまとめと問題点の抽出(ケーススタディ) 学生が作成したケースレポート(焦点化と問題点の抽出まで)をフィードバックする</td><td>講義</td></tr><tr><td>12</td><td>○目標設定とプログラム作成(ケーススタディ) 目標設定(長期目標と短期目標)の考え方について学習する</td><td>講義</td></tr><tr><td>13</td><td>○目標設定とプログラム作成(ケーススタディ) 治療構造を意識したプログラム立案、考察の書き方、引用文献の記し方を学習し、ケースレポートの作成を演習する</td><td>演習</td></tr><tr><td>14</td><td>○初期評価レポートの作成(ケーススタディ) 学生が作成したケースレポート(目標設定・プログラム立案・考察)のフィードバックを行う</td><td>講義</td></tr><tr><td>15</td><td>○授業のまとめ 精神科評価実習に向けた授業の意義を振り返る</td><td>講義</td></tr><tr><td>16</td><td>定期試験</td><td></td></tr></table>	授業計画		備考	1	○授業概要のオリエンテーション 授業の流れと精神科評価実習の概要を理解し、ケーススタディの意義を学習する	講義	2	○評価の流れについて 精神科評価実習で評価すべき項目、評価実習の流れを理解し、精神科領域における作業療法評価の視点を学習する	講義	3	○観察法とその記録 観察評価の構造、アセスメントの視点を理解し、作業分析を用いた観察評価の視点を学習する	講義	4	○観察法とその記録 処方薬によるアセスメントを学習した後仮想ケースを提示し、ロールプレイのシナリオ(統合失調症・双極性障害)作成を演習する	演習	5	○観察法とその記録 観察評価のロールプレイ(統合失調症・双極性障害)を行い、観察評価の実践を演習する	演習	6	○観察法とその記録 SOAPによる観察評価の記録を演習し、その内容をフィードバックする	演習	7	○情報収集・面接法とその記録 情報収集の留意点・面接の技法を理解する	講義	8	○情報収集・面接法とその記録 面接評価を実践をロールプレイを通じ演習し、その内容をフィードバックする	演習	9	○評価のまとめと問題点の抽出(ケーススタディ) SOAP記録による評価のまとめについて理解し、ICFによる全体像のまとめを演習する	演習	10	○評価のまとめと問題点の抽出(ケーススタディ) 問題と問題点の違いについて学習し、仮想ケースによるケースレポートの作成を演習する	演習	11	○評価のまとめと問題点の抽出(ケーススタディ) 学生が作成したケースレポート(焦点化と問題点の抽出まで)をフィードバックする	講義	12	○目標設定とプログラム作成(ケーススタディ) 目標設定(長期目標と短期目標)の考え方について学習する	講義	13	○目標設定とプログラム作成(ケーススタディ) 治療構造を意識したプログラム立案、考察の書き方、引用文献の記し方を学習し、ケースレポートの作成を演習する	演習	14	○初期評価レポートの作成(ケーススタディ) 学生が作成したケースレポート(目標設定・プログラム立案・考察)のフィードバックを行う	講義	15	○授業のまとめ 精神科評価実習に向けた授業の意義を振り返る	講義	16	定期試験	
授業計画		備考																																																		
1	○授業概要のオリエンテーション 授業の流れと精神科評価実習の概要を理解し、ケーススタディの意義を学習する	講義																																																		
2	○評価の流れについて 精神科評価実習で評価すべき項目、評価実習の流れを理解し、精神科領域における作業療法評価の視点を学習する	講義																																																		
3	○観察法とその記録 観察評価の構造、アセスメントの視点を理解し、作業分析を用いた観察評価の視点を学習する	講義																																																		
4	○観察法とその記録 処方薬によるアセスメントを学習した後仮想ケースを提示し、ロールプレイのシナリオ(統合失調症・双極性障害)作成を演習する	演習																																																		
5	○観察法とその記録 観察評価のロールプレイ(統合失調症・双極性障害)を行い、観察評価の実践を演習する	演習																																																		
6	○観察法とその記録 SOAPによる観察評価の記録を演習し、その内容をフィードバックする	演習																																																		
7	○情報収集・面接法とその記録 情報収集の留意点・面接の技法を理解する	講義																																																		
8	○情報収集・面接法とその記録 面接評価を実践をロールプレイを通じ演習し、その内容をフィードバックする	演習																																																		
9	○評価のまとめと問題点の抽出(ケーススタディ) SOAP記録による評価のまとめについて理解し、ICFによる全体像のまとめを演習する	演習																																																		
10	○評価のまとめと問題点の抽出(ケーススタディ) 問題と問題点の違いについて学習し、仮想ケースによるケースレポートの作成を演習する	演習																																																		
11	○評価のまとめと問題点の抽出(ケーススタディ) 学生が作成したケースレポート(焦点化と問題点の抽出まで)をフィードバックする	講義																																																		
12	○目標設定とプログラム作成(ケーススタディ) 目標設定(長期目標と短期目標)の考え方について学習する	講義																																																		
13	○目標設定とプログラム作成(ケーススタディ) 治療構造を意識したプログラム立案、考察の書き方、引用文献の記し方を学習し、ケースレポートの作成を演習する	演習																																																		
14	○初期評価レポートの作成(ケーススタディ) 学生が作成したケースレポート(目標設定・プログラム立案・考察)のフィードバックを行う	講義																																																		
15	○授業のまとめ 精神科評価実習に向けた授業の意義を振り返る	講義																																																		
16	定期試験																																																			
<授業目標(GIO)> 1. 作業療法評価から治療における情報収集、問題分析・解釈、治療目標、治療の一連の過程を理解することができる 2. 論理的、客観的で、ケーススタディ指針を理解することができる。																																																				
<行動目標(SBO)> 1. 身体・精神機能領域の評価から治療における情報収集、問題分析・解釈、問題解決の方法論をまとめることができる。 2. ケーススタディの指針に沿った記述ができる。																																																				
<授業の留意点> 仮想ケースの提出期限を厳守すること 不定期の集中講義となるため、授業の実施日は掲示板等で把握しておくこと																																																				
<教科書> 標準作業療法学 専門分野 作業療法 臨床実習とケーススタディ 第2版																																																				
<参考書> 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 医学書院 精神疾患の理解と精神科作業療法 中央法規 精神障害と作業療法 三輪書店 作業療法学全書 作業治療学2 精神障害 協同医書	<table><tr><th colspan="2">成績評価</th></tr><tr><td colspan="2">筆記試験:20%、課題レポート:80%</td></tr></table>	成績評価		筆記試験:20%、課題レポート:80%																																																
成績評価																																																				
筆記試験:20%、課題レポート:80%																																																				

※1 作業療法士として保健所で実務(精神保健業務)経験7年以上 介護老人保健施設で実務経験3年以上

科目名			区分	
症例研究法演習Ⅱ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 臨床実習において求められるケースノートとケースレポートの視点および作成方法について学ぶ。 <授業目標(GIO)> ケースノートおよびケースレポートの視点を理解し、作成方法を身につける。 <行動目標(SBO)> ・ケースノートを作成することができる。 ・評価結果の中から必要な内容を選択し、適切な表現方法でレポートへ記載することができる。 ・ICFの分類に従い、対応すべき生活機能と障害を抽出し、その理由を説明することができる。 ・治療目標の設定およびOTアプローチの立案が具体的にでき、それを説明することができる。 ・人物像や評価結果、ICFの分類に従い、自分で立てた治療目標やOTアプローチの根拠について考察でき、それを文章化できる。 <授業の留意点> 仮想ケースを使い段階的に進めて行くので、その都度の提出期限を厳守する。 <教科書> ・標準作業療法学 専門分野 作業療法 臨床実習とケーススタディー 第2版(医学書院) ・ICFの理解と活用(萌文社) <参考書> ・作業療法学全書 作業治療学1 身体障害 (協同医学出版社) ・脳卒中最前線(医歯薬出版株式会社)	授業計画		備考
	1	仮想ケースの提示および進行の説明を行い、ケースノートの作成の演習を行う	講義・演習
	2	ケースレポートの構成、アセスメントの書き方、活動の書き方について学習する	講義
	3	仮想ケースの「はじめに」作成の演習を行う	演習
	4	仮想ケースの「症例紹介」作成の演習を行う	演習
	5	仮想ケースの「作業療法評価」作成の演習を行う	演習
	6	仮想ケースの「はじめに」、「症例紹介」、「作業療法評価」の添削を行い、修正を行う演習をする	演習
	7	参加・環境因子の書き方、ICF分類、問題点の焦点化について学習する	講義
	8	仮想ケースの「対応すべき生活機能と障害」作成の演習を行う	演習
	9	目標設定の考え方、治療プログラム立案時の考慮点について学習する	講義
	10	仮想ケースの「作業療法計画の立案」作成の演習を行う	演習
	11	考察の書き方について学習する	講義
	12	仮想ケースの「考察」作成の演習を行う	演習
	13	仮想ケースの「考察」の添削を行い、修正を行う演習をする	演習
	14	報告会用レジュメ作成法について学習する	講義
	15	治療プログラム意見交換会を行う	演習
	16	期末試験	
成績評価			
筆記試験20%、レポート80%			

※1 作業療法士として病院で実務経験6年以上

科目名			区分	
症例研究			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
4年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

	授業計画		備考
	1	2	
<授業概要> 長期実習において経験した症例の作業療法経過を振り返り症例研究レポートを作成することで、そこから得られた経験や成果を考察する。	1	症例研究とは、症例研究テーマの立案	
	2		
<授業目標(GIO)> 長期実習において経験した症例の作業療法経過をまとめ、症例研究レポートを作成することができる。	3	症例研究の倫理	
	4		
<行動目標(SBO)> ・症例研究の意義と目的を述べることができる ・症例研究で触れるべき項目を列挙することができる ・症例研究で配慮すべき倫理事項について説明することができる	5	文献検索	
	6		
<授業の留意点> ・研究テーマについてあらかじめ考えておくこと。 ・担当教員の指示に従い、課題の期限等を遵守すること。	7	文献検索	
	8		
<教科書> 特に指定しない。	9	症例研究レポートの作成	
	10		
<参考書> 別途、その都度指示する。	11	症例研究レポートの作成	
	12		
	13	症例研究レポートの作成	
	14		
	15	症例研究レポートの作成	
成績評価			
研究レポート(提出状況・内容):100%			

※1 作業療法士として病院で実務経験7年以上

科目名			区分	
身体障害評価法			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> ・作業療法士の臨床実践に必要不可欠な評価について学ぶ。評価項目の種類を知り、それぞれの目的と使用方法について学習する。	授業計画		備考
	1	オリエンテーション、評価の意義と目的について学習する	講義
	2	評価の対象と過程を学習する	講義
	3	作業療法評価の手順と手段について学習する。	講義
	4	治療計画、記録・報告、効果判定について学習する。	講義
	5	面接法・観察法を学習し、一部演習する。	講義・演習
	6	意識の評価およびバイタルサインの測定を学習し、一部演習する。	講義・演習
	7	四肢長・周径の方法を学習し、一部演習する。	講義・演習
	8	関節可動域測定の方法、可動域制限の種類を学習する。	講義
	9	関節可動域測定の方法を学習し一部演習する。	講義・演習
<授業目標(GIO)> ・身体障害領域の作業療法における評価の意義と目的について理解できる。 ・身体障害領域の作業療法に用いる評価手段とその使用方法について理解できる。	10	関節可動域測定の注意事項、記載方法を学習する。	講義
	11	徒手筋力検査とは・意義・目的を学習する	講義
	12	筋力検査の検査方法、代償動作等を学習し、一部演習する。	講義・演習
	13	知覚検査の感覚・知覚とは、感覚検査の意義、伝導路を学習する。	講義
	14	知覚検査の方法を学習し、一部演習する。	講義・演習
	15	反射検査の意義・目的・種類について学習する。	講義
	16	反射検査法について学習し、一部演習する。	講義・演習
	17	姿勢反射検査の意義・目的について学習する。	講義
	18	姿勢反射検査方法を学習し、一部演習する。	講義・演習
	19	筋緊張検査方法を学習し、一部演習する。	講義・演習
<行動目標(SBO)> ・身体障害領域の作業療法における評価の意義と目的について説明できる。 ・身体障害領域の作業療法において用いる評価手段について列挙できる。 ・評価手段における有用な点と留意点について説明できる。	20	ブルンストロームテスト、上田法を学習し、一部演習する。	講義・演習
	21	協調性検査の意義・目的、検査方法を学習し、一部演習する。	講義・演習
	22	嗅神経～滑車神経の脳神経検査法を学習し、一部演習する。	講義・演習
	23	三叉神経～聴神経の脳神経検査法を学習し、一部演習する。	講義・演習
	24	舌咽神経～舌下神経の脳神経検査法を学習し、一部演習する。	講義・演習
	25	摂食・嚥下検査の意義・目的、検査方法を学習する。	講義
	26	上肢機能検査（STEF、MFTの検査法を学習し、一部演習）	講義・演習
	27	日常生活活動の評価（標準化された評価方法を学習する）	講義
	28	日常生活活動の評価（評価の実際を学習する）	講義
	29	日常生活活動の評価（基本的ADL評価について学習する）	講義
<授業の留意点> ・評価法によっては検査器具(2年次に購入するため教員で用意する)を使用するので取扱いに十分留意すること。 ・授業の進行に合わせ、予習復習を怠らないようにすること。	30	QOLの評価	講義
	31	定期試験	
	成績評価		
	期末試験70%、課題10%、小テスト20%		
<教科書> 岩崎テル子他編『作業療法評価学 第3版』、医学書院 田崎義明、斎藤佳雄『ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版』、南山堂			
<参考書> 資料を教員が用意する。			

※1 作業療法士として病院で実務経験5年以上

科目名			区分	
身体障害評価法演習 I			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

授業概要		授業計画		備考
<授業概要> 本授業は、2年次の評価実習における到達目標を達成するための準備となる。作業療法における評価の意味合い・作業療法プロセス・臨床推論を含めた評価のまとめと分析を学習する。実技演習では代表的な疾患を通して評価の過程、介入方法を模擬的に学習する。 <授業目標(GIO)> ・各々の作業療法評価を理解し、知識と技術を身につける。 ・検査結果をもとにアセスメントにつなげることができる。 <行動目標(SBO)> ・作業療法プロセスが説明できる。 ・作業療法における評価の意義が説明できる。 ・身体障害領域における各評価項目を関連付けすることができる。 ・身体障害領域における評価の統合と解釈の仕方を具体的に述べるができる。 ・身体障害領域における代表的な疾患の作業療法評価項目を具体的に列挙することができる。 ・身体障害領域における評価項目を実施することができる。 ・模擬的な情報から選択された評価項目について意味付けを行い、評価計画を示すことができる。 ・模擬的な情報から評価のまとめと分析を行い、問題点、利点を抽出することができる。 <授業の留意点> ・授業中はふさわしい格好で臨むこと。(髪は結び、靴下は白で望む、爪は切る) ・授業前に指定範囲の予習をすること。 <教科書・参考書> ・作業療法評価学第3版 (医学書院) ・ROM測定 PT・OTのための測定評価DVDシリーズ1 ・ベッドサイドの神経の診かた		1	オリエンテーション 到達目標・学習目標等、授業の目的を共通認識する。	講義
		2	バイタルチェック(血圧測定、脈拍確認の実践)を理解し、演習する。	講義・演習
		3	形態測定(四肢長の検査方法を理解し、演習する)	講義・演習
		4	形態測定(周径の検査方法を理解し、演習する)	講義・演習
		5	肩甲骨・肩・肘関節の関節可動域測定法を理解し、演習する。	講義・演習
		6	前腕・手関節・手指の関節可動域測定法を理解し、演習する。	講義・演習
		7	体幹の関節可動域測定法を理解し、演習する。	講義・演習
		8	体幹の関節可動域測定法を理解し、演習する。	講義・演習
		9	股関節の関節可動域測定法を理解し、演習する。	講義・演習
		10	膝・足関節の関節可動域測定法を理解し、演習する。	講義・演習
		11	形態測定・各関節可動域測定をグループで演習し、理解を深める。	演習
		12	形態測定・各関節可動域測定をグループで演習し、理解を深める。	演習
		13	形態測定・各関節可動域測定法の実技小テストを実施し、技術を深める。	演習
		14	形態測定・各関節可動域測定法の実技小テストを実施し、技術を深める。	演習
		15	脳神経検査法の意義・目的・方法を理解する。	講義
		16	脳神経検査法(嗅神経～滑車神経の検査法を理解し、演習する)	講義・演習
		17	脳神経検査法(三叉神経～内耳神経の検査法を理解し、演習する)	講義・演習
		18	脳神経検査法(舌咽神経～舌下神経の検査法を理解し、演習する)	講義・演習
		19	協調性の各検査法を理解し、演習する。	講義・演習
		20	筋緊張の各検査法を理解し、演習する。	講義・演習
		21	上肢機能検査法 (STEF、MFTの復習をし理解を深める)	講義
		22	上肢機能検査法 (STEF、MFTを演習する。)	演習
		23	腱反射検査法を理解し、演習する。	講義・演習
		24	腱反射検査法を理解し、演習する。	講義・演習
		25	病的反射検査法を理解し、演習する。	講義・演習
		26	病的反射検査法を理解し、演習する。	講義・演習
		27	腱反射・病的反射検査法をグループで演習し、理解を深める。	演習
		28	腱反射・病的反射検査法をグループで演習し、理解を深める。	演習
		29	腱反射・病的反射の実技小テストを実施し、技術を深める。	演習
		30	腱反射・病的反射の実技小テストを実施し、技術を深める。	演習
		31	期末試験	筆記試験
		成績評価		
		期末試験40%、筆記小テスト20%、実技小テスト40%		

※1 作業療法士として病院で実務経験5年以上

科目名			区分	
身体障害評価法演習Ⅱ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

授業概要		授業計画		備考
<授業概要> 本授業は、2年次の評価実習における到達目標を達成するための準備となる。 作業療法における評価の意味合い・作業療法プロセス・臨床推論を含めた評価のまとめと分析を学習する。 実技演習では代表的な疾患を通して評価の過程、介入方法を模擬的に学習する。 <授業目標(GIO)> ・各々の作業療法評価を理解し、知識と技術を身につける。 ・検査結果をもとにアセスメントにつなげることができる。 <行動目標(SBO)> ・作業療法プロセスが説明できる ・作業療法における評価の意義が説明できる ・身体障害領域における各評価項目を関連付けることができる ・身体障害領域における評価の統合と解釈の仕方を具体的に述べるができる。 ・身体障害領域における代表的な疾患の作業療法評価項目を具体的に列挙することができる。 ・身体障害領域における評価項目を実施することができる。 ・模擬的な情報から選択された評価項目について意味付けを行い、評価計画を示すことができる。 ・模擬的な情報から評価のまとめと分析を行い、問題点、利点を抽出することができる。 <授業の留意点> ・事前に必要とされる項目の予習を心がける。 ・授業中はふさわしい格好で臨むこと。 <教科書・参考書> ・作業療法評価学 第3版 (医学書院) ・ベッドサイドの神経の診かた ・新・徒手筋力検査法第9版		1	オリエンテーション 到達目標・学習目標等、授業の目的を共通認識する。	講義
		2	徒手筋力検査法の意義、目的、方法について学ぶ。	講義
		3	肩甲帯の筋力検査法について理解し、演習する	講義・演習
		4	肩関節の筋力検査法について理解し、演習する。	講義・演習
		5	肘・前腕の筋力検査法について理解し、演習する。	講義・演習
		6	手指の筋力検査法について理解し、演習する。	講義・演習
		7	母指の筋力検査法について理解し、演習する。	講義・演習
		8	体幹の筋力検査法について理解し、演習する。	講義・演習
		9	股関節の筋力検査法について理解し、演習する。	講義・演習
		10	膝・足関節の筋力検査法について理解し、演習する。	講義・演習
		11	筋力検査法をグループで演習し、理解を深める。	演習
		12	筋力検査法をグループで演習し、理解を深める。	演習
		13	徒手筋力検査法実技小テストを実施し、技術を深める。	演習
		14	徒手筋力検査法実技小テストを実施し、技術を深める。	演習
		15	痛みの評価法について理解し、演習する。	講義・演習
		16	バランス検査法について理解し、演習する。	講義・演習
		17	表在感覚検査法について理解し、演習する。	講義・演習
		18	深部感覚検査法について理解し、演習する。	講義・演習
		19	感覚検査法をグループで演習し、理解を深める。	演習
		20	感覚検査法をグループで演習し、理解を深める。	演習
		21	感覚検査法実技小テストを実施し、技術を深める。	演習
		22	感覚検査法実技小テストを実施し、技術を深める。	演習
		23	片麻痺機能検査の意義、目的、方法について理解する。	講義
		24	上肢の片麻痺機能検査法を理解し、演習する。	講義・演習
		25	手指の片麻痺機能検査法を理解し、演習する。	講義・演習
		26	下肢の片麻痺機能検査法を理解し、演習する。	講義・演習
		27	片麻痺機能検査法をグループで演習し、理解を深める。	演習
		28	片麻痺機能検査法をグループで演習し、理解を深める。	演習
		29	片麻痺機能検査実技小テストを実施し、技術を深める。	演習
		30	片麻痺機能検査実技小テストを実施し、技術を深める。	演習
		31	期末試験	筆記試験
		成績評価		
		期末試験40%、筆記小テスト20%、実技小テスト40%		

※1 作業療法士として病院で実務経験5年以上

科目名			区分	
精神障害評価法 I			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 精神障害を捉え、精神障害者を知るための スキルを習得し、精神障害評価法Ⅱと併せ3 年次の精神障害治療学(演習)の基盤とする <授業目標(GIO)> 精神機能作業療法評価の考え方、基本的 技術を身につけることが出来る <行動目標(SBO)> ①作業療法評価の意義と目的を述べる事が出来 ②精神機能作業療法評価の方法を説明すること が出来る(面接および観察、情報収集、各種評 価バッテリー他) ③気分障害の概要と評価のポイントを説明するこ とが出来 <授業の留意点> ・本授業は、精神評価の基礎となるものとな る。授業後の復習を十分に行うこと。 <教科書> 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 (医学書院) <参考書> 精神疾患の理解と精神科作業療法学(第2版) 精神障害と作業療法(第3版) その他教員が資料を配布	授業計画		備考
	1	・オリエンテーションにて授業の流れを説明する ・評価の概要(意義と目的・手段、技術)について 学習する	
	2	・観察(概要、観察のバイアスについてとその対 応)について学習する	
	3	・観察(観察における関与について、全身状態の 観察、生活活動の観察、作業観察法)について 学習する	
	4	・面接(面接の種類、面接における準備、面接の 技術、面接の態度)について学習する	
	5	・面接の基本(受容・傾聴・共感)とそれに加え面 接時の沈黙への対応について学習する	
	6	・構成的作業面接・投影的作業面接とは何か各 作業面接の特徴、注意点について学習する	
	7	・他部門からの情報収集、生活技能評価法につ いて、職業関連評価について学習する	
	8	・精神症状評価、社会生活技能評価法、人格診 断法、投影的診断法、そのほかの人格診断法に ついて学習する	
	9	・集団評価(集団評価のキーワード・集団評価の 目的・モゼイの集団関係技能評価)について学 習する	
	10	うつ病(概要・症状・発症要因)について学習する	
	11	・うつ病(経過、入院の適応、作業療法上ポイント となること、患者の状態の理解、評価、評価の留 意点)について学習する	
	12	・躁病相の経過や特徴を学習し、評価事例を通 し一連の流れを理解する。	
	13	・ICFでの対象者の捉え方(概要)・精神分野で のICFでの対象者の捉え方について学習し、事 例を通し演習する(講義・演習)	
	14	精神機能評価法の実際、精神機能評価法と精 神疾患との関係性について学習する	
	15	・これまでの授業の振り返り・ポイント提示を行 い、これまでの講義の理解を深める	
	16	定期試験	
成績評価			
筆記試験:100%			

※1 作業療法士として病院で実務経験7年以上

科目名			区分	
精神障害評価法Ⅱ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

＜授業概要＞		授業計画		備考
精神障害を捉え、精神障害者を知るための作業療法評価に関する知識とスキルを習得する。ここで学習した内容は、3年次の症例研究法演習Ⅰ、精神障害治療学Ⅰ・Ⅱ・精神疾患系演習の基盤となる。さらに3年次の評価実習Ⅰ（精神障害系）において、ここで学習した内容がケーススタディーを通じて実践される。		1	○授業概要のオリエンテーション 授業の流れと概要を理解する	講義
		2	○精神障害評価法Ⅰの復習 精神科領域における評価の視点を疾病性と個別性の視点から理解する	講義
		3	○疾患別評価法（統合失調症） 統合失調症の疫学的実態、遺伝的素因を学習する	講義
		4	○疾患別評価法（統合失調症） ドパミン仮説と視床フィルター仮説から、脳科学的発症要因を学習する	講義
		5	○疾患別評価法（統合失調症） ストレス脆弱性モデルから、社会心理学的発症要因を学習する	講義
		6	○疾患別評価法（統合失調症） 統合失調症の障害像をICFで整理し、認知機能障害を学習する	講義
		＜授業目標（GIO）＞ 精神機能作業療法の評価について、各疾患別にその視点と技術を習得する。		7
8	○疾患別評価法（統合失調症 回復段階モデル） 統合失調症の偏見とスティグマ、EE概念について学習する			講義
9	○疾患別評価法（統合失調症 回復段階モデル） 統合失調症の前駆期と急性期の臨床像と評価の視点を学習する			講義
10	○疾患別評価法（統合失調症 回復段階モデル） 統合失調症の亜急性期の臨床像と評価の視点について学習する			講義
11	○疾患別評価法（統合失調症 回復段階モデル） 統合失調症の回復期前期の臨床像と評価の視点について学習する			講義
12	○疾患別評価法（統合失調症） 統合失調症の回復期後期の臨床像と評価の視点について学習する			講義
＜行動目標（SBO）＞ ①疾患別評価のポイント・項目を列挙することができる （情報収集、面接および観察、各種評価バッテリー） ②評価から得られた情報を記録し、アセスメントすることができる ③観察評価における視点を習得する				13
		14	○疾患別評価法（神経症） 神経症患者の行動特徴と観察ポイントを学習する	講義
		15	○疾患別評価法（人格障害） 人格障害の概要を説明し境界性人格障害（BPD）の基本症状を学習する	講義
		16	○疾患別評価法（人格障害） BPDの行動特徴を転移と逆転移の視点から学び、ボーダーラインシフトを理解する	講義
		17	○疾患別評価法（依存症候群） アルコール依存症の離脱症状の特徴と依存症者の心理を学習する	講義
		18	○疾患別評価法（依存症候群） アルコール依存症の行動特徴と観察ポイント、共依存の概念を理解する	講義
		19	○疾患別評価法（認知症） 認知症の類型とその特徴、認知症の疫学的実態を学習する	講義
		20	○疾患別評価法（認知症） 中学症状とBPSDを学習し、BPSDを生むメカニズムを理解する	講義
		21	○疾患別評価法（認知症） 認知症の人の心理と行動観察のポイントを学習する	講義
		22	○疾患別評価法（認知症） 認知症の評価バッテリーを学習する	講義
＜授業の留意点＞ 精神医学の授業を復習し、精神疾患についての基本的な知識について押さえておくこと		23	○疾患別評価法（てんかん） てんかんのメカニズムと発作の種類を学習する	講義
		24	○疾患別評価法（てんかん） てんかん患者の行動特性と観察のポイントを学習する	講義
		25	○評価と記録 SOAP記録の書き方学習し、アセスメントの視点を理解する	講義
＜教科書＞ 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版（医学書院）		26	○評価と記録 仮想ケースを通して、SOAP方式の記録を演習する	演習
		27	○観察評価の視点 観察評価の構造を学習し、投影的作業を用いた観察について理解する	講義
		28	○観察評価の視点 作業分析を用いた観察評価の構造を学習する	講義
＜参考書＞ 精神疾患の理解と精神科作業療法 第2版 中央法規 標準作業療法学 専門基礎分野 精神医学 医学書院 その他教員が資料を配布		29	○観察評価の視点 仮想ケースを通して、作業分析を用いた観察評価の視点を演習する	演習
		30	○授業のまとめ 精神科評価実習に向けて、授業を受けて学んだことを振り返り討議する	講義
		31	定期試験	
成績評価				
筆記試験100%				

※1 作業療法士として保健所で実務(精神保健業務)経験7年以上 作業療法士として介護老人保健施設で実務経験3年

科目名			区分	
発達障害評価法			基礎 ・ 専門基礎	専門
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	非常勤講師(※1)

<授業概要> 本授業では、発達の遅れや障害を持つ対象者の評価法について、基本的な考え方を理解するとともに各種検査について目的、実施方法、解釈等について学習する。 <授業目標(GIO)> 発達障害に関する知識を深め、発達障害作業療法に必要な知識を身につけていく。 <行動目標(SBO)> ①定型発達を理解する。 ②発達障害における運動機能障害の評価法を理解する。 ③発達障害における上肢機能障害の評価法を理解する。 ④発達障害における視覚機能障害の評価法を理解する。 ⑤発達障害における口腔機能障害の評価法を理解する。 <授業の留意点> ・疑問点や質問がある場合は、授業中であつても遠慮なく質問すること <教科書> 標準作業療法学・専門分野・ 作業療法評価学(医学書院) <参考書> ・随時その他の資料を配布	授業計画		備考
	1	発達障害の作業療法①	
	2	発達障害の作業療法②	
	3	発達障害の作業療法③	
	4	粗大運動の発達と評価①	
	5	粗大運動の発達と評価②	
	6	上肢機能の発達と評価	
	7	視覚機能の発達と評価	
	8	口腔機能の発達と評価①	
	9	口腔機能の発達と評価②	
	10	学童期・青年期の発達評価	
	11	発達検査①	
	12	発達検査②	
	13	発達検査③	
	14	授業のまとめ	
	15	まとめ	
	16	定期試験	
成績評価			
筆記試験100%			

※1 作業療法士として病院及び保育園で実務経験18年以上

科目名			区分	
発達障害評価法演習			基礎 ・ 専門基礎	専門
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	非常勤講師(※1)

<授業概要> 本授業では、各種検査の実技演習を行いながら、発達障害評価法で学習した知識をより深めていく。 <授業目標(GIO)> 発達障害に関する知識を深め、発達障害作業療法に必要な知識を身につけていく。 <行動目標(SBO)> ①感覚統合機能の発達と評価法について理解する。 ②発達障害における認知機能の評価法を理解する。 ③発達障害における社会性機能の評価法を理解する。 ④遊びにおける発達と評価法を理解する。 <授業の留意点> レポートの提出日は厳守すること <教科書> 標準作業療法学・専門分野・ 作業療法評価学(医学書院) <参考書> ・随時その他の資料を配布	授業計画		備考
	1	感覚統合機能の発達と評価①	
	2	感覚統合機能の発達と評価②	
	3	感覚統合機能の発達と評価③	
	4	感覚統合機能の発達と評価④	
	5	感覚統合機能の発達と評価⑤	
	6	感覚統合機能の発達と評価⑥	
	7	認知機能の発達と評価①	
	8	認知機能の発達と評価②	
	9	認知機能の発達と評価③	
	10	社会性機能の発達と評価①	
	11	社会性機能の発達と評価②	
	12	遊びの発達と評価①	
	13	遊びの発達と評価②	
	14	授業のまとめ	
	15	まとめ	
	16	定期試験	
成績評価			
筆記試験100%			

※1 作業療法士として病院及び保育園で実務経験18年以上

科目名			区分	
老年期障害評価法			基礎 ・ 専門基礎	専門
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 老年期障害に携わる作業療法士の行動プロセスを通して、評価の目的、手順、意義について学ぶ。 <授業目標(GIO)> 評価の目的、手順、意義を理解する。 <行動目標(SBO)> ・測定と評価の違いを説明することができる。 ・老年期障害における評価の特徴を説明することができる。 ・疾患もしくは障害度の違いに応じた評価方法を選択できる。 <授業の留意点> 講義では多くの測定方法が登場する。その測定方法について実施手順だけを覚えるのではなく、「なぜ、その測定が必要なのか」、「その測定をすることで何が明らかになるのか」を考えながら望むこと。 <教科書> 浅海奈津美, 他: 老年期の作業療法(三輪書店) <参考書> 岩崎テル子, 他編: 作業療法評価学(第3版) 医学書院 前田真治: 老人のリハビリテーション 医学書院	授業計画		備考
	1	老年期作業療法の目的と基本的枠組み	
	2	老年期作業療法の対象となる人々	
	3	身体機能・運動機能の加齢変化	
	4	高齢期に多い疾患	
	5	評価と目標設定	
	6	評価と目標設定	
	7	手段と技法	
	8	手段と技法	
	9	検査・測定	
	10	検査・測定	
	11	検査・測定	
	12	評価のまとめと課題の抽出	
	13	回復段階に応じた治療・援助内容の違い	
	14	家族の理解と連携	
	15	高齢者の権利擁護	
	16	定期試験	
成績評価			
定期試験:100%			

※1 作業療法士として病院で実務経験7年以上

科目名			区分	
老年期障害評価法演習			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 老年期障害作業療法に用いられる評価法の 実践法について、演習を中心として学ぶ。 <授業目標(GIO)> 評価法の実践方法を理解する。 <行動目標(SBO)> ・対象者とのコミュニケーションを円滑に取る ことが出来る。 ・面接と観察をすることができる ・評価法の目的、方法、意義を説明できる。 ・正確な評価が実施出来る <授業の留意点> ・評価の質は「対象者とのコミュニケーション」によって大きく左右されることを常に意識 しながら望む事。 <教科書> 高齢者のための知的機能検査の手引きワールドプランニング 作業療法評価学 医学書院 <参考書> 別途指示する	授業計画		備考
	1	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションを使つての伝わりの違いについて(演習)	
	2	高齢者に対する接し方・距離のとり方(演習)	
	3	グループに分かれ、昭和の暮らし、住まい、歴史、遊び、食事、流行した音楽などを文献及びインターネットにて調べ学習	
	4	グループに分かれ、昭和の暮らし、住まい、歴史、遊び、食事、流行した音楽などを文献及びインターネットにて調べ学習	
	5	調べ学習の内容を各グループにて発表・解説	
	6	・医療面接とは・解釈モデル・learnのアプローチ・質問形式	
	7	・対象者への面接・家族への面接・傾聴と共感を踏まえた面接	
	8	HDS-Rの概要・ポイント、見本の提示後演習	
	9	MMSの概要・ポイント、見本の提示後演習	
	10	N式精神機能検査の概要・ポイント、見本の提示後演習	
	11	観察式評価(CDR、FAST、GBSスケール、NMスケール)についての概要・ポイント	
	12	アルツハイマー型認知症の症状・評価の実施・まとめ・治療計画	
	13	アルツハイマー型認知症の評価を症例を通し学ぶ	
	14	グッドライフ熊本駅前の入所者の方を対象として個人史を聞き、まとめていく(演習)	
	15	グッドライフ熊本駅前の入所者の方を対象として個人史を聞き、まとめていく(発表)	
	16	・廃用症候群について・評価の種類と方法・評価の留意点	
成績評価			
定期試験 90%			
演習点 10%			

※1 作業療法士として病院で実務経験7年以上

科目名			区分	
高次脳機能障害評価法演習			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 脳の疾患や脳外傷などに起因する高次脳機能障害の症状と評価について学ぶ。	<table><tr><th colspan="2">授業計画</th><th>備考</th></tr><tr><td>1</td><td>高次脳機能とは、脳の機能解剖について学習する</td><td>講義</td></tr><tr><td>2</td><td>大脳皮質の働き(ブロードマンの脳地図)について学習する</td><td>講義</td></tr><tr><td>3</td><td>注意障害の定義、症状、責任病巣、分類について学習する</td><td>講義</td></tr><tr><td>4</td><td>注意障害の評価演習(TMT、かなひろいテスト)をする</td><td>演習</td></tr><tr><td>5</td><td>注意障害の評価演習(CAT検査①～③)をする</td><td>演習</td></tr><tr><td>6</td><td>注意障害の評価演習(CAT検査④～⑥)をする</td><td>演習</td></tr><tr><td>7</td><td>注意障害の評価演習(CAT検査⑦)をする</td><td>演習</td></tr><tr><td>8</td><td>小テスト①(脳の機能解剖)</td><td></td></tr><tr><td>9</td><td>記憶障害の定義、分類、責任病巣を学習する</td><td>講義</td></tr><tr><td>10</td><td>記憶障害の評価(ベントン視覚記憶検査・リバーミード行動記憶検査)の演習をする</td><td>演習</td></tr><tr><td>11</td><td>失語の定義、症状、分類、責任病巣の学習をする</td><td>講義</td></tr><tr><td>12</td><td>失語症の評価(SLTA・スクリーニング検査)を学習する</td><td>講義</td></tr><tr><td>13</td><td>失行の定義、症状、責任病巣の学習をする</td><td>講義</td></tr><tr><td>14</td><td>失行の評価演習(SPTA)の演習をする</td><td>演習</td></tr><tr><td>15</td><td>小テスト②(注意障害、記憶障害、失語、失行)</td><td></td></tr><tr><td>16</td><td>(注意、記憶、失語、失行の症状・評価)についての知識の整理をする</td><td>講義</td></tr><tr><td>17</td><td>失認の分類、症状、評価を学習する</td><td>講義</td></tr><tr><td>18</td><td>失認の評価演習(VPTA)の演習をする</td><td>演習</td></tr><tr><td>19</td><td>半側空間無視の定義、発症率、タイプ分類を学習する</td><td>講義</td></tr><tr><td>20</td><td>半側空間無視の責任病巣、メカニズム、症状を学習しその症状の体験の演習をする</td><td>講義・演習</td></tr><tr><td>21</td><td>半側空間無視の評価演習(BIT通常検査)を演習する</td><td>演習</td></tr><tr><td>22</td><td>半側空間無視の評価演習BIT行動検査)を演習する</td><td>演習</td></tr><tr><td>23</td><td>知能検査(コース立方体組み合わせテスト)の演習をする</td><td>演習</td></tr><tr><td>24</td><td>知能検査(レーヴン色彩マトリックス検査・WAIS-III)の演習をする</td><td>演習</td></tr><tr><td>25</td><td>遂行機能障害の定義、分類、症状、責任病巣を学習する</td><td>講義</td></tr><tr><td>26</td><td>遂行機能障害の評価(FAB・ハノイの塔・BADs)の演習をする</td><td>演習</td></tr><tr><td>27</td><td>社会的行動障害の定義、分類、症状、責任病巣を学習する</td><td>講義</td></tr><tr><td>28</td><td>社会的行動障害の評価(CAS・ギャンプリング課題)の演習をする</td><td>演習</td></tr><tr><td>29</td><td>小テスト③(失認、半側空間無視、遂行機能障害、社会的行動障害)</td><td></td></tr><tr><td>30</td><td>(失認、半側空間無視、遂行、社会の症状・評価)についての知識の整理をする</td><td>講義</td></tr><tr><td>31</td><td>期末試験</td><td></td></tr></table>	授業計画		備考	1	高次脳機能とは、脳の機能解剖について学習する	講義	2	大脳皮質の働き(ブロードマンの脳地図)について学習する	講義	3	注意障害の定義、症状、責任病巣、分類について学習する	講義	4	注意障害の評価演習(TMT、かなひろいテスト)をする	演習	5	注意障害の評価演習(CAT検査①～③)をする	演習	6	注意障害の評価演習(CAT検査④～⑥)をする	演習	7	注意障害の評価演習(CAT検査⑦)をする	演習	8	小テスト①(脳の機能解剖)		9	記憶障害の定義、分類、責任病巣を学習する	講義	10	記憶障害の評価(ベントン視覚記憶検査・リバーミード行動記憶検査)の演習をする	演習	11	失語の定義、症状、分類、責任病巣の学習をする	講義	12	失語症の評価(SLTA・スクリーニング検査)を学習する	講義	13	失行の定義、症状、責任病巣の学習をする	講義	14	失行の評価演習(SPTA)の演習をする	演習	15	小テスト②(注意障害、記憶障害、失語、失行)		16	(注意、記憶、失語、失行の症状・評価)についての知識の整理をする	講義	17	失認の分類、症状、評価を学習する	講義	18	失認の評価演習(VPTA)の演習をする	演習	19	半側空間無視の定義、発症率、タイプ分類を学習する	講義	20	半側空間無視の責任病巣、メカニズム、症状を学習しその症状の体験の演習をする	講義・演習	21	半側空間無視の評価演習(BIT通常検査)を演習する	演習	22	半側空間無視の評価演習BIT行動検査)を演習する	演習	23	知能検査(コース立方体組み合わせテスト)の演習をする	演習	24	知能検査(レーヴン色彩マトリックス検査・WAIS-III)の演習をする	演習	25	遂行機能障害の定義、分類、症状、責任病巣を学習する	講義	26	遂行機能障害の評価(FAB・ハノイの塔・BADs)の演習をする	演習	27	社会的行動障害の定義、分類、症状、責任病巣を学習する	講義	28	社会的行動障害の評価(CAS・ギャンプリング課題)の演習をする	演習	29	小テスト③(失認、半側空間無視、遂行機能障害、社会的行動障害)		30	(失認、半側空間無視、遂行、社会の症状・評価)についての知識の整理をする	講義	31	期末試験	
授業計画		備考																																																																																															
1	高次脳機能とは、脳の機能解剖について学習する	講義																																																																																															
2	大脳皮質の働き(ブロードマンの脳地図)について学習する	講義																																																																																															
3	注意障害の定義、症状、責任病巣、分類について学習する	講義																																																																																															
4	注意障害の評価演習(TMT、かなひろいテスト)をする	演習																																																																																															
5	注意障害の評価演習(CAT検査①～③)をする	演習																																																																																															
6	注意障害の評価演習(CAT検査④～⑥)をする	演習																																																																																															
7	注意障害の評価演習(CAT検査⑦)をする	演習																																																																																															
8	小テスト①(脳の機能解剖)																																																																																																
9	記憶障害の定義、分類、責任病巣を学習する	講義																																																																																															
10	記憶障害の評価(ベントン視覚記憶検査・リバーミード行動記憶検査)の演習をする	演習																																																																																															
11	失語の定義、症状、分類、責任病巣の学習をする	講義																																																																																															
12	失語症の評価(SLTA・スクリーニング検査)を学習する	講義																																																																																															
13	失行の定義、症状、責任病巣の学習をする	講義																																																																																															
14	失行の評価演習(SPTA)の演習をする	演習																																																																																															
15	小テスト②(注意障害、記憶障害、失語、失行)																																																																																																
16	(注意、記憶、失語、失行の症状・評価)についての知識の整理をする	講義																																																																																															
17	失認の分類、症状、評価を学習する	講義																																																																																															
18	失認の評価演習(VPTA)の演習をする	演習																																																																																															
19	半側空間無視の定義、発症率、タイプ分類を学習する	講義																																																																																															
20	半側空間無視の責任病巣、メカニズム、症状を学習しその症状の体験の演習をする	講義・演習																																																																																															
21	半側空間無視の評価演習(BIT通常検査)を演習する	演習																																																																																															
22	半側空間無視の評価演習BIT行動検査)を演習する	演習																																																																																															
23	知能検査(コース立方体組み合わせテスト)の演習をする	演習																																																																																															
24	知能検査(レーヴン色彩マトリックス検査・WAIS-III)の演習をする	演習																																																																																															
25	遂行機能障害の定義、分類、症状、責任病巣を学習する	講義																																																																																															
26	遂行機能障害の評価(FAB・ハノイの塔・BADs)の演習をする	演習																																																																																															
27	社会的行動障害の定義、分類、症状、責任病巣を学習する	講義																																																																																															
28	社会的行動障害の評価(CAS・ギャンプリング課題)の演習をする	演習																																																																																															
29	小テスト③(失認、半側空間無視、遂行機能障害、社会的行動障害)																																																																																																
30	(失認、半側空間無視、遂行、社会の症状・評価)についての知識の整理をする	講義																																																																																															
31	期末試験																																																																																																
<授業目標(GIO)> 1.高次脳機能障害を学ぶための基礎知識(脳の機能解剖)を修得する。 2.各高次脳機能障害の障害像を理解する。 3.障害像を理解したうえで作業療法評価を理解することが出来る。																																																																																																	
<行動目標(SBO)> 1. 大脳の構造・各部位の機能を説明できる。 2.各高次脳機能障害の定義、症状、分類、責任病巣について説明できる。 3.各高次脳機能障害の評価を実施できる。																																																																																																	
<授業の留意点> 課題提出を数回予定しているため提出期限を遵守する。																																																																																																	
<教科書> 1.標準作業療法学 高次脳機能作業療法学 医学書院 2.高次脳機能障害 ポケットマニュアル 第2版 医歯薬出版																																																																																																	
<参考書> 病気がみえる 脳・神経 メディックメディア																																																																																																	
	<table><tr><th colspan="2">成績評価</th></tr><tr><td colspan="2">筆記試験80%、小テスト10%、課題10%</td></tr></table>	成績評価		筆記試験80%、小テスト10%、課題10%																																																																																													
成績評価																																																																																																	
筆記試験80%、小テスト10%、課題10%																																																																																																	

※1 作業療法士として病院で実務経験6年以上

科目名			区分	
日常生活活動評価法			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 作業療法の実践において最も重視される日常生活活動(ADL)について、その評価方法を講義および演習を通して学ぶ。	授業計画		備考
	1	ADLの概念、領域、種類、細目動作について学習する	講義
<授業目標(GIO)> ・ADLの概念・領域・種類が理解できる。 ・正常の基本動作を理解できる。 ・ADL評価の方法を理解できる。 ・IADLの概念を理解できる。 ・BIとFIMが理解できる。	2	正常の寝返り・起上り・移乗・移動動作について演習する	演習
	3	食事動作の特徴について理解し、食事の評価、食事動作に影響を与える要因を学習し、自助具の利用演習を行う	講義・演習
<行動目標(SBO)> ・ADLの概念を説明できる。 ・正常の基本動作が説明できる。 ・ADL評価が実施できる。 ・IADLの概念を説明できる。 ・車椅子の名称を説明できる。 ・車椅子の操作が行える。 ・BIとFIMの採点ができる。	4	整容の特徴について理解し、整容(手洗い、洗顔、歯磨き、整髪、髭剃り、化粧、爪切り)の評価を学習し、自助具の利用演習を行う	講義・演習
	5	排泄の特徴について理解し、排泄の評価を学習し、自助具の利用演習及び福祉用具の利用演習を行う	講義・演習
<授業の留意点> ・演習は実習着を着用する。 ・テキストを見ないでも評価ができるようになるよう、評価基準を熟知すること。	6	入浴の特徴について理解し、入浴の評価を学習し、自助具・福祉用具の利用演習を行う	講義・演習
	7	更衣の特徴について理解し、片麻痺者の更衣方法を学習し、自助具の利用演習を行う	講義・演習
<教科書> ・作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 日常生活活動学(ADL) メジカルビュー社	8	IADLの特徴について理解し、IADLの種類を学習し、自助具の利用演習を行う	講義・演習
	9	小テスト(ADLの概念、ADLの評価・自助具)	
<参考書>	10	車椅子のパーツの名称・操作方法について学習し、車椅子の演習(坂道上下り、砂利道)及び片麻痺者の自動車への乗降演習を行う	演習
	11	さまざまな車椅子の名称・種類を学習し、車椅子演習(エレベーターへの進入、段差上り、坂道下り)を行う	演習
	12	ADL評価の目的、ADLの位置づけ、ADLの種類、ADL評価法について学習する	講義
	13	ADL評価演習(仮想ケースを用い、のBarthel index採点を行う)	演習
	14	ADL評価演習(仮想ケースを用い、FIM採点を行う)	演習
	15	ADLの目的・種類、BIとFIMの違い、ADL評価について知識の整理を行う	講義
	16	期末試験	
	成績評価		
	筆記試験80%、小テスト20%		

※1 作業療法士として病院で実務経験6年以上

科目名			区分	
動作分析学演習			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

授業概要		授業計画	備考
<授業概要> ・基本動作を中心とした動作の分析を行う。まずは、健常者の動作パターンを確認し、その上で正常パターンからの逸脱所見の解釈と推論を学ぶ。 ・片麻痺患者の動作分析を通して、動作遂行の阻害因子を分析する。		1 動作分析の目的 動作障害に關与する機能障害について学習する	講義
		2 寝返り動作の分析を学習しその後演習する (健常成人の寝返りパターン、正常パターンからの逸脱所見の解釈と推論)	講義・演習
		3 片麻痺患者の寝返り動作分析の仕方を学習しその後演習する	講義・演習
		4 片麻痺患者の寝返り動作分析の演習をする	演習
<授業目標 (GIO)> ・動作分析の概要を理解する。 ・健常者の正常動作パターンを理解する。 ・正常パターンから逸脱した所見の解釈を行える。 ・片麻痺患者の動作分析の方法を身につける。		5 起き上がり動作の分析を学習しその後演習をする (健常成人の起き上がりパターン、正常パターンからの逸脱所見の解釈と推論)	講義・演習
		6 片麻痺患者の起き上がり動作分析の仕方を学習しその後演習する	講義・演習
		7 片麻痺患者の起き上がり動作分析を演習する	演習
		8 立ち上がり動作の分析を学習しその後演習する (健常成人の起立・着座パターン、正常パターンからの逸脱所見の解釈と推論)	講義・演習
<行動目標 (SBO)> ・動作分析の概要を説明することができる。 ・健常者の動作パターンを説明することができる。 ・正常パターンから逸脱した所見の解釈と推論が行える。 ・片麻痺患者の寝返り・起き上がり・移乗動作の動画を観察し、動作分析を行い、文章として表現できる。		9 移乗動作の分析を学習しその後演習する (健常成人の移乗パターン、正常パターンからの逸脱所見の解釈と推論)	講義・演習
		10 片麻痺患者の移乗動作分析の仕方を学習しその後学習する	講義・演習
		11 片麻痺患者の移乗動作分析を演習する	演習
		12 移乗動作介助法(自立、軽介助、中等度介助)を演習する	演習
<授業の留意点> 実習服にて授業に臨むこと。		13 移乗動作介助法(重度介助、全介助)を演習する	演習
		14 片麻痺患者の床上動作の分析(いざり、床からの立ち上がり)を学習しその後演習する	講義・演習
		15 片麻痺患者の移乗・床上動作の介助法の知識の整理	講義
		16 期末試験	
<教科書・参考書> ・動作分析 臨床活用講座 ・姿勢と動作 ADLその基礎から応用(第3版)		成績評価	
		筆記試験80%、課題20%	

※1 作業療法士として病院で実務経験6年以上

科目名			区分	
検査・測定実習			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	90 (2)	講義 ・ 演習 ・ 実習	臨床実習指導者

実習計画		
<授業概要> 身体障害領域の作業療法を实践する病院もしくは介護老人保健施設で行う、検査測定を中心とした2週間の実習である。		
<授業目標(GIO)> ・身体障害分野の作業療法の専門的な検査測定を選択し、実施することができる。 ・検査・測定の結果をまとめ分析することができる。		
<行動目標(SBO)> 1. 身体計測を実施できる。 3. 関節可動域測定・徒手筋力検査が実施できる。 3. 感覚検査が実施できる。 4. 反射の検査を実施できる。 5. その他の検査を実施できる。		
<実習の留意点> ・臨床実習指導者の指導をよく聞くこと。 ・疑問点は臨床実習指導者に確認すること。 ・課題の提出期限を守ること。		
<教科書> 標準作業療法学 専門分野「作業療法評価学」 ベッドサイドの神経の診かた 新徒手筋力検査法 絵でみる脳と神経・ROM測定PT・OTのための測定評価		
<参考書> 新版姿勢と動作 ADLその基礎から応用		
2019年12月2日～2019年12月14日の2週間実施		
成績評価 実習成績報告書80%、報告会10%、提出物10%		

科目名			区分	
身体障害治療学			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要>		備考
この授業では、作業療法を行う上で必要となる評価から目標設定、アプローチの流れを理解することから始まる。個人での意見やグループを通しての検討を通して、評価の視点、具体的な目標設定の考え方を身につけていく。また、基本的なアプローチ、例えば関節可動域訓練の際の動かすポイントや注意事項等について、実技を交えながら身につけてもらいたい。	1 オリエンテーション 到達目標・学習目標等、授業の目的を共通認識する。	講義
	2 障害受容について学習し、グループ演習する。 自身を振り返る(心理的側面の理解)	演習
	3 障害受容について、グループ発表する。 自身を振り返る(心理的側面の理解)	演習
	4 身体機能作業療法について (診療報酬、疾患別リハの算定について学習する)	講義
	5 身体機能作業療法について (診療報酬、疾患別リハの算定について学習する)	講義
	6 作業療法評価について (評価の流れ、手段、評価のポイントについて学習しグループで共有する)	講義・演習
	7 作業療法評価について (トップダウン・ボトムアップアプローチの考え方を学習しグループで共有する)	講義・演習
<授業目標(GIO)> - 身体障害作業療法の実践に必要な知識を身につける。 - 身体障害作業療法の実践における評価・治療プロセスを理解する。 - 病期、実施場所に応じた治療、指導、援助の概要を理解する。	8 作業療法評価について (ADL評価について(BJ、FIMの採点方法を学習し、演習する))	講義・演習
	9 作業療法評価について (ICFについて学習し、演習する)	講義・演習
	10 作業療法目標について (目標設定の方法と考え方、病期に応じた目標設定の方法を学習し、演習する)	講義・演習
	11 作業療法目標について (目標設定の方法と考え方、病期に応じた目標設定の方法を学習し、演習する)	講義・演習
	12 作業療法プログラム立案について (介入モデル選択、内的動機付け、役割の支援について学習し、演習する)	講義・演習
<行動目標(SBO)> - 身体障害作業療法の対象となる疾患について説明できる。 - 治療計画の立て方を説明できる。 - 各疾患ごとの作業療法について、その目的と治療手段について説明できる。	13 作業療法プログラム立案について (立案で重要な事、参加支援を学習し、一部演習する)	演習・演習
	14 リスク管理について (インシデント・アクシデントについて学習する)	講義
	15 リスク管理について (臨床場面でも多くみられる事例提示し検討、実践)	演習
	16 関節可動域訓練 (モビライゼーションの概要・肩甲骨のモビを学習し、演習する)	講義・演習
	17 関節可動域訓練 (肩・肘・手・手指の可動域訓練を学習し、演習する)	講義・演習
	18 関節可動域訓練 (股・膝関節の可動域訓練を学習し、演習する)	講義・演習
	19 筋力訓練 (MMT3以上の場合の介入方法を学習し、演習する)	講義・演習
	20 筋力訓練 (MMT3未満の場合の介入方法を学習し、演習する)	講義・演習
<授業の留意点> - 教科書の予習・復習を十分に行うこと。授業では積極的なディスカッションを求める。 - 治療学を学ぶ上では、疾患および作業療法評価学の知識が必須となる。十分に復習しておくこと。 - 必要に応じて実習着・実習靴を着用する。	21 知覚再教育訓練 (知覚再学習のプログラムの流れを学習する)	講義
	22 知覚再教育訓練 (回復過程に沿った治療を学習し、演習する)	講義・演習
	23 筋緊張の評価、治療手技を学習し、演習する。	講義・演習
	24 不随意運動の分類、評価、治療手技を学習し、演習する。	講義・演習
	25 協調運動障害の評価、治療手技を学習し、演習する。	講義・演習
<教科書> 標準作業療法学 身体機能作業療法学(第3版) 医学書院 標準作業療法学 作業療法評価学(第2版) 医学書院 リハビリテーション リスク管理ハンドブック 第3版	26 神経筋促進法の治療手技を学習し、演習する。	講義・演習
	27 アクティビティの特徴を学習し、演習する。 (各道具の特徴についてグループで調べ学習をする)	演習
	28 アクティビティの特徴をいかして治療に繋げる。 (症例を設定し各道具を用いた訓練をグループで考える)	演習
	29 アクティビティの特徴をいかして治療に繋げる。 (道具使用し、グループ発表をする)	演習
<参考書> ICFの理解と活用(初版第22刷) きょうされん *その他、身体障害治療学で使用する教科書類は必要に応じて適宜指示予定。 齊藤佑樹:作業で語る事例報告. 医学書院, 2014	30 事例検討 (症例を設定し、治療プログラムを立案する)	演習
	31 期末試験	
	成績評価 期末試験60%、小テスト20%、課題20%	

※1 作業療法士として病院で実務経験5年以上

科目名			区分	
脳血管疾患系演習			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

授業概要		授業計画	備考
<授業概要> ・脳解剖(神経)を再復習し脳血管疾患の評価法および作業療法アプローチを修得する。 ・脳血管疾患に関する作業療法評価から治療の実施に至る作業療法過程を理解し、具体的な治療手段を学ぶ。		1 オリエンテーション 到達目標・学習目標等、授業の目的を共通認識する。	講義
		2 脳血管障害の分類とリハビリテーションについて、文献検索し、グループ調べ学習する	演習
		3 脳血管障害の分類とリハビリテーションについてポスター形式で発表する(1人ずつ)	演習
		4 脳血管障害の分類とリハビリテーションについてポスター形式で発表する(1人ずつ)	演習
		5 脳血管障害の分類とリハビリテーションについて学習する。	講義
		6 脳血管疾患の各期におけるリハビリテーションの実践を学習する。	講義
		7 脳画像評価 (CT, MRIの種類、脳溝の同定、画像診断を学習し演習する)	講義・演習
		8 脳画像評価 (CT, MRIの種類、脳溝の同定、画像診断を学習し演習する)	講義・演習
		9 脳血管障害の対象者に必要となる作業療法評価を学習する	講義
		10 脳血管障害の対象者の状況に応じた作業療法目標の考え方を学習する	講義
		11 急性期の作業療法 (リスク管理について学習し、演習する)	講義・演習
		12 急性期の作業療法 (ポジショニングについて学習し、演習する)	講義・演習
		13 脳血管障害の対象者が陥りやすい障害受容過程を学習する	講義
		14 急性期リハ介入方法を学習し、ベッドを用いて演習する。	講義・演習
		15 起居動作、座位訓練の介入方法を学習し、演習する。	講義・演習
		16 上肢機能に対する介入方法 (BRS I～IIに対する基本的介入方法を学習し、演習する)	講義・演習
		17 上肢機能に対する介入方法 (BRS IV～VIに対する基本的介入方法を学習し、演習する)	講義・演習
		18 基本動作に対する介入方法 (正常動作の復習と、片麻痺患者に対する介入方法と訓練検討を通し学習する。)	講義・演習
		19 ブッシャー症候群について (ブッシャー症候群の特徴と介入方法を学習し、患者役を用いて演習する)	講義・演習
		20 感覚障害について (軽度～中等度感覚鈍麻のある方に対する、治療の考え方を学習し、演習する)	講義・演習
		21 感覚障害について (重度感覚のある方に対する治療の考え方とリスク管理について学習し、演習する。)	講義・演習
		22 片麻痺の対象者を想定した食事動作の介入方法 (環境調整、自助具の検討、上肢操作訓練を学習し、演習する。)	講義・演習
		23 片麻痺の対象者および、意識障害のある対象者を想定した整容動作の介入方法を学習し、演習する。	講義・演習
		24 片麻痺の対象者を想定した更衣動作の介入方法 (更衣の指導、半側空間無視・迷行機能障害に対する更衣訓練を学習し、演習する)	講義・演習
		25 片麻痺の対象者を想定したトイレ動作の介入方法 (トイレ動作指導、環境調整、機能に応じた訓練方法を学習し、演習する。)	講義・演習
		26 入浴動作の介入方法 (環境調整、福祉用具の検討、サービスの利用を学習する)	講義
		27 環境調整 (シーティングの基礎と、食事場面でのシーティング調整を学習し、一部演習する)	講義・演習
		28 環境調整(介護保険における福祉用具の種類、検討)について学習する。	講義
		29 事例を設定し、作業療法評価から治療プログラム立案までを演習を通して学ぶ。	演習
		30 事例を設定し、作業療法評価から治療プログラム立案までを演習を通して学ぶ。	演習
		31 期末試験	筆記試験
		成績評価	
		期末試験60%、小テスト20%、課題20%	
<授業目標(GIO)> 脳血管障害の対象者に作業療法を実施できるようになるために、疾患の病態理解に努める。また、作業療法の評価と治療、指導・援助法を習得する。			
<行動目標(SBO)> ・主たる疾患の臨床像について説明できる。 ・脳画像の診かたを理解し予測・検証することができる。 ・疾患特有の評価法を実施でき、対象者の生活機能と疾患に起因する障害の態様について説明できる。 ・問題点と利点の抽出の仕方を説明できる。 ・作業療法の治療・指導・援助方法、方法、手段について説明できる。 ・訓練プログラムの立案を行い、実践することができる			
<授業の留意点> ・講義と演習を交えながら進行するため、実習着等の準備を怠らないこと。(結髪、爪等) ・レポート課題や自助具等の作製課題が課された場合は提出期限を厳守すること。			
<教科書等> ・脳卒中最前線 第4版 医歯薬出版 ・標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版 医学書院 ・考える作業療法 活動能力障害に対して 文光堂 ・病気がみえるvol.7 脳・神経 第2版 メディックメディア			
<その他、適宜資料配布> ・講義毎に配布します。			

※1 作業療法士として病院で実務経験5年以上

科目名			区分	
中枢神経疾患系演習			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 後期 通年	60 (2)	講義 演習	専任教員(※1)

授業計画		備考
1	大脳基底核の仕組みと発生機序について神経解剖と神経生理について学習する	講義
2	パーキンソン病の薬物的療法と手術的療法について学び、作業療法の関連を学習する	講義
3	パーキンソン病の運動症状と非運動症状について学習する	講義
4	パーキンソン病の作業療法の身体・精神機能面、日常生活活動面の評価について演習	演習
5	パーキンソン病初期(ヤールのstage I-II)の治療的介入・援助・指導について演習する	演習
6	パーキンソン病中期(ヤールのstage III-IV)の治療的介入・援助・指導について演習する	演習
7	パーキンソン病後期(ヤールのstage V)の治療的介入・援助指導について演習する	演習
8	脊髄小脳変性症の脊髄・小脳症状について学習する	講義
9	脊髄小脳変性症の薬物療法、対症療法について学習する	講義
10	脊髄小脳変性症の作業療法評価の身体・精神・日常生活活動について演習する	演習
11	脊髄小脳変性症の重症度分類(初期・中期・後期)での治療的介入・援助・指導について演習する	演習
12	ギランバレー症候群の病態・症状・予後について学習する	講義
13	ギランバレー症候群の作業療法評価の身体・精神機能面、日常生活活動について演習する	演習
14	ギランバレー症候群の病期に応じた治療的介入・援助・指導について演習する	演習
15	多発性硬化症の症状と予後について学習する	講義
16	多発性硬化症の作業療法評価の身体・精神機能・日常生活活動について演習する	演習
17	多発性硬化症の作業療法の治療的介入・援助・指導について演習する	演習
18	筋萎縮性側索硬化症の病態及び病型について学習する	演習
19	筋萎縮性側索硬化症の作業療法評価の身体・精神・日常生活活動について演習する	演習
20	筋萎縮性側索硬化症の各病期に応じた作業療法の治療的介入・援助・指導について演習する	演習
21	脊髄の構造と感覚・運動神経伝導路について学習する	講義
22	脊髄損傷後の神経症状と合併症について学習する	講義
23	脊髄損傷の機能分類(ASIA、Frankel、Zancolli)について学習する	講義
24	脊髄損傷の作業療法評価の身体・精神・日常生活活動について演習する	演習
25	脊髄損傷の上肢機能動作訓練について演習する	演習
26	脊髄損傷の床上動作訓練について演習する	演習
27	脊髄損傷の除圧動作、移乗動作、車椅子駆動訓練について演習する	演習
28	脊髄損傷の食事、更衣、書字動作訓練について演習する	演習
29	脊髄損傷の排泄、入浴動作訓練について演習する	演習
30	社会復帰への作業療法(住宅改修、環境制御装置、学校・職場)の援助・指導について演習する	演習
31	期末試験	
成績評価		
定期試験で評価する		

<授業概要> ・基礎医学の知識を踏まえ、パーキンソン病と脊髄損傷、神経・筋疾患の評価法および作業療法アプローチを修得する。 ・評価から治療の実施に至る作業療法過程を理解し、具体的な治療手段を学ぶ。
<授業目標(GIO)> ・対象疾患の臨床像を把握して適切な作業療法評価法を修得する。 ・疾患に起因する「生活機能」、「障害」について理解し、作業療法の治療・指導・援助内容を理解できる。
<行動目標(SBO)> ・パーキンソン病と脊髄損傷、神経・筋疾患の臨床像について説明できる。 ・疾患特有の評価法を実施でき、対象者の生活機能と疾患に起因する障害の態様について説明できる。 ・問題点と利点の抽出の仕方を説明できる。 ・疾患特有の作業療法の目標について説明できる。 ・作業療法の治療・指導・援助方法、方法、手段について説明できる。
<授業の留意点> ・様々な疾患を学習するため、單元ごとに授業内容を整理し復習しておくこと。 ・配布資料が多くなるのでファイルにして整理しておくこと。
<教科書・参考書> ・「標準作業療法学 身体機能作業療法学」医学書院 ・「病気がみえる 脳・神経」MEDIC MEDIA ・「考える作業療法-活動能力障害に対して」文光堂 ・「I・ADL作業療法の戦略・戦術・技術」三輪書店

科目名			区分	
骨・関節疾患系演習			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> ・この授業では、2年次に習得した整形外科学をもとに、復習を行い病態の理解に努める。 ・また、基礎をもとに、各骨関節疾患に対するリスク管理を把握した上で、作業療法評価を行えるようにする。その評価結果をもとに、対象者のニーズを聞き出し、今後の生活を考えた訓練プログラムの立案や説明が実施でき、評価実習へと結びつける。 <授業目標(GIO)> ・骨・関節疾患の病態が理解できた上で、各疾患に対する作業療法評価および訓練プログラムの立案・実施ができる。 ・各疾患に対するリスク管理を把握し、説明できる。 <行動目標(SBO)> ・運動学や解剖学の再復習を行い、治療と結び付ける。 ・動きの特徴が整理できるようになる。 ・疾患毎の大まかな治療内容が把握できるようになる。 <授業の留意点> ・グループワーク等へ積極的に参加し、意見を言うこと ・実習着で臨む場合は、身だしなみを徹底すること <教科書> ・標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版 ・病気がみえるvol.11 運動器・整形外科 第1版 <参考書> ICFの理解と活用(初版第22刷) きょうされん * その他、身体障害治療学で使用する教科書類は必要に応じて適宜指示予定。	授業計画		備考
	1	オリエンテーション	講義
	2	骨折の原因(骨粗鬆症について) 骨折の概要(骨折の名称と部位等)	講義
	3	骨折の分類と合併症	講義
	4	画像評価	講義・演習
	5	評価・目標・プログラムの概要	講義・演習
	6	上腕骨近位端骨折の評価・プログラム	講義・演習
	7	橈骨遠位端骨折の症例提示	講義・演習
	8	橈骨遠位端骨折の評価・プログラム	講義・演習
	9	脊椎圧迫骨折の評価・プログラム	講義・演習
	10	大腿骨頸部骨折の症例提示	講義・演習
	11	大腿骨頸部骨折の評価・プログラム	講義・演習
	12	関節リウマチの評価・プログラム	講義・演習
	13	関節リウマチのADL	講義・演習
	14	末梢神経損傷	講義・演習
	15	まとめ復習	講義・演習
	16	後期定期試験	試験
成績評価			
期末試験60%、小テスト20%、課題20%			

※1 作業療法士として病院で実務経験5年以上

科目名			区分	
精神障害治療学総論			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

授業概要		授業計画		備考	
<授業概要> 精神障害領域の作業療法について必要な知識と理解を深め、精神障害を持つ人々への治療または援助計画を立案し実践できるように学習を行う。	1	授業概要 授業の流れと概要を理解する		講義	
	2	精神保健医療福祉の流れと作業療法の役割 法の変遷と精神科特例、OT診療報酬化への反対運動について学習する		講義	
	3	精神障害とは 精神障害と身体障害との相違を疾病性と個別性の視点から理解する		講義	
	4	精神障害とは 「病い」論、リカバリー概念について学習する		講義	
	5	精神障害に対する作業療法の視点 「作業」を用いることの意味、作業的存在としての人と作業の関係を理解する		講義	
	6	精神障害に対する作業療法の視点 急性期作業療法と慢性期、回復期作業療法と具体性の効果について学習する		講義	
	7	作業療法の治療・援助構造と治療機序(作業の治療的応用) 作業の工程や身体運動の特性から作業の治療的要素を理解する		講義	
<授業目標(GIO)> 精神科作業療法の視点、治療構造、実践プロセスなどについて学び、これまで習得した知識と統合することで、臨床における治療、援助計画に必要な知識・技術を習得する。	8	作業療法の治療・援助構造と治療機序(作業の治療的応用) 作業に伴う感覚やコミュニケーションの特性から作業の治療的要素を学習する		講義	
	9	作業療法の治療・援助構造と治療機序(自己の治療的応用) 対象者との関係性に影響する要素、転移と逆転移の概念を理解する		講義	
	10	作業療法の治療・援助構造と治療機序(自己の治療的応用) ケーススタディーを通して作業療法士の逆転移と自己覚知について理解する		講義	
	11	作業療法の治療・援助構造と治療機序(集団の治療的応用) 作業療法の実践形態をモゼイの対人関係発達論に従って理解する		講義	
	12	ライフサイクルと生活課題 フロイトの発達モデル、エリクソンの障害人間発達論について学習する		講義	
	13	ライフサイクルと生活課題 学生の半生をライフストーリーワーク形式でまとめ発表する演習を行う		演習	
	14	精神科作業療法の実践プロセス インタビューと試行参加、作業療法評価と治療的介入のプロセスを理解する		講義	
<行動目標(SBO)> ①精神障害の特性を説明することが出来る ②精神科作業療法の治療構造を説明することが出来る ③作業療法の実施形態と実践プロセスを説明することが出来る ④回復段階モデルを説明することが出来る ⑤疾患別の作業療法について説明することが出来る	15	疾患・障害別作業療法(統合失調症) 統合失調症の概要と障害像を復習する		講義	
	16	疾患・障害別作業療法(統合失調症) 統合失調症の認知機能障害と行動特徴について学習する		講義	
	17	疾患・障害別作業療法(統合失調症) ケーススタディーを通して前駆期の状態像と治療的介入について学習する		講義	
	18	疾患・障害別作業療法(統合失調症) 急性期の治療的介入、保護室の目的についてケーススタディーから理解する		講義	
	19	疾患・障害別作業療法(統合失調症) 回復期前期の状態像と治療的介入をケーススタディーから理解する		講義	
	20	疾患・障害別作業療法(統合失調症) 回復期後期の状態像と治療的介入をケーススタディーから理解する		講義	
	21	疾患・障害別作業療法(統合失調症) 長期入院者のケーススタディーから潜在ニーズとストレスモデルを理解する		講義	
<授業の留意点>	22	疾患・障害別作業療法(統合失調症) 地域生活支援と危機介入について学習する		講義	
	23	疾患・障害別作業療法(気分障害) 気分障害の類型を復習し単極性障害と双極性障害の特徴を理解する		講義	
	24	疾患・障害別作業療法(気分障害) 気分障害の障害像をICFに従い整理し、認知の歪みと認知行動療法を理解する		講義	
	25	疾患・障害別作業療法(気分障害) うつ病者に対する早期の作業療法とその機能を学習する		講義	
	26	疾患・障害別作業療法(気分障害) うつ病者の回復期の作業療法とその機能を学習する		講義	
	27	疾患・障害別作業療法(神経症性障害) 防衛機制のメカニズムを理解し、神経症の類型・病前性格を学習する		講義	
	28	疾患・障害別作業療法(神経症性障害) 神経症の類型と行動特徴を学習し、リラクゼーション・自律訓練法を演習する		演習	
<教科書> 精神障害と作業療法 一病いを生きる、病いと生きる 精神認知系作業療法の理論と実践― 新版 作業療法学会全書 作業治療学2 精神障害 協同医書	29	疾患・障害別作業療法(神経症性障害) 神経症者に対する早期の作業療法とその機能を学習する		講義	
	30	疾患・障害別作業療法(神経症性障害) 神経症者に対する回復期の作業療法とその機能を学習する		講義	
	31	定期試験			
	成績評価				
	筆記試験:80%、課題レポート:20%				
	<参考書> 精神疾患の理解と精神科作業療法 第2版 中央法規				

※1 保健所で実務経験(精神保健業務)7年以上 介護老人保健施設で実務経験3年以上

科目名			区分	
精神障害治療学各論			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 後期 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)
<授業概要>			授業計画	
			備考	
精神障害評価法・精神障害治療学総論で習得した精神科作業療法の基礎技術を基盤に、摂食障害その他の精神疾患に対する作業療法について実践的に学ぶ。			1 疾患・障害に応じた作業療法(摂食障害) 基本症状・発症モデル・障害像(ICF)・心理について学習する	講義
			2 疾患・障害に応じた作業療法(摂食障害) 回復段階に応じた介入モデル・治療の関係性を学習する	講義
これまで習得した精神科作業療法の視点、治療構造、実践プロセスを踏まえて、摂食障害その他の疾患に対する作業療法の視点と技術を修得する。			3 疾患・障害に応じた作業療法(境界性人格障害:BPD) BPDの基本症状・障害像(ICF)・作業療法介入の基本方針を学習する	講義
			4 疾患・障害に応じた作業療法(人格障害) ケーススタディを通じ転移分析・治療の関係性について学習し、ボーダーラインシフトの考え方を理解する	講義
<授業目標(GIO)>			5 疾患・障害に応じた作業療法(アルコール依存症) 依存症と社会のあり方について討議する。アルコール依存症の基本症状・経過について学習する	講義
			6 疾患・障害に応じた作業療法(アルコール依存症) アルコール依存症の離脱症状・防衛機制と否認について学習する	講義
<行動目標(SBO)>			7 疾患・障害に応じた作業療法(アルコール依存症) アルコール依存症に対する作業療法介入の基本方針を学習する	講義
			8 疾患・障害に応じた作業療法(アルコール依存症) 依存症の回復概念について討議し、断酒会とAAについて学習する。依存症の家族とイネイブリングについて学習する	講義
疾患毎の精神科作業療法プログラムを立案することができる。			9 疾患・障害に応じた作業療法(認知症) BPSDを生むメカニズムを理解し、認知症の人の心理とメンタルケアについて学習する	講義
			10 疾患・障害に応じた作業療法(認知症) 認知症の人に対する作業療法介入の基本方針について学習する	講義
<授業の留意点>			11 疾患・障害に応じた作業療法(認知症) 仮想ケースを提示し、ケースレポート(焦点化・目標設定・OT計画・考察)の作成を演習する	演習
			12 疾患・障害に応じた作業療法(認知症) 学生が作成したケースレポートをフィードバックする	講義
<教科書>			13 疾患・障害に応じた作業療法(発達障害) 発達障害の類型・発達障害の障害像と行動特徴について学習する	講義
			14 疾患・障害に応じた作業療法(発達障害) 発達障害に対する作業療法介入の基本方針を学習する	講義
作業療法全書 作業治療学2精神障害 協同医書 精神障害と作業療法 新版 三輪書店 精神疾患の理解と精神科作業療法 中央法規			15 授業の総括 精神科作業療法について学習したことを振り返り、精神科領域の作業療法の未来と可能性について討議する	講義
			16 定期試験	
<参考書>			成績評価	
必要な文献や資料については、配布します			筆記試験:80%、課題レポート:20%	

※1 保健所で7年(精神保健業務) 介護老人保健施設で3年半

科目名			区分	
精神疾患系演習			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 精神障害評価法・精神障害治療学で習得した精神科作業療法の基礎技術が実践できることを目標に、演習を行っていく <授業目標(GIO)> 精神科作業療法の視点、治療構造、実践プロセスなどについて学び、これまで習得した知識も合わせて、統合を図ることで、臨床における治療、援助計画などの実践が可能になるような技術を習得する <行動目標(SBO)> ・疾患ごとの精神科作業療法評価を行うことが出来る ・疾患ごとの精神科作業療法プログラムを立案することが出来る ・集団作業療法プログラムを企画・実践することが出来る <授業の留意点> <教科書> 作業療法全書 作業治療学2精神障害 協同医書 精神障害と作業療法 第2版 三輪書店 精神障害の理解と精神科作業療法 中央法規 身振りて語ろう 適応・時間別54の治療ゲーム集 第5版 <参考書> 必要な文献・資料に関しては配布します	授業計画		備考
	1	オリエンテーション・集団活動について	
	2	集団活動について	
	3	レクリエーション企画・実践	
	4	レクリエーション企画・実践	
	5	レクリエーション企画・実践	
	6	レクリエーション企画・実践	
	7	レクリエーション企画・実践	
	8	レクリエーション企画・実践	
	9	レクリエーション企画・実践	
	10	レクリエーション企画・実践	
	11	レクリエーション企画・実践	
	12	レクリエーション企画・実践	
	13	SSTについて	
	14	SSTについて	
	15	認知行動療法について	
	16	定期試験	
成績評価			
筆記試験 80%			
課題点 20%			

※1 作業療法士として病院で実務経験7年以上

科目名			区分	
発達障害治療学			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期・後期・通年	30 (1)	講義・演習・実習	非常勤講師(※1)

授業概要		授業計画	備考
<授業概要> 本授業では2年次に履修した発達障害評価法で学習したことを、より具体的に活用しながら、発達障害領域の各疾患について臨床像、評価、治療、援助方法について学習する。		1 発達過程作業療法の実践課程	
		2 NICUの作業療法①	
		3 NICUの作業療法②	
<授業目標(GIO)> 発達障害の領域の各疾患について、特徴および対応、援助方法について理解する。		4 脳性麻痺の作業療法① 定義、発生原因、分類	
		5 脳性麻痺の作業療法② 評価	
		6 脳性麻痺の作業療法③ OTアプローチ	
<行動目標(SBO)> ①NICUの作業療法について特徴、評価、治療、援助方法について説明することができる。 ②脳性麻痺の特徴、評価、治療、援助方法について説明することができる。 ③重症心身障害の特徴、評価、治療、援助方法について説明することができる。 ④その他、各疾患の特徴、評価、治療、援助方法について説明することができる。		7 脳性麻痺の作業療法④ OTアプローチ	
		8 重症心身障害児の作業療法① 定義、発生原因、分類	
		9 重症心身障害児の作業療法② 姿勢ケア	
<授業の留意点> ・疑問点や質問がある場合は授業中であっても遠慮なく質問すること。 ・積極的に授業に参加すること。		10 重症心身障害児の作業療法③ 姿勢ケア	
		11 重症心身障害児の作業療法④ 摂食障害のある子どもへのアプローチ	
		12 重症心身障害児の作業療法⑤ 摂食障害のある子どもへのアプローチ	
<教科書> ・標準作業療法学 専門分野 発達過程作業療法学 (医学書院)		13 筋ジストロフィー症の作業療法	
		14 二分脊椎・分娩麻痺の作業療法	
		15 まとめ	
<参考書> ・発達障害児の新しい療育(三輪書店) ・発達障害をもつ子どもと成人、 家族のためのADL(三輪書店) ・感覚統合とその実践(協同医書出版社) ・その他資料を随時配布		16 定期試験	
		成績評価	
		筆記試験100%	

※1 作業療法士として病院及び保育園で実務経験18年以上

科目名			区分	
発達障害治療学演習			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	非常勤講師(※1)

授業概要		授業計画	備考
<授業概要> 本授業では発達障害評価法、発達障害治療学で学んだことを実技をふまえながら体験し、より具体的に学習することで知識を深める。	<授業目標(GIO)> 評価・治療の一連の流れを再確認するとともに、各種検査、治療器具等を活用できるようになる。	1 知的発達障害の作業療法① (定義、原因、分類)	
		2 知的発達障害の作業療法② (評価)	
		3 知的発達障害の作業療法③ (OTアプローチ)	
		4 自閉症スペクトラム障害の作業療法① (定義、原因、分類)	
<行動目標(SBO)> ①知的発達障害児への治療・援助方法について説明できる。 ②自閉症スペクトラム障害児への治療・援助方法について説明できる。 ③LD児・ADHD児への治療・援助方法について説明できる。 ④治療に使用できる道具を考え、作成し、使用方法を説明することができる。	<授業の留意点> ・疑問点や質問がある場合は授業中であっても遠慮なく質問すること。 ・実技演習の時は動きやすい服装で参加すること。	5 自閉症スペクトラム障害の作業療法② (評価・OTアプローチ)	
		6 学習障害の作業療法① (定義、原因、分類)LD	
		7 学習障害の作業療法② (評価・OTアプローチ)	
		8 注意欠如多動性障害の作業療法① (定義、原因、分類)ADHD	
<教科書> ・標準作業療法学 専門分野 発達過程作業療法学 (医学書院)	<参考書> ・発達障害児の新しい療育(三輪書店) ・発達障害をもつ子どもと成人、 家族のためのADL(三輪書店) ・感覚統合とその実践(協同医学出版社) ・その他資料を随時配布	9 注意欠如多動性障害の作業療法② (評価・OTアプローチ)	
		10 特別支援教育の作業療法①	
		11 特別支援教育の作業療法②	
		12 治療道具の作成	グループ演習
<成績評価> 筆記試験100%		13 治療道具の作成	グループ演習
		14 作成した治療道具についてグループ発表	グループ演習
		15 授業まとめ	
		16 定期試験	

※1 作業療法士として病院及び保育園で実務経験18年以上

科目名			区分	
老年期障害治療学			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> ・高齢期の特徴を踏まえ、評価・治療的介入、援助、指導について理解を深める。 ・作業療法介入におけるリスク管理を学ぶ ・循環系疾患の病態、症状を理解し、評価、治療的介入指導、援助について理解を深める。 <授業目標 (GIO) > ・高齢期の特徴を理解し、介入のポイントを理解する。 ・作業療法介入時のリスク管理を高め、対応できる。 <行動目標 (SBO) > ・老年期の特徴、作業療法の役割を説明できる。 ・グループワークも利用しながら、評価、問題点、目標を繋げて考えることができる。 <授業の留意点> ・基礎専門分野の解剖学や生理学の知識を復習しながら専門分野の理解を深めてください。 <教科書> 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 医学書院 老年期の作業療法(第2版)増補版 三輪書店 病気が見える 循環器 MEDIC MEDIA <参考書> 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 考える作業療法 活動障害の能力障害 文光堂 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学	授業計画		備考
	1	日本社会の高齢化の現状と将来像を(平均寿命の推移、平均余命、健康寿命)から学習する	講義
	2	老年期作業療法の役割について学習する	講義
	3	老年期作業療法の目的(老化などによって生じる生きがいや役割の喪失、個々の老人のおかれた環境の中での指導、援助について)演習する	演習
	4	老化について学習する (定義、老化の機序、生理的老化・病的老化)	講義
	5	老年期の身体的変化と精神的変化の特徴について学習する	講義
	6	老年症候群(誤嚥・転倒・認知症・排尿障害など)について学習する	講義
	7	高齢者の脳血管障害の対象者のリスクとその対応について学習する	講義
	8	高齢者の呼吸器疾患対象者のリスクとその対応について学習する	講義
	9	高齢者の循環器疾患対象者のリスクとその対応について学習する	講義
	10	高齢者の運動器疾患対象者のリスクとその対応について学習する	講義
	11	心臓の構造と働きについて学習する	講義
	12	虚血性心疾患、心不全、心臓大血管疾患の病態と症状について学習する	講義
	13	虚血性心疾患、心不全、心臓大血管疾患の医学的治療について学習する	講義
	14	心疾患対象者の作業療法評価の身体・精神機能面、日常生活活動について演習する	演習
	15	心疾患対象者の作業療法の治療的介入、援助、指導について演習する	演習
	16	定期試験	筆記試験
成績評価			
定期試験で評価する			

科目名			区分	
老年期障害治療学演習			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

授業計画+G6:R17		備考
1	呼吸器の解剖と生理について学習する	講義
2	呼吸器疾患の病態および分類、症状について学習する	講義
3	呼吸器の臨床評価(スパイロメトリー、動脈血ガス検査、パルスオキシメータ)について学習する	講義
4	呼吸器疾患の作業療法のADL指導について演習する	演習
5	糖尿病の病態及び分類、障害像について学習する	講義
6	糖尿病の医学的(経口血糖降下薬・インスリン治療)と作業療法の関連について学習する	講義
7	糖尿病の対象者の作業療法評価の身体・精神機能面、日常生活活動について演習する	演習
8	糖尿病の対象者の作業療法の治療的介入・援助・指導について演習する	演習
9	悪性腫瘍の種類とその症状について学習する	講義
10	悪性腫瘍の医学的治療について学習する	講義
11	悪性腫瘍のリハビリテーションの対象となる障害について学習する	講義
12	乳癌の対象者の作業療法評価の身体・精神・日常生活活動について演習する	演習
13	乳癌の対象者の病期に応じた作業療法の治療的介入・援助・指導について演習する	演習
14	熱傷の特徴と症状と医学的治療について学習する	講義
15	熱傷の対象者の作業療法評価の身体・精神・日常生活活動について演習する	演習
16	熱傷の対象者の作業療法の治療的介入・援助・指導について演習する	演習
17	老年期の糖尿病対象者のリスク管理について演習する	演習
18	老年期の骨折疾患対象者のリスク管理について演習する	演習
19	老年期の循環器疾患対象者のリスク管理について演習する	演習
20	老年期の呼吸器疾患対象者のリスク管理について演習する	演習
21	老年期の脊髄疾患対象者のリスク管理について演習する	演習
22	老年期の脳血管疾患対象者のリスク管理について演習する	演習
23	仮想ケース(上肢骨折疾患)作業療法について演習する	演習
24	仮想ケース(上肢骨折疾患)の作業療法について演習する	演習
25	仮想ケース(上肢骨折疾患)の作業療法について演習する	演習
26	仮想ケース(下肢骨折疾患)の作業療法について演習する	演習
27	仮想ケース(下肢骨折疾患)の作業療法について演習する	演習
28	仮想ケース(パーキンソン病)の作業療法について演習する	演習
29	仮想ケース(パーキンソン病)の作業療法について演習する	演習
30	仮想ケース(パーキンソン病)の作業療法について演習する	演習
31	定期試験	

<授業概要> 老年期に多い疾患(内部障害)を理解し作業療法の治療介入、指導、援助を学ぶ。 悪性腫瘍の種類や医学的治療について学び、悪性腫瘍の対象者の評価と作業療法の治療介入、指導、援助について学ぶ。
<授業目標(GIO)> 各疾患に関わる基本的な知識を理解する。 各疾患の作業療法評価を理解する。 各疾患の作業療法介入・指導・援助を理解する。
<行動目標(SBO)> 症例に応じた評価や介入方法を説明できる。 高齢期の特徴や症例の病態に応じたリスク管理に配慮しながら、評価やリハビリプログラムを説明できる。 老年期障害者のリスク管理について説明できる。
<授業の留意点> 疾患を理解する為に、解剖学や生理学の知識を復習しながら、専門分野の知識を深めて欲しい。
<教科書> 「標準作業療法 専門分野 身体機能作業療法」 医学書院 「がんのリハビリテーション」 医学書院 「病気がみえる 呼吸器」 MEDIC MEDIA 「I・ADL作業療法の戦略・戦術・技術」 三輪書店 リハビリテーションリスク管理ハンドブック メジカルビュー社
<参考書> 老年期の作業療法(第2版)増補版 三輪書店 標準理学作業療法学 基礎専門分野 解剖学、生理学 病気がみえる 運動器・整形外科 MEDIC MEDIA

成績評価
定期試験で評価する

科目名			区分	
高次脳機能障害治療学演習			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 高次脳機能障害に対する作業療法の実践的アプローチについて演習を通して学ぶ。	授業計画		備考	
	1	高次脳機能障害と責任病巣、評価の知識の整理をする	講義	
	2	高次脳機能障害の治療戦略について学習する	講義	
	3	小テスト①(高次脳機能障害と責任病巣)		
	4	注意障害の作業療法(全般的・戦略的アプローチ、自己指示法)について学習する	講義	
	5	グループで注意障害に対する治療プログラムを立案を演習する(文献検索にて)	演習	
	6	グループで注意障害に対する治療プログラムを立案を演習する(レジュメ作成)	演習	
	7	グループで立案した注意障害に対する治療プログラムの発表(前半2班)をする	演習	
	8	グループで立案した注意障害に対する治療プログラムの発表(後半2班)をする	演習	
	9	記憶障害の作業療法(内的・外的方略の獲得、環境調整)の学習をする	講義	
	10	失語の作業療法(コミュニケーション活動に着目したアプローチ)の学習をする	講義	
	11	失認の作業療法(知覚の再教育、代償手段の獲得)を学習する	講義	
<授業目標(GIO)> 1.高次脳機能障害を大脳皮質や皮質下の機能と関連付けて理解できる。 2. 高次脳機能障害の作業療法介入プロセスについて理解する。	12	失行の作業療法(概念・生産系へのアプローチ、エラーに対応したアプローチ)を学習する	講義	
	13	グループで観念失行に対する治療プログラムを立案(文献検索)を演習する	演習	
	14	グループで観念失行に対する治療プログラムを立案(レジュメ作成)を演習する	演習	
	15	グループで立案した観念失行に対する治療プログラムの発表(前半2班)する	演習	
	16	グループで立案した観念失行に対する治療プログラムの発表(後半2班)する	演習	
	17	小テスト②(注意障害、記憶障害、失語、失行に対する治療)		
	18	半側空間無視の作業療法(ボトムアップ・トップダウンアプローチ)を学習する	講義	
	19	グループで半側空間無視に対する治療プログラムを立案を演習する(文献検索)	演習	
	20	グループで半側空間無視に対する治療プログラムを立案を演習する(レジュメ作成)	演習	
	21	グループで立案した半側空間無視に対する治療プログラムの発表(前半2班)する	演習	
	22	グループで立案した半側空間無視に対する治療プログラムの発表(後半2班)する	演習	
	23	半側空間無視の作業療法の実践(DVD鑑賞)を学習する	講義	
<行動目標(SBO)> 1. 高次脳機能障害と責任病巣が列挙できる。 2.高次脳機能障害の治療戦略が説明できる。 3.各高次脳機能障害の作業療法計画の立案ができる。	24	遂行機能障害の作業療法(メタ認知・問題解決・目標管理トレーニング、複合的アプローチ)を学習する	講義	
	25	遂行機能障害者に対する調理訓練を演習する①	演習	
	26	遂行機能障害者に対する調理訓練演習②	演習	
	27	社会的行動障害の作業療法(衝動的な怒り)に対する行動的・認知的アプローチを学習する	講義	
	28	高次脳機能障害に対する治療のまとめ	講義	
	29	小テスト③(失認、半側空間無視、遂行機能障害、社会的行動障害に対する治療)		
	30	高次脳機能障害の治療の知識を整理する	講義	
	31	期末試験		
	成績評価			
	筆記試験30%、発表60%、小テスト10%			
	<授業の留意点> 演習を通して知識・技術を身につけていくことを重要視する。 学生間でのフィードバックを密にしていくこと。			
<教科書> 標準作業療法学 高次脳機能作業療法学 医学書院 高次脳機能障害ポケットマニュアル 医歯薬出版				
<参考書> 前期配布した資料				

※1 作業療法士として病院で実務経験6年以上

科目名			区分	
日常生活活動演習			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 日常生活活動(ADL)に支障を来した症例の評価および指導・援助について演習を通して学ぶ。	授業計画	備考
	1 ADLと福祉用具及びADL・IADL場面別の自助具について学習し、ソックスエイド作製の演習を行う	講義・演習
<授業目標(GIO)> ・ADL評価の目的、視点、方法を知る。 ・ADL評価、指導・援助方法を理解する。 ・自助具、福祉用具の位置づけを理解する。	2 食事動作の評価演習を行う (片麻痺患者の食事場面の動画を見て評価を行う)	演習
	3 食事動作の評価と指導・援助方法(食べこぼしの原因と援助方法)について学習し、箸操作訓練の段階付けについて演習する	講義・演習
	4 整容動作の評価と指導・援助方法について学習する	講義
<行動目標(SBO)> ・ADL評価の目的、視点、方法を説明できる。 ・ADL評価、指導・援助方法を説明できる。 ・自助具、福祉用具を列挙でき、特徴を説明できる。 ・障害別のADL指導・援助方法を説明できる。 ・自助具と適応疾患を説明できる。	5 整容に関する自助具をグループで作製し発表する	演習
	6 排泄動作の評価演習を行う (片麻痺患者の排泄場面の動画を見て評価を行う)	演習
	7 片麻痺者の排泄動作の問題点とその原因を学習し、片麻痺者への指導と援助方法についての演習を行う	講義・演習
	8 入浴動作の評価演習を行う (片麻痺患者の入浴場面の動画を見て評価を行う)	演習
	9 入浴動作の評価と指導・援助方法を学習し、リフトの演習を行う	講義・演習
	10 更衣動作の評価演習を行う (片麻痺患者の更衣場面の動画を見て評価を行う)	演習
<授業の留意点> ・演習は実習着を着用する。	11 片麻痺患者の更衣動作の指導・援助方法の演習を行う	演習
	12 障害別のADL指導・援助方法、自助具と適応疾患について学習し、片麻痺患者に対する三角巾の装着の演習を行う	講義・演習
	13 片麻痺患者の調理動作演習(カレーを作る)	演習
<教科書> ・作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 日常生活活動学(ADL) メジカルビュー社	14 片麻痺患者の調理動作演習(カレーを作る)	演習
	15 日常生活活動演習での知識の整理を行う	講義
	16 期末試験	
	成績評価	
<参考書>	筆記試験75%、課題25%	

※1 作業療法士として病院で実務経験6年以上

科目名			区分	
義肢装具学演習			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
OT 3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 ・ 演習 ・ 実習	非常勤講師(※1)

	授業計画		備考
	1	2	
<授業概要> 義肢装具の定義・歴史・目的・構造・素材等の基本的な知識とリハビリテーションにおける位置付け、および装具の適合判定について演習を取り入れて学習する。	オリエンテーション・義肢装具概論(定義・機能による分類・歴史)		講義
	装具各論 : 体幹装具 (頸椎装具・仙腸装具:種類・機能・目的)		講義
	装具各論 : 体幹装具 (腰仙椎装具:種類・機能・目的)		講義
	装具各論 : 体幹装具 (胸腰仙椎装具:種類・機能・目的)		講義
	装具各論 : 体幹装具 (側彎矯正用装具:種類・機能・目的)		講義
	装具各論 : 上肢装具 (短・長対立装具:種類・機能・目的)		講義
	装具各論 : 上肢装具 (手関節装具:種類・機能・目的)		講義
	装具各論 : 上肢装具 (指・MP関節装具:種類・機能・目的)		講義
	装具各論 : 上肢装具 (把持装具:種類・機能・目的)		講義
	装具各論 : 上肢装具 (肩装具・肘装具:種類・機能・目的)		講義
	装具各論 : 下肢装具 (概念・種類・継手等の部品説明)		講義
	装具各論 : 下肢装具 (アライメント・疾患と適合)		講義
<授業目標(GIO)> 義肢装具に関する基礎知識について理解する。疾患・症状・状態に対してどのような装具を適応していくのかを理解する。	上肢装具の採型・製作		演習
	装具の練習問題		講義
	試験解説		講義
	義手各論 : 義手 義手概論(定義・体系別分類・機能による分類)		講義
	義手各論 : 義手(切断部位・切断レベルとソケットの分類)		講義
	義手各論 : 義手 (筋電義手:動画)		講義
	義手各論 : 義手 (義手の構造・構成部品)		講義
	義手各論 : 義手 (ハーネスの目的・コントロールケーブルシステム)		講義
	義手各論 : 義手 (前腕義手のチェックアウト)		講義
	義手各論 : 義手 (上腕義手のチェックアウト)		講義
	義足各論(定義・体系別分類・機能による分類)		講義
	義足各論(義足の種類・アライメント・歩行)		講義
<行動目標(SBO)> OTとして症状・状態等を理解して、適応する装具を選択できるようにする。 装着後のチェックアウトができるようにする。	上肢装具の採型・製作		演習
	上肢装具の採型・製作		演習
	上肢装具の採型・製作		演習
	上肢装具の採型・製作		演習
	義肢の練習問題		講義
	試験解説		講義
	定期試験		
<授業の留意点> ・ 必要に応じ適宜伝えます。			
<教科書> ・ リハビリテーション義肢装具学(メジカルビュー社) ・ 義肢装具のチェックポイント(医学書院)			
<参考書> ・ 必要に応じてその都度提示します。			
成績評価			
定期試験100%			

※1 義肢装具士

科目名			区分	
作業療法基礎特論演習			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
4年次	前期・後期・通年	60 (2)	講義・演習・実習	専任教員(※1) 非常勤講師(※2)

<授業概要> 臨床実習において必要な作業療法の基礎知識を演習を通して学ぶ。	授業計画		備考
	1	長期実習総論	
	2	身体障害系実習の心得①	
	3		
4	画像所見		
5			
<授業目標(GIO)> 臨床実習において必要な作業療法の基礎知識を習得する。	6	精神障害系実習の心得	
	7		
	8	トランスファー、治療実技	
	9		
<行動目標(SBO)> 身体障害領域、精神障害領域、地域領域の臨床実習に必要な内容を説明することができる。	10	感染予防・リスク管理	
	11		
	12	精神科実習の概要、レポート作成	
	13		
	14	物理療法	
	15		
	16	精神科作業療法におけるレク・アクティビティー	
	17		
	18	実習について	
	19		
<授業の留意点>	20	身体障害レポート作成	
	21		
	22	高次機能障害の治療・技術	
	23		
<教科書> 担当教員より都度指示します。	24	地域実習の心得	
	25		
	26	介護保険制度	
	27		
<参考書>	28	MTDLP概論	
	29	MTDLP演習	
	30		
	成績評価		
レポート・課題:100%			

※1 作業療法士として病院で実務経験7年以上

※2 作業療法士として病院で実務経験23年以上

科目名			区分	
作業療法臨床特論演習			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
4年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 作業療法専門領域の国家試験問題を解きながら知識を整理する。 <授業目標(GIO)> 身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害、地域における作業療法専門領域の知識を習得する。 <行動目標(SBO)> 身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害、地域における作業療法専門領域の用語を説明することが出来る。 <授業の留意点> <教科書> 担当教員より都度指示します。 <参考書>	授業計画		備考
	1	身体障害の作業療法	
	2		
	3		
	4	身体障害の作業療法	
	5		
	6		
	7	身体障害の作業療法	
	8		
	9		
	10	精神障害の作業療法	
	11		
	12		
	13	精神障害の作業療法	
	14		
	15		
	16	精神障害の作業療法	
	17		
	18		
	19	発達障害の作業療法	
	20		
	21		
	22	発達障害の作業療法	
	23		
	24		
	25	老年期障害の作業療法	
	26		
	27		
	28	老年期障害の作業療法	
	29		
	30		
	31	筆記試験	
成績評価			
筆記試験:100%			

※1 作業療法士として病院で実務経験7年以上

科目名			区分	
地域リハビリテーション論 I			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1) 看護学科専任教員(※2) 非常勤講師(※3)

授業概要		授業計画		備考
<授業概要> ・専門基礎分野及び基礎作業療法学等を基盤とし、地域リハビリテーションの概要や制度・サービス等について学習する。 ・地域リハビリテーション実践の各サービス及びアプローチの方法等について学習する。		1	・地域という言葉について理解を深め、医療圏の分類ごとの内容について理解する。	講義
		2	・地域リハの定義を理解し、現在のリハ医療の流れ、それに至るまでのノーマライゼーションの理念やICFの考え方再度確認する	講義
		3	・日本OT協会の活動歴史を振り返り、地域のOTの役割や生活期リハのプロセス、生活の場に必要なバランス感覚、地域リハアプローチの特徴、地域リハにおける実践モデルについて学習する	講義
		4	・生活の捉え方や活動の分類、その人らしさとは何かを学習した上で、生活の戦略的捉え方や生活障害の評価について学習する。医学モデルと生活モデルのアプローチの違いを理解する	講義
<授業目標(GIO)> ・地域作業療法を理解するための捉え方や歴史を知り、その後地域作業療法の視点を養うために生活障害の捉え方と作業活動の広がり理解する。 ・地域作業療法を支えている制度・施策を知り、社会の流れを背景にした作業療法の実践領域を学ぶ。実践過程を基に社会生活支援と連携について理解する。また、地域作業療法にかかわる多職種を知り、連携・協働の重要性を理解する。 ・各サービス実践から地域リハのイメージ化ができる		5	・地域OTでの作業とは何か、地域で求められる作業の内容はどんなことかについて学習し、さらに終末期における具体的な作業療法内容についても学習する。「作業ができること」の意義を学習し、地域における作業療法の実践モデルについて考え、医学モデルとの違いを確認する	講義
		6	・社会保障制度の概要について学習し、それらの歴史的変遷と、それに伴うOTの位置づけの変化について学習する	講義
		7	・介護保険制度の概要(制度創設の背景、介護保険制度の特徴、介護保険の財源、保険者と被保険者)について学習する	講義
		8	・ケアマネジメントの概要(循環構造、アセスメントの方法、ケアプラン作成等ケアマネジメントプロセスについて)について学習する	講義
		9	・介護保険制度や、介護予防施策、健康日本21におけるOTの役割を学習し、OT評価(IADL、AMPS)について学習する	講義
		10	・ニーズの分類とその意味やアブラハムズローの欲求の階層について学習し、ニーズ発掘のためにどのようなアプローチが必要かを学習する	講義
		11	・リスクマネジメントの概要を学習した後、地域におけるリスクマネジメントの特徴について学習する	講義
		12	・地域における連携・協働の必要性について学習し、連携する職種の業務と役割について学習する	講義
		13	・終末期リハビリテーションについて文献検索し、グループで作業療法の目的やその特徴について調べ学習する	演習
		14	・終末期リハビリテーションについて文献検索し、グループで作業療法の目的やその特徴について調べ学習し、その後解説を行う	演習
		15	・生活行為向上マネジメントの概要(開発背景・社会背景、地域包括ケアシステム)について学習する	非常勤講師
		16	・生活行為向上マネジメントの内容(考え方解説、重要な視点、支援の流れ、シートの紹介・説明、シートの記入方法)について学習する	非常勤講師
<行動目標(SBO)> ・地域リハビリテーションの概念や歴史について説明できる。 ・地域における作業療法士の役割について説明できる。 ・生活障害・ICFの概念と評価について説明できる。 ・生活障害に対するアプローチについて説明できる。 ・社会保障制度の枠組みについて説明できる。 ・介護保険制度や社会保障制度について説明できる。 ・ニーズ把握の重要性について説明できる。 ・地域におけるチームアプローチについて説明できる。 ・地域における連携について説明できる。 ・様々なサービスの中で作業療法の評価の視点の共通性について説明できる。 ・各サービスの目的やその中で作業療法士の役割について説明できる。 ・住環境やまちづくり、リスクマネジメントについて説明できる。		17	・生活行為向上マネジメントの演習を行う(事例紹介、演習:聞き取り、アセスメントシート、プランシート)	非常勤講師
		18	・介護老人保健施設の実践について文献検索し、グループで作業療法の目的やその特徴について調べ学習する	演習
		19	・介護老人保健施設の実践について文献検索し、グループで作業療法の目的やその特徴について調べ学習し、その後解説を行う	演習
		20	・通所リハビリテーションの実践について文献検索し、グループで作業療法の目的やその特徴について調べ学習する	演習
		21	・通所リハビリテーションの実践について文献検索し、グループで作業療法の目的やその特徴について調べ学習し、その後解説を行う	演習
		22	・訪問リハビリテーションの実践について文献検索し、グループで作業療法の目的やその特徴について調べ学習する	演習
		23	・訪問リハビリテーションの実践について文献検索し、グループで作業療法の目的やその特徴について調べ学習し、その後解説を行う	演習
		24	・福祉用具の企業の実践(セラピストはどう関わるのか)	講義
		25	・介護予防の実践(セラピストはどう関わるのか)	講義
		26	・地域包括支援センターの実践について文献検索し、グループで作業療法の目的やその特徴について調べ学習する	演習
		27	・地域包括支援センターの実践について文献検索し、グループで作業療法の目的やその特徴について調べ学習し、その後解説を行う	演習
<授業の留意点> 今まで学んできた医学モデルと全く異なる生活モデルの考え方を学び、作業療法士として広い視野を持てるよう講義や演習に臨んでください。不明な点は積極的に質問して貴重な時間を有効活用すること。また、グループワークを行う場合は、ディスカッション等に積極的に参加すること。		28	・喀痰吸引の基礎(解剖学的理解と吸引の基礎知識)について学習する	看護教員
		29	・基礎知識を学習した上で、吸引モデルを用いて喀痰吸引の演習をする	看護教員
		30	・地域リハビリテーションまとめ(講義を受講し学んだこと、感じたこと、気づいたこと、今後に向けてレポート課題)	
		31	定期試験	
<教科書・参考書> 標準作業療法学 専門分野「地域作業療法学」第2版 小川恵子編集 医学書院 (その他)資料を教員が用意する。		成績評価		
		筆記試験100%		

- ※1 作業療法士として病院及び介護老人保健施設等で実務経験19年以上
 ※2 看護師として病院及び在宅分野で実務経験18年以上
 ※3 作業療法士として病院で実務経験23年以上

科目名			区分	
地域リハビリテーション論Ⅱ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 精神障害者の地域移行を進め、地域での生活の定着を図るために、援助者に求められる価値観・知識・技能を習得する。	授業計画 1 これからの精神保健医療福祉制度 精神障害者を医学モデル、社会モデルの観点から理解する 2 これからの精神保健医療福祉制度 精神障害者を取り巻く法の変遷と精神保健医療改革ビジョンを理解する 3 精神障害者に対する地域生活支援活動 生活支援と作業療法の役割、危機介入について学習する 4 精神障害者に対する地域生活支援活動 就労支援のあり方を一般就労と福祉的就労の観点から理解する 5 対人援助技術 バイステックの7原則 対人援助の原則をバイステックの7原則に従い理解する 6 対人援助技術 仮想ケーススーパービジョン 仮想ケースを通じて対人援助でのスーパービジョンのあり方を学習する 7 対人援助の実際 精神科デイケア、精神科訪問看護における作業療法の役割を理解する 8 対人援助の実際 就労支援における作業療法の役割を理解する 9 精神障害者の家族と家族支援 旧保護者制度、家族の心理と障害受容を理解し家族システム論について学習する 10 社会資源の理解とケースマネジメント ケアマネジメントの考え方と障害者総合支援法の概要を理解する 11 社会資源の理解とケースマネジメント 精神障害者地域移行支援事業とピアサポーターの活動について理解する 12 社会資源の理解とケースマネジメント 障害年金、生活保護、自立支援医療、成年後見制度について学習する 13 社会資源の理解とケースマネジメント 就労支援施設、障害者職業センター、公共職業安定所の役割について学習する 14 リカバリーと当事者活動 リカバリーとエンパワメントの考え方を当事者研究、ベテランの家の実践を通じて学習する 15 授業の総括 作業療法士は地域でどのような貢献ができるかを討議する 16 定期試験	備考 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義
<授業目標(GIO)> 精神障害者が地域での生活を継続するために必要な生活支援のあり方について、対人援助技術を踏まえ学習する 精神科領域における地域リハビリテーションの概要や制度・サービス等について学ぶ		
<行動目標(SBO)> 1 精神障害者に関する法制度の概要を説明できる 2 地域で生活する精神障害者に対する生活支援の概要を説明することができる 3 対人援助の基本原則について説明することができる 4 家族の問題と家族支援について説明することができる 5 精神障害者が活用できる社会資源を理解し、マネジメントすることができる		
<授業の留意点>		
<教科書> 生活を支援する 精神障害作業療法 第2版 ※精神障害治療学総論・各論で使用した教科書を使用します		
<参考書> ※精神障害治療学総論・各論で使用した教科書を使用します その他資料は教員が準備します		
成績評価 筆記試験:90%、課題レポート:10%		

※1 保健所で7年(精神保健業務) 介護老人保健施設で3年半

科目名			区分	
生活環境整備学			基礎 ・ 専門基礎	専門
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 ・ 実技	専任教員(※1)

<授業概要>		授業計画		備考
・バリアフリーとユニバーサルデザインの思想を理解し、心身機能・構造の補助、社会生活行為の補助手段を学ぶ。 ・福祉用具や機器の特性と使用方法を理解し、対象者の社会生活行為に適用する作業療法について学ぶ。 ・実践事例を通して作業療法評価、作業療法計画、作業療法実施とその経過記録、再評価までの過程を理解する。		1	住環境整備の概要について学習し、臨床現場におけるリハビリテーションについて学習する	講義
		2	施設編(居室)① できるだけ早く実施する環境整備と生活を見てから実施する環境整備について学習する	講義
		3	施設編(起居)② 自立を促す介護10か条を学習した上で、ベッド上での起居動作(寝返り・ベッド上での移動・起き上がり)の工夫や方法について学習する	講義
		4	施設編(移乗)③ いっぴん立ち上がりでの移乗や座位での移乗、さらに全介助による移乗の方法や環境面での工夫について学習する	講義
		5	施設編(移動)④ 移動(車椅子による移動、歩行による移動)や転倒予防に関する方法や環境面での工夫について学習する	講義
		6	施設編(食事)⑤ 食事の環境(食事の道具、人に関する環境)づくりの方法や工夫について学習する	講義
		7	施設編(排泄・入浴)⑥ トイレ環境の整備、排泄動作の介助、浴槽への出入り、浴槽内での安定のための方法や工夫について学習する	講義
		8	在宅編(在宅復帰への流れ)① テキスト内の具体的事例を用い、在宅復帰準備の流れとポイントについて学習する	講義
		9	在宅編(福祉用具と住宅改修・玄関)② 福祉用具と住宅改修導入のポイント(段差解消を中心に)について学習する	講義
		10	在宅編(排泄)③ トイレでの排泄及びトイレ以外での排泄の方法や環境面での工夫について学習する	講義
		11	在宅編(入浴)④ 着替え準備、浴室までの移動、脱衣所、浴室出入り口、浴槽への出入り等の動作方法や環境面での工夫について学習する	講義
		12	在宅編(チームアプローチ)⑤ テキスト内の具体的事例を用い、早期の自宅訪問による課題抽出と対応事例について学習する	講義
		13	シーティング① 標準型車椅子を用い、シーティング、メンテナンスについてその方法を学習した後、演習を行う	講義・演習
<授業目標(GIO)> ・心身障害者の社会生活行為を支援する補助手段と作業療法を学ぶ。 ・福祉用具と福祉機器の制度を知り、社会生活行為の補助手段について学ぶ。 ・個人生活行為における作業療法の補助手段を学ぶ。 ・住宅環境整備や福祉用具・自助具の必要なケースのケーススタディの作成について理解する。		14	シーティング② モジュラー型車椅子を用い、シーティングの演習を行う	演習
		15	在宅介護での自立支援のあり方① 住環境整備の意義、在宅介護の現状と問題点について学習する	講義
		16	在宅介護での自立支援のあり方② 移動能力の把握の重要性について学習する	講義
		17	建築に関する基礎知識 日本の住宅の特徴や建築基礎知識について学習する	講義
		18	住環境整備実践に必要な基礎知識 さまざまな図面とその意義について学習する	講義
		19	住環境整備の共通基本技術① A段差の解消の具体的方法について学習する	講義
		20	住環境整備の共通基本技術② B床材の選択C手すりの取付D建具への配慮の具体的方法について学習する	講義
		21	住環境整備の共通基本技術③ EスペースF家具・収納G色彩・照明、インテリアの具体的方法について学習する	講義
		22	住環境整備の共通基本技術④ H冷暖房I非常時J経費、維持管理の具体的方法について学習する	講義
		23	疾患別住環境整備概論① 脊髄損傷の特徴と住環境整備でのポイントについて学習する	講義
		24	疾患別住環境整備概論② 脳卒中の特徴と住環境整備でのポイントについて学習する	講義
		25	疾患別住環境整備概論③ リウマチの特徴と住環境整備でのポイントについて学習する	講義
		26	疾患別住環境整備概論④ 認知症の特徴と住環境整備でのポイントについて学習する	講義
		27	疾患別住環境整備概論⑤ その他パーキンソン、高齢者、廃用の特徴と住環境整備でのポイントについて学習する	講義
		28	疾患別住環境整備 各論 PT・OTのための住環境整備論のテキストを用い、より詳しく各疾患毎の住環境整備の方法についてレポートにまとめる	課題
		29	実践的に進める時の留意点や、説明の内容、現地調査の仕方、住環境整備の進め方について学習する	講義
<行動目標(SBO)> ・障害者への環境整備に関する法規を述べることができる ・ユニバーサルデザインの基本概念を述べることができる ・介護保険法に基づく福祉用具を貸与品目と給付品目に分けることができる ・福祉用具の定義を述べることができる ・標準型車椅子の部分の名称とともに、車椅子の使用法について説明できる ・杖と歩行器の使用法を他人に説明することができる ・作業療法において、経済的資源、人的資源、情報・文化的資源を活用して対象者を支援するよう点を説明できる ・機能的移動・食事・排泄・更衣、整容・入浴・衛生の補助手段の例について述べることができる ・住宅環境整備や福祉用具・自助具の必要なケースのケーススタディの作成の目的、内容、方法を説明できる		30	介護保険制度において住宅改修を行う際の手順とその方法注意点について学習する	講義
		31	定期試験	
<授業の留意点>		成績評価		
		筆記試験95%、レポート課題5%		
<教科書・参考書> ①「リハビリテーションからみた介護技術」、中央法規 ②「福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト」、東京商工会議所編 及び配布資料 ③OT・PTのための住環境整備論第2版、三輪書店				

※1 作業療法士として病院及び介護老人保健施設等で実務経験19年以上

科目名			区分	
評価実習Ⅰ(精神障害系)			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	135 (3)	講義 ・ 演習 ・ 実習	臨床実習指導者

<授業概要> 精神障害領域の作業療法を実践する精神科病院で行う、評価を中心とした3週間の実習である <授業目標(GIO)> 精神科作業療法評価のプロセスを身につける <行動目標(SBO)> 1. 評価を系統的に習得し、その技術や考察の方法を習得する 2. 実習施設における作業療法及び作業療法士の役割機能を学ぶ 3. 障害を持つ人に対する臨床家としての姿勢と、組織の一員としての姿勢を学ぶ <実習の留意点> ・臨床実習指導者の指導を良く聞くこと ・問題点は臨床実習指導者に確認すること ・課題の提出期限を厳守すること <教科書> 授業で使用した教科書等を参考にすること <参考書>	実習計画 2019年12月2日～2019年12月21日の3週間実施
	成績評価 成績報告:75%、報告会:25%

科目名			区分	
評価実習Ⅱ(身体障害系)			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	135 (3)	講義 ・ 演習 ・ 実習	臨床実習指導者

実習計画	
<授業概要> 身体障害領域の作業療法を実践する一般病院及び老人保健施設で行う、評価を中心とした3週間の実習である <授業目標(GIO)> 身体障害作業療法評価のプロセスを身につける <行動目標(SBO)> 1. 評価を系統的に習得し、その技術や考察の方法を習得する 2. 実習施設における作業療法及び作業療法士の役割機能を学ぶ 3. 障害を持つ人に対する臨床家としての姿勢と、組織の一員としての姿勢を学ぶ <実習の留意点> ・臨床実習指導者の指導を良く聞くこと ・問題点は臨床実習指導者に確認すること ・課題の提出期限を厳守すること <教科書> 授業で使用了教科書等を参考にすること <参考書>	2020年1月6日～2020年1月25日の3週間実施
成績評価	
成績報告:75%、報告会:25%	

科目名			区分	
長期実習 I			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
4年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	360 (8)	講義 ・ 演習 ・ 実習	臨床実習指導者 専任教員

<授業概要> 身体障害もしくは精神障害各領域における9週間の臨床実習である。	実習計画
<授業目標(GIO)> 人の心身の発達、構造について医学的、専門的知識から理解し、深い人間愛を持って対象者の抱える課題を把握し、治療し、社会への適応を援助していくために実践的研究的態度と能力を身につける。	
<行動目標(SBO)> ・臨床実習指導者の指導のもと、評価から治療および記録・報告など一貫した作業療法のプロセスを実践的に学び習得する ・学校において習得した教科、医学的、専門的な知識・理論を臨床の場で検証する ・社会人・職業人としての態度を習得する ・対象者およびそれを取り巻く人々の現実を広く理解する ・施設の管理運営、組織などについて認識を深め、作業療法士としての管理運営業務を学ぶ	
<授業の留意点> ・担当ケース1事例を症例レポートとしてまとめ、実習終了後に報告会レジュメとあわせて速やかに提出すること	2019年4月15日～2019年6月15日の9週間実施
<教科書>	
<参考書>	
	成績評価
	成績報告書:75%、症例報告会:25%

科目名			区分	
長期実習Ⅱ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
4年次	前期 後期 ・ 通年	360 (8)	講義 ・ 演習 ・ 実習	臨床実習指導者 専任教員

<授業概要> 身体障害もしくは精神障害各領域における8週間の臨床実習である。	実習計画	
<授業目標(GIO)> 人の心身の発達、構造について医学的、専門的知識から理解し、深い人間愛を持って対象者の抱える課題を把握し、治療し、社会への適応を援助していくために実践的研究的態度と能力を身につける		
<行動目標(SBO)> ・臨床実習指導者の指導のもと、評価から治療および記録・報告など一貫した作業療法のプロセスを実践的に学び習得する ・学校において習得した教科、医学的、専門的な知識・理論を臨床の場で検証する ・社会人・職業人としての態度を習得する ・対象者およびそれを取り巻く人々の現実を広く理解する ・施設の管理運営、組織などについて認識を深め、作業療法士としての管理運営業務を学ぶ		
<授業の留意点> ・担当ケース1事例を症例レポートとしてまとめ、実習終了後に報告会レジュメとあわせて速やかに提出すること	2019年6月24日～2019年8月17日の8週間実施	
<教科書>		
<参考書>		
	成績評価	
	成績報告書:75%、症例報告会:25%	

科目名			区分	
地域実習			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
4年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	135 (3)	講義 ・ 演習 ・ 実習	臨床実習指導者 専任教員

実習計画	
<授業概要> 地域領域における3週間の臨床実習である。	
<授業目標(GIO)> 長期実習Ⅰ期及びⅡ期から次のステップとして障害者(児)の地域生活を支えるための作業療法について学び、実践的研究的態度と能力を身につける。	
<行動目標(SBO)> ・臨床実習指導者の指導のもと、担当ケースを通して地域における作業療法の評価、治療、支援、記録、報告など一貫したプロセスを実践的に学び習得する ・地域における実習施設の役割、作業療法士の役割、他職種の役割について学び障害者(児)・家族の生活を支えるケアマネジメントの方法を習得する。 ・地域における他職種との連携について理解する ・対象者およびそれを取り巻く人々の現実を広く理解する ・主に介護保険下での施設の管理運営、組織などについて認識を深め、作業療法士としての管理運営業務を学ぶ	
<授業の留意点> ・担当ケース1事例を症例レポートとしてまとめ、実習終了後に速やかに提出すること	2019年8月26日～2019年9月14日の3週間実施
<教科書>	
<参考書>	
成績評価	
成績報告書:75%、症例報告会:25%	